

札幌市まちづくり戦略ビジョン
＜戦略編＞
パブリックコメント意見集

札幌市

目次

パブリックコメント手続	2
1 意見募集実施の概要	2
2 パブリックコメント（大人の意見）の内訳	2
3 キッズコメント（子どもの意見）の内訳	3
4 意見に基づく当初案からの変更点	4
5 パブリックコメント（大人の意見）の概要と それに対する札幌市の考え方	10
6 キッズコメント（子どもの意見）の主な意見の概要と それに対する札幌市の考え方	100

パブリックコメント手続

札幌市まちづくり戦略ビジョン（以下「戦略ビジョン」という。）のうち、主に行政が優先的・集中的に実施すべきことを記載した＜戦略編＞（案）について、平成25年7月16日（火）から平成25年8月14日（水）までの30日間、市民の皆様からのご意見を募集し、いただいたご意見を参考に、当初案を一部変更しました。

1 意見募集実施の概要

- (1) 意見募集期間
平成25年7月16日（火）から平成25年8月14日（水）まで
- (2) 意見提出方法
郵送、FAX、Eメール、ホームページ上の意見募集フォーム、持参
- (3) 資料の配布・閲覧場所
 - ・札幌市役所本庁舎
1階ロビー／2階市政刊行物コーナー／10階市長政策室政策企画部企画課
 - ・各区役所（総務企画課広聴係）
 - ・各まちづくりセンター
 - ・札幌エルプラザ
 - ・ちえりあ（札幌市生涯学習センター）
 - ・札幌市内各小中学校【子どもの意見募集用小冊子】
 - ・札幌市内児童会館【子どもの意見募集用小冊子】
 - ・札幌市ホームページ
- (4) 地域や経済界への説明など
 - ・各区連合町内会長会議等での説明（6月～8月）
 - ・大学生向けパブリックコメントワークショップの開催（7月16日、11大学45人参加）
 - ・北海道中小企業家同友会との意見交換（7月29日）
 - ・札幌商工会議所メールマガジンによる情報提供

2 パブリックコメント（大人の意見）の内訳

- (1) 意見提出者数・意見件数
252人・579件
- (2) 年代別内訳

年代	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明	合計
人数	22人	77人	19人	14人	10人	14人	47人	49人	252人
件数	63件	183件	53件	24件	21件	45件	101件	89件	579件

- (3) 提出方法別内訳

提出方法	持参	HP	郵送	Eメール	FAX	合計
提出者数	61人	19人	74人	36人	62人	252人
構成比	24.2%	7.5%	29.4%	14.3%	24.6%	100%

(4) 意見内訳

分類	件数	構成比
戦略編全体に対する意見	39	6.7%
第1章 創造戦略	442	76.3%
第1節 暮らし・コミュニティ	224	38.7%
創造戦略1 地域福祉力創造戦略	53	9.2%
創造戦略2 共生社会創造戦略	104	18.0%
創造戦略3 地域マネジメント創造戦略	67	11.6%
第2節 産業・活力	123	21.2%
創造戦略4 札幌型産業創造戦略	50	8.6%
創造戦略5 都市ブランド創造戦略	44	7.6%
創造戦略6 産業人材創造戦略	29	5.0%
第3節 低炭素社会・エネルギー転換	95	16.4%
創造戦略7 低炭素都市創造戦略	59	10.2%
創造戦略8 次世代型エネルギー創造戦略	36	6.2%
第2章 戦略を支える都市空間	66	11.4%
第3章 戦略の展開に当たって踏まえるべき行財政運営の視点	21	3.6%
その他	11	1.9%
合計	579	100.0%

※札幌市まちづくり戦略ビジョン<戦略編>の構成に沿って分類しています。

※構成比の算出は四捨五入しているため、合計値とその内訳の累計値とは一致しない場合があります。

3 キッズコメント（子どもの意見）の内訳

(1) 意見提出者数・件数

609人・1,093件

(2) 学年別内訳

学年	人数
小学4年生以下	216人
小学5年生	83人
小学6年生	89人
中学1年生	83人
中学2年生	81人
中学3年生	38人
不明	19人
合計	609人

(3) 主な意見内訳

分類	件数	構成比
戦略編全体に対する意見	13	1.2%
第1章 創造戦略	1,006	92.0%
第1節 暮らし・コミュニティ	445	40.7%
創造戦略1 地域福祉力創造戦略	121	11.1%
創造戦略2 共生社会創造戦略	283	25.9%
創造戦略3 地域マネジメント創造戦略	41	3.8%
第2節 産業・活力	142	13.0%
創造戦略4 札幌型産業創造戦略	70	6.4%
創造戦略5 都市ブランド創造戦略	51	4.7%
創造戦略6 産業人材創造戦略	21	1.9%
第3節 低炭素社会・エネルギー転換	419	38.3%
創造戦略7 低炭素都市創造戦略	230	21.0%
創造戦略8 次世代型エネルギー創造戦略	189	17.3%
第2章 戦略を支える都市空間	48	4.4%
第3章 戦略の展開に当たって踏まえるべき行財政運営の視点	11	1.0%
その他	15	1.4%
合計	1,093	100.0%

※札幌市まちづくり戦略ビジョン<戦略編>の構成に沿って分類しています。

※構成比の算出は四捨五入しているため、合計値とその内訳の累計値とは一致しない場合があります。

4 意見に基づく当初案からの変更点

市民の皆様からいただいたご意見をもとに、当初案から 19 項目修正いたしました。また、他のご意見についても、戦略ビジョンを推進する上で、可能な限り取り入れていきます。

箇所	修正前	修正後
<p>P8</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第1節 暮らし・コミュニティ</p> <p>1-① 市民の孤立を防ぐ 支え合いの環境づくり</p>	<p>(記載なし)</p>	<p>(脚注)</p> <p>【町内会】 <u>安全・安心で快適なまちを実現するために、地域住民の親睦や高齢者の見守り、子育てに関する活動を始めとして、除排雪、ごみステーションの管理、清掃活動、お祭りなど、地域で生活するために欠かすことができない活動を行っている住民等で組織される任意団体・地縁団体のこと。札幌市では、約65万世帯が加入している(平成25年1月1日現在)。</u></p>
<p>P10</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第1節 暮らし・コミュニティ</p> <p>1-① 市民の孤立を防ぐ 支え合いの環境づくり</p>	<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動に取り組む団体数を示す指標 ・福祉推進委員会を組織している単位町内会数 <p>1,176 団体 (平成 23 年度)</p> <p>1,300 団体 (平成 34 年度)</p>	<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動に取り組む団体の割合を示す指標 ・福祉推進委員会を組織している単位町内会の割合 <p>53.6% (平成 23 年度)</p> <p>59% (平成 34 年度)</p>
<p>P14</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第1節 暮らし・コミュニティ</p> <p>1-③ 災害に備えた地域 防災体制づくり</p>	<p><現状分析と施策の方向性></p> <p>地震などの大規模災害に備え、地域の避難場所における防災機能の向上に向けた環境整備を推進します。</p>	<p><現状分析と施策の方向性></p> <p>地震などの大規模災害や、水害等の地域特性に応じた災害の発生に備え、地域の避難場所における防災機能の向上に向けた環境整備を推進します。</p>
<p>P15</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第1節 暮らし・コミュニティ</p> <p>1-③ 災害に備えた地域 防災体制づくり (キッズコメント)</p>	<p>○防火・防災教育の推進</p> <p>将来の自主防災活動の担い手を育成するため、幼少年期から継続した防火・防災教育を推進します。</p>	<p>○防火・防災教育の推進</p> <p>将来の自主防災活動の担い手を育成するため、<u>災害時に主体的な行動ができるよう、成長段階に応じた災害活動支援教育の充実を図るなど、幼少年期から継続した防火・防災教育を推進します。</u></p>

箇所	修正前	修正後
<p>P22</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第1節 暮らし・コミュニティ</p> <p>2-② 子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり (キッズコメント)</p>	<p>○児童会館の活用促進</p> <p>子どもの多様な学びの機会の充実を図るため、地域の住民との交流を通じた学びの場として、児童会館の更なる活用を推進します。</p>	<p>○児童会館の活用促進</p> <p>子どもの多様な学びの機会の充実を図るため、<u>子ども自身がまちづくり活動に主体的に関わる機会の創出・拡大</u>や、地域の住民との交流を通じた学びの場として、児童会館の更なる活用を推進します。</p>
<p>P22</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第1節 暮らし・コミュニティ</p> <p>2-② 子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり</p> <p>P27</p> <p>3-① 地域活動を活発化する環境づくり</p>	<p>【学生や若者のまちづくり活動への参加促進】</p> <p>将来のまちづくりの担い手として、若者のまちづくり活動への参加機会を拡充するため、<u>区と大学との連携協定</u>の拡充などにより、学生や若者のまちづくり活動への参加を促進します。</p> <p>(記載なし)</p>	<p>【学生や若者のまちづくり活動への参加促進】</p> <p>将来のまちづくりの担い手として、若者のまちづくり活動への参加機会を拡充するため、<u>大学との連携協定の拡充</u>などにより、学生や若者のまちづくり活動への参加を促進します。</p> <p>○学生や若者のまちづくり活動への参加促進 (再掲 22 ページ)</p>
<p>P25、P75</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第1節 暮らし・コミュニティ</p> <p>2-③ 歩いて暮らせるまちづくり</p> <p>第3節 低炭素社会・エネルギー転換</p> <p>7-② 多様な活動を支える環境に優しい交通体系の確立</p>	<p><成果指標></p> <p>公共交通の利用者数</p> <p>現状値 <u>107万人</u> (平成 23 年度)</p> <p>目標値 <u>108万人</u> (平成 34 年度)</p>	<p><成果指標></p> <p>公共交通の利用者数</p> <p>現状値 <u>108万人/日</u> (平成 24 年度)</p> <p>目標値 <u>110万人/日</u> (平成 34 年度)</p>
<p>P38</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第2節 産業・活力</p> <p>4-① 食の魅力を生かした産業の高度化</p>	<p>○海外プロモーションの強化</p> <p>道産食品の重点的なブランド化を図るため、札幌コンテンツ特区を活用するなど、北海道の食の海外プロモーションを一層強化します。</p>	<p>○海外プロモーションの強化</p> <p>道産食品の重点的なブランド化を図るため、<u>イベントを活用した発信強化</u>や<u>外食産業の海外展開を支援するとともに、札幌コンテンツ特区を活用</u>するなど、北海道の食の海外プロモーションを一層強化します。</p>

箇所	修正前	修正後
<p>P40 第1章 創造戦略 第2節 産業・活力 4-② 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進 (キッズコメント)</p>	<p>(記載無し)</p>	<p>○様々な世代の視点を生かした魅力の向上 多様な観光ニーズに対応するため、子どもを含む様々な世代の視点を生かしながら、あらゆる世代が楽しめる札幌・北海道らしい魅力的な観光資源を発掘・創出し、その魅力を積極的に活用していきます。</p>
<p>P43 第1章 創造戦略 第2節 産業・活力 4-② 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進</p> <p>P59 5-④ シティプロモート戦略の積極展開</p>	<p><成果指標> ・観光地としての総合満足度 ・札幌市内での総観光消費額</p> <p><成果指標> ・観光地としての総合満足度 (再掲) ・年間来客数</p>	<p><成果指標> ・観光地としての総合満足度 ・札幌市内での総観光消費額 ・年間来客数</p> <p><成果指標> ・観光地としての総合満足度 (再掲) ・年間来客数 (再掲)</p>
<p>P66 第1章 創造戦略 第2節 産業・活力 6-② 誰もが活躍できる社会の実現</p>	<p>○多様な保育サービスの充実 子育てしながら働きたい女性の活躍を支援するため、認可保育所の整備を進めるとともに、地域型保育や休日保育を推進します。また、延長保育や一時預かりなどの地域子ども・子育て支援事業を拡充するほか、認定こども園への移行支援を行います。</p>	<p>○多様な保育サービスの充実 子育てしながら働きたい女性の活躍を支援するため、認可保育所の整備を進めるとともに、事業所内保育などの地域型保育や休日保育を推進します。また、延長保育や一時預かりなどの地域子ども・子育て支援事業を拡充するほか、認定こども園への移行支援を行います。</p>
<p>P66 第1章 創造戦略 第2節 産業・活力 6-② 誰もが活躍できる社会の実現</p>	<p>【ソーシャルビジネスなどの立ち上げ支援】 多様化する地域課題をビジネスの手法をとり入れて解決するとともに、就業機会の創出にもつながるソーシャルビジネスやコミュニティビジネスの活動を促進するため、経営相談・融資や助言者となる先輩起業家との出会いの場を提供するなど、その立ち上げを支援します。</p>	<p>【ソーシャルビジネスなどの立ち上げ支援】 多様化する地域課題をビジネスの手法をとり入れて解決するとともに、就業機会の創出にもつながるソーシャルビジネスやコミュニティビジネスの活動を促進するため、経営相談・融資に加え、助言者となる先輩起業家との出会いや起業家同士の交流の場を提供するなど、その立ち上げを支援します。</p>

箇所	修正前	修正後
<p>P74</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第3節 低炭素社会・エネルギー転換</p> <p>7-② 多様な活動を支える環境に優しい交通体系の確立</p>	<p>○安全な自転車利用に向けた取組の推進</p> <p>安全な自転車利用を促進するため、自転車利用に関するルール・マナーの周知・啓発や、自転車走行空間の明確化に向けた取組を推進します。</p>	<p>○安全な自転車利用に向けた取組の推進</p> <p>安全な自転車利用を促進するため、自転車利用者に対するルール・マナーの周知・啓発に加え、<u>自動車ドライバーに対しても自転車の車道走行に配慮する意識啓発を行うとともに</u>、自転車走行空間の明確化に向けた取組を推進します。</p>
<p>P75</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第3節 低炭素社会・エネルギー転換</p> <p>7-③ 自然との共生とみどり豊かな都市づくりの推進</p>	<p><現状分析と施策の方向性></p> <p>自然と共生したライフスタイルは札幌の魅力である一方で、自然環境を象徴するみどりの総量は減少傾向にあり、また、札幌市の市街化区域の緑被率は、政令指定都市の平均を下回っています。</p>	<p><現状分析と施策の方向性></p> <p>自然と共生したライフスタイルは札幌の魅力である一方で、自然環境を象徴するみどりの総量は、<u>開発などを要因として減少傾向にあり</u>、また、札幌市の市街化区域の緑被率は、政令指定都市の平均を下回っています。</p>
<p>P77</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第3節 低炭素社会・エネルギー転換</p> <p>7-③ 自然との共生とみどり豊かな都市づくりの推進</p> <p>(キッズコメント)</p>	<p>【公園の機能再編・再整備などの推進】</p> <p>市民の日常的な公園の利用を促進し、健康増進やコミュニティの活性化を一層図るため、都心周辺部などの既成市街地における公園整備や、地域特性・市民ニーズに応じた公園の機能再編・再整備に取り組み、持続可能な公園マネジメントを進めます。</p>	<p>【公園の機能再編や子どもの遊び場づくりの推進】</p> <p><u>○公園の機能再編・再整備などの推進</u></p> <p>市民の日常的な公園の利用を促進し、健康増進やコミュニティの活性化を一層図るため、都心周辺部などの既成市街地における公園整備や、地域特性・市民ニーズに応じた公園の機能再編・再整備に取り組み、持続可能な公園マネジメントを進めます。</p> <p><u>○子どもの主体性を育む遊び場づくりの推進</u></p> <p><u>子どもの自主性、創造性、協調性を育むために、子どもを見守るボランティアの養成などを通じて、既存の公園や公共空間などを活用しながら子どもが自由に遊べる場（プレーパークなど）の拡充を図ります。</u></p>

箇所	修正前	修正後
<p>P80</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第3節 低炭素社会・エネルギー転換</p> <p>8-① 次世代エネルギーシステムの普及促進</p> <p>P121</p> <p>第2章 戦略を支える都市空間</p> <p>4 持続可能な都市を支えるネットワーク</p> <p>(3) エネルギーネットワーク</p>	<p>【広域的な再生可能エネルギーの活用に向けた取組の推進】</p> <p>道内の豊富な再生可能エネルギーのポテンシャルを積極的に活用して、安定的なエネルギー供給を促進するため、札幌市近郊における再生可能エネルギー導入の支援や市民・事業者の出資によるファンドの設立を支援するとともに、風力・地熱・太陽光発電の広域的な活用の方向性の検討を進めます。</p> <p>○広域的な再生可能エネルギーの普及促進</p> <p>道内の豊富な再生可能エネルギーのポテンシャルを積極的に活用して、安定的なエネルギー供給を促進するため、札幌市近郊における再生可能エネルギー導入の支援や風力・地熱・太陽光発電の広域的な活用の方向性の検討を進めます。</p>	<p>【広域的な再生可能エネルギーの活用に向けた取組の推進】</p> <p>道内の豊富な再生可能エネルギーのポテンシャルを積極的に活用して、安定的なエネルギー供給を促進するため、札幌市近郊における再生可能エネルギー導入の支援や市民・事業者の出資によるファンドの設立を支援するとともに、風力・地熱・太陽光発電、<u>バイオマスの熱利用</u>などの広域的な活用の方向性の検討を進めます。</p> <p>○広域的な再生可能エネルギーの普及促進</p> <p>道内の豊富な再生可能エネルギーのポテンシャルを積極的に活用して、安定的なエネルギー供給を促進するため、札幌市近郊における再生可能エネルギー導入の支援や風力・地熱・太陽光発電、<u>バイオマスの熱利用</u>などの広域的な活用の方向性の検討を進めます。</p>
<p>P84</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第3節 低炭素社会・エネルギー転換</p> <p>8-③ 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進</p>	<p>○市有施設への再生可能エネルギーシステムなどの積極的な導入</p> <p>市民の省エネ意識の醸成を図るため、市有施設へ太陽光発電等の再生可能エネルギーやLED照明などを積極的に導入します。</p>	<p>○市有施設への再生可能エネルギーシステムなどの積極的な導入</p> <p>市民の省エネ・<u>創エネ</u>意識の醸成を図るため、市有施設へ太陽光発電等の再生可能エネルギーやLED照明、<u>分散型電源</u>などを積極的に導入します。</p>
<p>P84</p> <p>第1章 創造戦略</p> <p>第3節 低炭素社会・エネルギー転換</p> <p>8-③ 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進</p> <p>(キッズコメント)</p>	<p>○環境教育の推進</p> <p>環境に配慮したライフスタイルの定着を促進するため、学校や青少年科学館、円山動物園（次世代エネルギーパーク）における環境教育を推進します。</p>	<p>○環境教育の推進</p> <p>環境に配慮したライフスタイルの定着を促進するため、学校や青少年科学館、円山動物園（次世代エネルギーパークなど）における環境教育を推進するとともに、<u>子どもたちが体験を通じて、考えながら学び、実践していくための学習機能の強化</u>を図ります。</p>

箇所	修正前	修正後
<p>P114</p> <p>第2章 戦略を支える都市空間</p> <p>3 多様な交流を支える交流拠点</p> <p>(2) 高次機能交流拠点</p>	<p>「モエレ沼公園・サッポロさとらんど周辺」</p> <p>文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動など、市民や来訪者の創造性を刺激する多様な活動の拠点として、水辺や農地を生かした良好な空間の更なる活用を図ります。</p>	<p>「モエレ沼公園・サッポロさとらんど周辺」</p> <p>文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動など、市民や来訪者の創造性を刺激する多様な活動の拠点として、水辺や農地、<u>埋蔵文化財</u>などを生かした良好な空間の更なる活用を図ります。</p>

5 パブリックコメント(大人の意見)の概要とそれに対する札幌市の考え方

意見の概要	市の考え方
-------	-------

戦略編全般に関する意見

<p>○人口減少への対策ではなく、減らさない方策を考えるべき。学校の空き施設を保育園などに活用できないか。</p>	<p>人口減少をできる限り緩和していくことが重要であると認識しており、創造戦略2-②において、保育サービスの充実や、小学校と児童会館の併設化などにより、子育て家庭への支援の充実を図ることとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考にいたします。</p>
<p>○将来の見通しと課題にある「人口減少や少子高齢化」については、全国共通の課題であり、ここからスタートするとマイナスを消すための計画となってしまうため、マイナス要因がかすむくらい、強みや魅力を成長・拡大・発展させることが何より大切である。</p>	<p>ご意見のとおり、札幌の強みや魅力を生かしたまちづくりは重要と認識しています。</p> <p>そこで、この戦略ビジョンでは、人口減少などパラダイムの転換が必要な3つの分野について、札幌の強みや特性を生かしながら、重点的に取り組むべき施策の方向性を設定しています。</p>
<p>○札幌市の人口、特に生産人口がこんなに減少することを初めて知り驚いた。様々な方面への影響を初めて知り、具体案を思いつくことはできなかったが、多方面からのアプローチ、連携が欠かせないと考える。</p>	<p>人口減少による様々な課題を克服していくことが重要であると認識しています。</p> <p>そのため、札幌ならではの強みと弱みを踏まえた戦略設定のための分析(SWOT分析)を行った上で、時代の変化に的確に対応するための8つの創造戦略を設定し、着実に取り組んでいくことで、将来を担う子どもたちのために輝かしい未来を創造していきます。</p>
<p>○生産年齢人口の減少については、企業の経営悪化による若者の採用及び障がいのある方の採用をしないのが問題である。 (類似意見1件)</p>	<p>ご意見のとおり、生産年齢人口の減少に対応していくことが重要と認識しており、この戦略ビジョンでは、若者や障がいのある方を含め、雇用の創出や確保に向けた支援を充実していくこととしています。</p>
<p>○やることが多いので、項目ごとに優先順位をつけるべき。</p>	<p>戦略編においては、実現性を確保するための目安としてロードマップを設定し、これに基づき、明確な進捗管理を行ってまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○「パラダイムの転換」とまで言っておきながら、迫力に欠けており、もっと挑戦的・挑発的であって良い。課題を解決していくためには、一方を選び一方は切り捨てるといった方向性をもっと明確にしても良いのではないか。</p>	<p>この戦略ビジョンでは、人口減少などパラダイムの転換が必要な3つの分野について、重点的に取り組むべき施策の方向性を設定しています。</p> <p>また、施策の展開に当たって、さらに方向性を明確にすべきテーマについては、徹底的な市民議論を行うことなどにより、市民自治を更に深化させながら進めてまいります。</p>
<p>○札幌市の既存の計画などが、戦略ビジョンとどのように関連するのかが明記されていない。例えば「札幌市教育振興基本計画」など、各部署の部門別計画の位置付けや関連性などを図式で本計画に明記すべき。 (類似意見2件)</p>	<p>全ての部門別計画は、この戦略ビジョンに基づき策定されるものであるとの位置付けを<ビジョン編>に明記しています。</p> <p>したがって、「札幌市教育振興基本計画」など各部署が策定する計画は、戦略ビジョンとの整合性に配慮しつつ、それぞれの分野をより具体化し、補完する関係にあります。</p>
<p>○創造戦略間の関連性を考慮しながら有機的に戦略を展開させていくことを本計画に明記すべき。</p>	<p>各創造戦略に記載している主な取組の中では、他の創造戦略の取組を再掲するなど、連携した取組により目標を実現してまいりたいと考えています。</p>
<p>○従来の長期総合計画と比べて、3つの分野に分類するなど分かりやすくなった。計画策定後も市民の関心を得ていくよう活用してほしい。</p>	<p>(原案賛成意見)</p>
<p>○言葉が難しいので、市民向けの簡略版のようなものがあると良いと思う。</p> <p>○冊子が読みにくい。もっと、若い人もそれ以外の人も進んで見るような感じの方が良いと思う。 (類似意見3件)</p>	<p>戦略編は、できるだけ分かりやすい言葉や表現による記載に努めているほか、専門用語には脚注を付記しています。</p> <p>また、今後は本書を簡略化したより分かりやすいパンフレットを作成し、普及に努めてまいります。</p>
<p>○戦略としては、創造戦略1～8の区分は細かすぎるのではないか。「市民生活・市民社会」「経済・産業」「環境・エネルギー」というような大きな括りの中に細目を置くスタイルが理解しやすい。</p> <p>観光など経済においても国際交流を戦略課題・テーマに入れるべきではないか。従来のような友好都市というレベルでなく、地域づくり・活性化の実質的果実が双方で得られるようなものとすべき。</p>	<p>創造戦略の設定においては、パラダイムの転換が求められる3つのテーマを掲げた上で、そのテーマに沿った戦略を2ないし3つ設定しました。</p> <p>また、「国際」に関しては、創造戦略5において、国際戦略の積極展開を掲げています。</p>

意見の概要	市の考え方
○戦略編の3つのテーマと8つの創造戦略の関係性が分かりづらい。	戦略編第1章の冒頭において、第1節「暮らし・コミュニティ」、第2節「産業・活力」、第3節「低炭素社会・エネルギー転換」のテーマごとに、関係する創造戦略を明示しています。
○特に踏まえるべき重要な視点である第3章をより前面に出して説明すべき。	戦略編では、第1章において「選択と集中」の考えを取り入れた創造戦略を示し、第2章では戦略を促進する都市整備の基本方針として「戦略を支える都市空間」を示しています。 そして、これらの取組を効果的に進めていくための「行財政運営の視点」を第3章に示しています。
○先進事例や成功例なども載せた方が良いのではないか。	いただいたご意見は、今後、普及啓発の取組を進める際の参考にいたします。
○並行して取り組むべき事業については、ロードマップを2段で表現してはどうか。	ロードマップについては、掲載している主な取組に関する主要な項目を抜粋し、できるだけ簡素化して表記しています。
○戦略という表現について、この言葉以外にないものか。とても気になる。	戦略という表現については、人口減少などのパラダイムの転換が求められる課題に対して、選択と集中の考え方などにより、立ち向かい、進むべき方向性を定めることを簡潔に表したものです。
○超高齢化社会は今に始まったことではなく、高齢者は長生きしてはいけないと思うので、文言を削除すべき。	高齢化率は平成27年からの10年間で、25.1%から30.5%へと上昇する見込みであり、加えて平成37年にはおおむね8世帯に1世帯が単身高齢世帯となる見込みであることを<ビジョン編>第2章で示しています。 また、<戦略編>では、この高齢化の急速な進行について、パラダイムの転換が求められる課題の一つとして捉え、高齢者の方々も含め、市民のみなさんが安心して暮らしていくことを、戦略的に取り組むべきまちづくりのテーマとして導き出しています。

意見の概要	市の考え方
<p>○目標から今後 10 年間の取組まで、予算や具体の事業などの説明があると良い。</p>	<p>戦略編では、今後 10 年間の目指すべき姿とその実現に向けた施策の方向性や、戦略の展開に当たって踏まえるべき行財政運営の視点などを記載しており、具体的な事業などについては、中期実施計画や各分野における個別計画の中で検討していきます。</p>
<p>○「戦略編は主に行政が優先的・主体的に実施すべきことを記載している」とあるが、「行政」の示すものが単に市長部局のみなのか、それとも教育委員会など他の執行機関をも含むものなのか曖昧。「行政」の示す範囲を本計画で明示する必要がある。</p>	<p>この戦略ビジョンは、札幌市全体の行政計画であり、教育委員会を始めとする行政委員会などの他の執行機関も含まれるものです。</p>
<p>○戦略ビジョンの推進に向けて、市職員への研修をぜひ行ってほしい。 (類似意見 1 件)</p>	<p>戦略ビジョンの推進に当たっては、職員向けの研修などを通じて認識の共有化を図り、着実に実施していくこととしています。</p>
<p>○計画の実行は早く進めるべき。</p>	<p>戦略の展開に当たっては、目標とする成果指標やロードマップを設定し、明確な進捗管理を行った上で、着実に推進していくこととしています。</p>
<p>○ビジョンなりプランは、計画初年度に何をするか、何ができるか、何をみせられるかが非常に大切である。この戦略ビジョンは、出来上がった時にはスタート時からほぼ 1 年は過ぎていることになるのはお粗末すぎないか。</p>	<p>戦略ビジョンの策定に当たっては、有識者等で構成する「札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会」での審議の中で、目指すべき都市像や基本目標などをまとめた<ビジョン編>と、都市像を実現するための戦略的な取組をまとめた<戦略編>に分けることとしたものです。</p> <p>なお、<ビジョン編>については、平成 25 年 2 月に策定しており、先行して実施できる取組については平成 25 年度予算に計上し、実行しています。</p>
<p>○本当に市民の声を尊重して作っているならば、構想をつくるところから市民の声を反映させていかなければならないのではないかと。一部の市民だけが反応する方法で意見を集めても、市民の声とならないのではないかと。</p>	<p>戦略ビジョンの策定に当たっては、今回のパブリックコメントのほか、平成 23 年度から市民会議での議論やワールドカフェ、ワークショップなどを開催し、できるだけ多くの市民の皆さまのご意見をいただきながら、策定を進めてきたところであります。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○今回のパブコメの募集期間が、まちづくりを考 える期間としては短いと思う。このように市民 に大きく関わる政策に対して期間を延長するこ とはできないのか。また、資料の閲覧配布を市 役所・区役所等・WEB 上だけでは市民の目に つかないことも多いと思う。</p>	<p>パブリックコメントの募集期間については、「札 幌市パブリックコメント手続きに関する要綱」に 基づき設定しました。</p> <p>また、資料の閲覧配布については、市役所・区 役所等・WEB の他、各まちづくりセンターや札幌 エルプラザなどでも配布するとともに、広報テレ ビ番組やラジオ番組での紹介、市民参加メルマガ 「さっぽろ市民参加メール」、札幌商工会議所のメ ルマガなどでも周知を図ってきました。</p> <p>なお、パブコメ募集期間の延長に関するご意見 については、今後の参考にいたします。</p>
<p>○成果指標の目標値があまりにも低い。もっと高 い次元を目標にして努力すべき。</p>	<p>成果指標については、現状値や過去からの傾向 を分析した上で、今後10年間の施策の方向性に沿っ た取組によって解決すべき努力目標的な要素を加 味した上で設定しています。</p>
<p>○将来を語るのであれば、ある程度の仮定（説） も踏まえるべきかもしれない。</p>	<p>第1章創造戦略においては、社会経済情勢の変 化や札幌ならではの強みと弱みを踏まえた SWOT 分析を行っており、一定の仮定も踏まえた戦略の 設定を行っています。</p>
<p>○東京の真似をするようなまちづくりをしている と思える。札幌には札幌の、東京には東京の歴 史が積み重ねられているのであり、街は一つと して同じものはない。しかし、今の札幌の街の 在り方は、東京に倣って作られているように思 われ、既視感のようなものを感じる。</p>	<p>札幌は、四季が明瞭で多雪寒冷な気候であるこ とや、自然災害が少ないこと、また、北海道が有 する豊かな食に恵まれていることなど、独自の都 市環境を持ち合わせていると認識しており、これ らの特徴や強みを生かしたまちづくりを進めてま いります。</p>
<p>○ビジョン編の基本理念「札幌の未来をつなぐ子 どもたちのために」が戦略編ではあまり反映さ れていない。</p>	<p><ビジョン編>第5章では、戦略ビジョン全体を 推進していく上での基本的な理念として「札幌の 未来をつなぐ子どもたちのために」を掲げており、 戦略編の展開に当たっても、この理念をしっかりと 認識しながら推進していくこととしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○よく調査されていて敬意を表します。 参考にされた文献を教えてください。</p>	<p>戦略ビジョンの策定に当たっては、有識者等で構成する「札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会」での議論を踏まえており、特定の文献を参考にしているものではありません。 なお、データ等については、出典を明記しています。</p>
<p>○SWOT分析について、マトリクスの「脅威×弱み」の枠が空白のテーマがあるのはなぜか。弱みを克服して最悪の事態を招かないようにするための施策を検討することも必要ではないか。</p>	<p>SWOT分析の設定に当たっては、弱みと脅威で最悪の事態を招かないように、事前に強みで脅威を克服することや弱みを克服して機会を逃さないように設定しております。</p>
<p>○全体としてこのまちづくり戦略ビジョンはとてもよく作られていると感じる。このビジョン実現の方策について、「図書館」機能の活用を盛り込むべき。</p>	<p>ご提案のとおり、市民に広く情報の存在を知らせるための仕組みづくりは重要だと認識しています。 そこで、戦略ビジョンの個別部門計画である「第2次札幌市図書館ビジョン」では、今後の図書館を「地域を支える情報拠点」として位置付けております。 いただいたご意見は、今後の図書館を活用した情報提供の在り方を検討する際に参考とさせていただきます。</p>

第1章 創造戦略

第1節「暮らし・コミュニティ」

創造戦略 1 地域福祉力創造戦略	
1-① 市民の孤立を防ぐ支え合いの環境づくり	
<p>○日常的な見守り活動の推進について、先駆的な取組の紹介やマニュアル作成などがあるが、各地区の現状を把握し、それに合わせた支援が必要ではないか。</p>	<p>地域における日常的な見守り活動の推進に当たっては、創造戦略 1-①において、区役所、まちづくりセンター、社会福祉協議会による各活動主体の実情に合った支援・調整機能を強化していくこととしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○地域福祉は距離的な要素が重要であり、自分たちの町内会の範囲の中でお互いの情報交換をしながら進めていくべき。</p> <p>○地区福祉のまち推進センターの活性化を図るには、町内会レベルで活性化する必要がある。</p>	<p>日常적인見守りを始めとする地域福祉活動については、創造戦略 1-①において単位町内会レベルの小地域の範囲で推進することとしています。</p>
<p>○地区福祉のまち推進センターやまちづくりセンターなどの施設があるのは知っていても、なかなか利用する気にはならない。</p>	<p>より多くの市民に活動内容等への理解が得られ、利用しやすくなるよう、広報などによる普及に取り組んでいきます。</p>
<p>○人と接することを避ける孤立死が問題。ノーマライゼーションの社会とビジネスモデルを確立することが重要。</p> <p>○どんな人でも孤立はおきるので、個性を生かして生活できる社会環境が必要だと思う。</p>	<p>市民の孤立防止に向けて、身近な地域における住民同士の見守りや支え合いを推進するとともに、誰もがお互いを認め合いながら共に暮らす共生のまちづくりを進めることとしています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○民生委員はもっと増やすべきである。</p>	<p>民生委員・児童委員は、厚生労働大臣から委嘱され、それぞれの担当地区の中で生活や子ども、福祉等の相談を行うなど、関係行政機関と地域の皆さんとのパイプ役として活動しています。定数については、厚生労働大臣の定める基準に従って地域の意見も踏まえ定められています。</p>
<p>○町内会、民生委員、地区福祉のまち推進センターの連携を進めるためには、個人情報の守秘義務の問題を解決しなければ困難である。本当の災害時にはプライバシーなどと言っていないのではないか。</p> <p>(類似意見 7 件)</p>	<p>地域の活動主体間における連携体制の構築に当たっては、個人情報に関する取扱いルールを確立させ、町内会、民生委員、地区福祉のまち推進センター等の情報共有化を推進することとしています。</p> <p>なお、国の災害対策基本法においては、避難行動要支援者名簿を作成し、発災時等において活用することとしており、具体的な取組については国の動向なども踏まえながら検討していきます。</p>
<p>○孤立防止に向けて、民生委員と地区福祉のまち推進センターが町内会と一緒に取り組んでいくことが重要であり、それぞれの団体に理解してもらう必要がある。</p> <p>(類似意見 3 件)</p>	<p>地域における見守り活動などの推進に当たっては、多様な活動主体同士の連携が重要であり、創造戦略 1-①において、地域の重層的な見守り体制を構築するため、民生委員や地区福祉のまち推進センター等による地域福祉のネットワーク化を推進することとしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○地域での見守りは、定期的な訪問なら町内会でもできるが毎日は無理なので行政が民間に委託して安否確認をやってもらおうと助かる。</p>	<p>地域における見守り活動の推進に当たっては、企業を含めた多様な活動主体同士の連携が重要であり、創造戦略 1-①において、地域の重層的な見守り体制を構築するため、地域福祉のネットワーク化を推進することとしています。</p>
<p>○見守り体制については、自主制なのか、関与体制なのか。</p>	<p>地域の重層的な見守り体制を構築するため、区役所、まちづくりセンター、社会福祉協議会による一体的な支援・調整機能の強化を通じて、民生委員や地区福祉のまち推進センターなどの多様な活動主体による地域福祉のネットワーク化を推進します。</p>
<p>○地域福祉活動に取り組む団体数を示す指標について、団体数ではどのくらいの団体数があるか、そのうち何団体が取り組んでいるかが分かりづらいので、指標を「福祉推進委員会を組織している単位町内会の割合」としてはどうか。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、成果指標を一部修正しました。</p>
<p>1-② 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり</p>	
<p>○自ら支援にたどり着けない市民が増加すると明記した根拠は何か。</p>	<p>今後 10 年間で高齢者が大幅に増加することが見込まれていることに加え、平成 37 年にはおおむね 8 世帯に 1 世帯が高齢単身世帯となる見込みであることから、様々な困り事が生じた際に相談先がない高齢者等の増加を懸念して記載したものです。</p> <p>また、成果指標として、「生活や健康福祉に関して困っていることや相談したいことの相談先がない高齢者の割合」を設定しています。</p>
<p>○地区福祉のまち推進センターはボランティア組織のため、市民の孤立を防ぐためには専門職を置く必要があるのではないか。</p>	<p>市民の孤立を防ぐ地域づくりに向けては、地区福祉のまち推進センターの活動の活性化など地域内での共助を推進するとともに、区役所の保健師による訪問相談など公助の充実を図ることとしており、市民の自主的な地域福祉活動のサポートを行っていきます。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○保健師等による要支援者への訪問相談など、個別支援の強化については良いと考えるが、保健師の業務量も増え、全てに対応するのが難しくなることも予測されるため、民生委員や町内会長と年に数回、まちづくりセンター等で顔合わせして一緒に支援を考えたり、ボランティアの協力を得て、見守りの必要性を研修し、人材育成を図るなど、連携しながら進めてほしい。</p>	<p>要支援者に対する個別支援の充実を図るためには、地域で見守り活動などを行う民生委員や地区福祉のまち推進センター、町内会などとの連携が必要不可欠であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○これから一人暮らしの高齢者がもっと増えると思うので、支援・対策の強化を希望。公営の老人施設を増やしてほしい。</p>	<p>高齢単身世帯の増加等に伴う相談・支援体制の充実は重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○国では地域包括支援センターを地域福祉ネットワークの中核として位置付けているが、札幌市ではどのように活用してネットワーク化を図っていくつもりなのか。</p>	<p>地域福祉における地域包括支援センターの役割は、介護予防支援の拠点として非常に重要であると認識しています。</p> <p>このため、創造戦略 1-②において、区役所や医療機関、障がい者相談支援事業所などとのネットワークを強化していくこととしています。</p>
<p>○高齢者も障がいのある方も必要なサービス量を確保（支給）できるようにしてほしい。障がいのある方が65歳になると、介護保険が優先になり、利用料の負担が多くなるのと、サービス量が少なくなることもあるので、65歳になっても障がいのある方のサービスを継続して使えるようにしてほしい。</p>	<p>高齢者や障がいのある方等が地域で必要な保健福祉サービスが受けられる環境づくりが重要であると認識しており、適切なサービス量の確保やサービス提供体制の充実に努めてまいります。</p> <p>なお、介護保険の優先は、障がい者総合支援法に定められておりますが、障がいの特性等に応じて、障害福祉サービスを併せてご利用いただくことができます。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○特別養護老人ホームの待機者の問題は深刻な状況であり、地方自治体が健康福祉に果たす役割はますます大きくなると思うので、健康福祉は札幌市の4つの重点施策の一つでもあることから、ぜひ思い切った予算と人材の投入で選択と集中を図り、「お年寄りが全国で一番暮らしやすい大都市」という旗を札幌市が立てることを提案したい。</p>	<p>高齢化の進行に伴い、要介護者の増加も見込まれることから、特別養護老人ホームを始めとした高齢保健福祉サービスについて、市民負担も考慮しながら適切なサービス量の確保やサービス提供体制の充実を図っていくことが重要であると認識しています。</p> <p>いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。</p>
<p>○メンタルクリニックに通院していても夜間休日における精神科救急の際に困ることがないようにしてほしい。</p>	<p>精神科救急医療を含め、誰もが必要な医療を受けられる環境づくりを推進することが重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○70歳以上の医療費に係る自己負担割合については、段階的ではなくすぐに2割に戻した方が良いと思う。</p>	<p>医療費の自己負担割合を始めとする制度そのものについては、国で定めるものであり、本市でも動向を注視しています。</p> <p>また、制度の運用も大事ですが、健康で長生きすることが大切であり、本市としても市民と一緒に健康づくりの取組を推進していきたいと考えています。</p>
<p>○高齢化に対応するには看護師などの賃金、労働環境を上げるしかないと思う。</p>	<p>高齢者や障がいのある方等の地域生活や在宅介護などを支える環境づくりを進めていくことは重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>1-③ 災害に備えた地域防災体制づくり</p>	
<p>○札幌は過去30年で地震が少ないからといって「自然災害が比較的少ない」と主張するのはナンセンスである。</p> <p>自然災害への備えや対策は、もっと長いスパンで考えるべきだというのが、3.11以降の反省点だったのではないかと。もっと説得力のあるデータや知見を盛り込むべき。</p>	<p>自然災害の統計データについては、他都市で掲載しているデータなどを参考に、〈ビジョン編〉に「過去30年間の震度3以上の地震回数」を掲載していますが、災害対策については、最新の知見を取り入れながら地域防災計画を見直すなど、しっかりと行っているところです。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○災害対策については、非現実的な対策になりやすいので、主体を明確にした実行計画が必要。</p>	<p>東日本大震災を踏まえ、市民、企業、行政が連携した防災協働体制づくりの推進が重要であると認識しており、創造戦略 1-③において、実践的な地域防災体制づくりを進めることとしています。</p>
<p>○過去に札幌では大きな水害があった。本州でも普通は考えられないような災害が発生している。海外では道路の中にパネルを作って水害を防ぐ施設がある。災害を防ぐ仕組みづくりを考えてほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、様々な災害の発生を想定して防災対策を推進していくことは重要であると認識しており、第 2 章第 3 節 5 「都市基盤の維持・保全と防災力の強化」において、災害に強い都市の構築について記載していますが、いただいたご意見を踏まえ、「施策の方向性」の表現を一部修正しました。</p>
<p>○手稲区は海に面していて津波のおそれがある。札幌市としてどう考えているのか。</p>	<p>現時点では、北海道の津波被害想定で、札幌市域の被害は想定されておりませんが、現在、北海道で津波被害想定の見直しの調査を進めているところであり、調査結果が判明次第、適切に対応してまいります。</p>
<p>○備蓄に関する基本的な整備方針を早急に策定すべき。</p>	<p>「札幌市地域防災計画」（平成 22 年度策定）に基づき、応急救援備蓄物資の配置方法等、備えるべき機能目標を設定し、その整備方針を定めた「札幌市避難場所基本計画」を平成 24 年度に策定しています。</p> <p>この計画では、発災直後に必要不可欠となる寒さ対策、食糧対策、トイレ対策、照明対策に係る備蓄物資を整備することとしております。</p> <p>また、限られた資源を効果的に活用するために、災害対応拠点であり備蓄物資の供給元となる小中学校等の基幹避難所に備蓄物資を分散して配置するとともに、被害集中地域へ速やかに供給するため市内数力所に整備する拠点倉庫へも備蓄物資を保管することとしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○避難所となる学校に、停電時の仮設電源を設置すべき。 (類似意見 1 件)</p>	<p>「札幌市地域防災計画」において、発災直後の市内の停電率を 17.8%と想定していますが、1 日後には 2.5%まで復旧すると想定しているため、「札幌市避難場所基本計画」では、短期的な停電に対応する照明対策を基本としています。</p> <p>ただし、長期にわたる停電への対策も必要であることから、可搬型発電機と投光器を拠点倉庫に備蓄することとしています。</p>
<p>○震災に備え、備蓄物資の確保を速やかに行うとともに、具体的な数量の決定等も併せて行うようにした方が良い。</p>	<p>「札幌市避難場所基本計画」では、寝袋・毛布・移動式灯油ストーブなど寒さ対策に係るものと食糧について、具体的な備蓄目標数を定めています。その他の備蓄物資の目標数と整備スケジュールについては、今年度策定する実施プランで定める予定です。</p>
<p>○物資は全て新品を購入しているのか。毛布など家庭で使われなくなっている使用可能なものを利用するといった方法は取っているのか。また、食料等の期限があるものはその期限が近づいたらどうしているのか。備蓄物資の購入・保管・入れ替えについてのお金の流れとサイクルを明示すべき。</p>	<p>備蓄物資について、発災直後に必要となる食糧、水等は、「札幌市地域防災計画」で発災後 3 日間分の家庭内備蓄及び流通備蓄による調達を基本としており、札幌市は、発災初期に必要不可欠となる備蓄物資を整備しています。食糧は賞味期限が 5 年のものを毎年度購入しており、賞味期限が切れる年度のものは、災害備蓄物資の普及啓発を目的として訓練、研修、イベントなどで配布して活用しています。</p> <p>なお、寝袋と毛布については、保管スペースの問題から、真空パックの上、梱包したものを備蓄しています。</p> <p>また、災害時に活用できる不要物品については、各家庭や地域で備蓄をお願いしたいと考えています。</p>
<p>○「小中学校などに備蓄物資を拡充」とあるが、近隣の医療・福祉施設の分を含め、その近域にいる人全体の対応を考慮すべき。</p>	<p>札幌市では、発災初期に必要不可欠となる備蓄物資を整備することとしています。備蓄数量としては、想定最大避難者数（110,700 人）を基本とし、食糧については、過去の震災のデータを基に、近隣住民分を含め避難者数の約 2 割増しとしています。</p> <p>これら備蓄物資を市立小中学校等の基幹避難所に分散配置することとしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○小中学校に食糧などの備蓄物資を拡充するのは良いが、食糧備蓄は自分たちでやらなければならない事を訴えるべき。</p>	<p>発災直後に必要となる食糧、水等は、「札幌市地域防災計画」で発災後3日間分の家庭内備蓄及び流通備蓄による調達を基本としており、ご意見のとおり、災害の発生時には、まずは自分や家族の身を自ら守る自助が重要であると認識しています。</p> <p>そこで、札幌市では啓発用パンフレットや出前講座を通じて家庭での水や食糧の備蓄をお願いしており、今後とも更なる啓発に努めてまいります。</p>
<p>○冬に災害が起きた場合、避難所となる学校内に早く入れてもらえるようにしておくことが重要である。</p>	<p>季節を問わず、休日・夜間等の学校の業務時間外に大規模な地震が発生した場合は、学校の職員が鍵を開ける体制としています。</p>
<p>○避難場所となる体育館が3階や4階にある学校では、お年寄りの避難が非常に困難である。</p>	<p>地震などの災害に備え、地域の避難場所における防災機能の充実を図ることが重要であると認識しています。</p> <p>そこで、創造戦略1-③において、避難場所となる学校施設のバリアフリー化を進めることとしており、改築に合わせて、エレベーターの設置に努めてまいります。</p> <p>また、「札幌市避難場所基本計画」では、校舎1階の教室等を災害時要援護者用として、あらかじめ指定し優先的に提供することとしています。</p>
<p>○防災関係の部署と災害時要援護者支援の担当部署が連携を図りながら、総合的に展開すべき。</p>	<p>防災部署と災害時要援護者の担当部署が連携して、「災害時要援護者避難支援ガイドライン」を策定するなど、災害時要援護者の避難支援体制の充実を図っています。</p>
<p>○自宅の防災対策・家庭内備蓄をしなければならぬと分かっているにもかかわらず、具体的に何をしたら良いのか分からないため、防災対策マニュアルを各町内会ごとに作成すべき。区ごとなどの大きい分割では避難経路などにばらつきが出るので、細かく作る必要がある。</p>	<p>ご意見のとおり、災害に備えた自助、共助に基づく地域の防災力強化を図ることは重要であると認識しており、創造戦略1-③において、防火・防災教育の充実を図ることとしています。</p> <p>また、防災マニュアルの作成など地域の特性や実情に合わせた具体的な取組については、従来から、区役所において防災リーダー研修の実施など、地域防災活動推進のための支援を行ってまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○災害が発生したときに、どのように動いたら良 いかを広報してほしい。</p>	<p>災害時取るべき行動については、啓発用パン フレットの配布やDVDの貸出、出前講座等を通 じて啓発に取り組んでおり、今後とも、充実に努 めてまいります。</p>
<p>○災害時は電話もネットワークも回線が混雑する ことが予想される中、どのようにして災害時の 伝達体制を確保するのが大切である。</p>	<p>ご意見のとおり、災害発生直後の情報伝達体制 の確保は重要であると認識しています。</p> <p>そこで、通信体制については、事業者とも協力 しながら適切な手段の確保に努めることとしてい ますが、具体的な取組については、いただいたご 意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○避難所には様々な市民が避難するので、例えば 障がいのある方の避難スペースを確保するなど の配慮が必要である。</p>	<p>災害時に配慮を要する方への対策を強化するた め、避難場所での生活環境の充実に努めることとし ています。また、「札幌市避難場所基本計画」では、 基幹避難所となる小中学校については、校舎1階 の指定場所を災害時要援護者用として優先的に提 供することを定め、指定箇所の拡大を図っていま す。</p> <p>なお、指定箇所以外にも、救護、休憩、更衣、 授乳など避難者の特性に応じたスペース（配慮ス ペース）を施設管理者と協議の上、設けることと しています。</p>
<p>○避難所の床に寝ることができない障がいのある 方や高齢者がいるので、災害に備えてベッドの 用意や介護者を確保してほしい。</p> <p>○発達障がい・知的障がい・精神障がいなどがあ り、集団生活が難しい方がいるため、福祉避難 所を設置してほしい。</p>	<p>「札幌市避難場所基本計画」では、避難場所での 生活に配慮を要する方のために、基幹避難所とな る小中学校では、体育館のほかに校舎1階に要援 護者用滞在スペースを設けることとしています。</p> <p>また、収容避難場所での生活に特別な配慮を要 する方を収容するため、市内の福祉施設を利用し た「福祉避難場所」を発災後に設置することとし ており、関係福祉団体との間で事前に協定を締結 しています。</p>
<p>○避難所に行く事ができない障がいのある方や高 齢者が自宅に居ても食料品等の物資の支援が受 けられるような体制を整えてほしい。</p>	<p>災害時要援護者に対する避難支援体制や生活環 境の充実などを図ることは重要であると認識して います。</p> <p>いただいたご意見については、今後の参考にいた します。</p>

創造戦略 2 共生社会創造戦略

2-① 地域で共生する環境づくり

<p>○共生社会を謳っているが、受刑者や性的倒錯者、喫煙者などについては記述がなく排除されている印象を受ける。</p>	<p>性別や年齢、障がいの有無などに関わらず、全ての市民が社会に参加できる地域づくりが重要であると認識しており、創造戦略 2-①では、誰もが共生・協働できる環境づくりを推進することとしています。</p>
<p>○留学生、外国人に対する孤立の防止も、高齢者だけでなく対策をするべき。</p>	<p>誰もが地域の中でお互いを認め合いながら共に暮らすまちづくりを進めることが重要であると認識しています。特に、災害時に配慮が必要な外国人の支援強化にも取り組むこととしており、地域の防災をきっかけとした顔の見える関係づくりを促進してまいります。</p>
<p>○子どもの居場所の確保について、放課後の学び場や自習室を設立してほしい。また、子どもだけでなく、高齢者と共に過ごせる場も必要である。</p>	<p>子どもの居場所として、学校の余裕教室を活用した「ミニ児童会館」の整備を引き続き進めていきます。</p> <p>また、ご意見のとおり、子どもと高齢者との交流など地域における多世代交流は重要であると認識しており、交流の場として児童会館の更なる活用などを推進することとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○学校の空き教室を子育てサロンの会場とするなど、既存の施設を有効に活用していくべき。</p> <p>○高齢者同士の顔合わせをすることで、孤立を防げるのではないかと。</p> <p>○高齢者の交流の機会が減少している理由の一つとして、趣味がないというところだと思っているので、囲碁や各種スポーツ等で高齢者と子どもがつながりを持てる環境を配備していく必要がある。</p>	<p>地域の中で誰もがお互いを尊重しながら共生できるまちづくりを推進するため、学校や福祉施設など多様な社会資源を活用して交流の場の拡充を図ることとしており、いただいたご意見は今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○高齢者や障がいのある方などのサポートの仕方（目の見えない人と一緒に歩く方法など）が分からない人、実際に助けようという気持ちが出ない人はたくさんいると思うので、企業・学校などで全員がどこかで1度は研修を受けられる場を作ってほしい。</p>	<p>高齢者や障がいのある方との交流やふれあいなどを通じて、お互いの理解を深めることは重要であると認識しています。</p>
<p>○福祉サービスも大事であるが、障がいのある方々が安心して生活できるだけの働ける場所の確保が必要である。</p>	<p>ご意見のとおり、障がいのある方の雇用の場の確保や就労支援の充実を図ることは重要であると認識しています。</p> <p>そこで、創造戦略2-①において、障がいのある方の自立した生活を支えるための働く場の拡充や就労支援の充実を図ることとしています。</p>
<p>○障がいのある方を雇用する企業の職場内の介助体制の充実や、通勤困難者が移動サービスを利用できるようにしてほしい。</p>	<p>障がいのある方の雇用の場の確保や就労支援の充実を図ることは重要であると認識しており、いただいたご意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p> <p>また、職場内の介助等については、国による事業主向けの各種助成金制度があり、札幌市としても必要な情報提供に努めてまいります。</p>
<p>○体の弱い人は別として65歳以上を一律高齢者とするべきではない。</p>	<p>国においても平成24年に新たな高齢社会対策大綱が策定され、「65歳以上は支えが必要な人」という年齢一律による概念を変えていくことなどが示されています。こうしたことを踏まえ、創造戦略2-①においては、高齢世代が積極的に社会に参加し、生涯現役で生きがいを持って暮らせる環境づくりを進めることとしています。</p>
<p>○高齢者は、知識・技術共に素晴らしいスキルを持っているので、生涯現役で生きがいを持って暮らせる環境づくりは素晴らしいと思う。ただ、積極的に外へ出たくなるような仕掛けづくりが必要。</p>	<p>元気な高齢者の増加に伴い、高齢世代の活躍機会を拡充することが重要であると認識しています。このため、高齢者の外出機会を増加させる取組も含めて、生涯現役で生きがいをもって暮らせる環境づくりを推進することとしており、具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○町内会や地域住民だけでは、元気な高齢者にまちづくり活動への参加を促すことは難しいので、参加させる動機付けをもっと強く打ち出すべき。</p>	<p>生涯現役で生きがいをもって暮らせる環境づくりを推進することは重要であると認識しています。そのため、創造戦略 2-①において、退職世代に向けたまちづくり活動への参加促進や、高齢世代の活躍機会の拡充に取り組むこととしています。</p>
<p>○老人クラブはお年寄りのコミュニケーションの場として非常に重要であるため、活性化策に取り組んでほしい。 (類似意見 1 件)</p>	<p>高齢になっても生涯現役で生きがいをもって暮らせる環境づくりは重要であると認識しており、創造戦略 2-①において、高齢世代のまちづくり活動への参加促進など活躍機会の拡充に取り組むこととしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○気軽に無料で行ける筋トレの施設を増やすことによって、高齢者の自立を支援できると思う。</p>	<p>高齢になっても健康を保ちながら、生涯現役で生きがいをもって暮らせる環境づくりは重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○札幌市の内部組織である「札幌市生涯学習総合推進本部」の機能を活用し、市が全庁的に生涯学習の総合的かつ効果的な推進及びその普及を図っていく旨の記述を本計画に明記するべき。</p>	<p>生涯現役で生きがいをもって暮らせる環境づくりを進めていくためには、生涯学習の推進は重要であると認識しており、創造戦略 2-①において、生涯学習と地域のまちづくり活動とのマッチングを行うことなどを明記しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○生涯学習において、図書館はその一つに利用できると思う。「第 2 次札幌市図書館ビジョン」が関わってくると思うが、どのように考えているのか。</p>	<p>ご意見のとおり、生涯学習の推進に当たって、図書館は有効に活用すべき施設であると認識しています。この戦略ビジョンは市政全般について多岐に渡ることから、個別部門計画の全てを掲載してはおりませんが、「第 2 次札幌市図書館ビジョン」については、戦略ビジョンに基づく部門別計画として位置付けられます。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○総じて、活動に対する市民の意欲の有無などを考慮に入れた取り組みの違いについて書いていない気がする。「働かない」「参加しないと」思っている人と、それについて意欲を持たない人へのアプローチが同じになってしまうのではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、全ての市民が社会に参加できる地域づくりを推進するためには、就労や社会参加に対する個人の意識の差を踏まえたアプローチが必要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○ボランティア活動の広報がもっとあると良い。 (類似意見 1 件)</p>	<p>ボランティア活動の推進に当たっては、創造戦略 2-①において、ボランティアの研修から登録、活動のコーディネートまで一体的な支援の充実を図ることとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○学生や若者に限らず、やる気があればどの年代でもボランティア活動やまちづくり活動に参加できる機会、参加しやすい仕組みを作してほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、子どもから高齢世代まで、どの年代でもボランティア活動やまちづくり活動に参加しやすい環境づくりを進めることが重要であると認識しています。</p> <p>このため、創造戦略 2-①において、ボランティア活動の一体的な支援の充実やボランティアポイント制度の拡充を図ることとしています。</p>
<p>○ポイント制度を取り入れたボランティア活動について、とても良い案だと思う。交通機関の利用促進のために、IC カードのポイントが付くなど、実用性のあるものだとうれしい。</p> <p>○ボランティア活動で、特典と交換できるポイント制度はとても良いと思う。子どもたちも小さな時からボランティア活動が身に付くきっかけになると思う。 (類似意見 1 件)</p>	<p>市民の生きがいづくりや社会貢献活動を推進するため、ボランティア活動に応じたポイント制度を拡充することとしています。</p> <p>いただいたご意見は今後の参考にいたします。</p>
<p>○ボランティア活動の特典の拡充や周知により、札幌市独自の制度を作っていくべき。</p>	<p>ボランティア活動の活発化や活動しやすい環境づくりは重要であると認識しており、活動に対する支援の充実やポイント制度を拡充することとしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○ボランティア活動へのポイント制度の導入は、参加意欲が湧かなくならないよう慎重に判断すべき。</p>	<p>市民の生きがいづくりや社会貢献活動を促進するため、ボランティアのポイント制度の拡充が必要だと考えています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○ボランティアとは本来、自発的・無償性・利他性が求められるものであり、ポイントなどの特典を付与する活動ならば、表記を「有償ボランティア」に変えたほうが良いと思う。ボランティア活動そのものは良いと思うが、近年、有償・無償のボランティアが混在しているため「ボランティア活動」という言葉が分かりにくくなっていると思う。</p>	<p>ご意見のとおり、近年、ボランティア活動には、有償・無償・実費弁償など様々な種類があると認識しています。</p> <p>こうしたことを踏まえ、創造戦略2-①においては、ボランティア活動の無償性の理念を堅持しつつ、活動への参加を促進するきっかけとして、様々な特典と交換ができるポイント制度の拡充を行うこととしています。</p>
<p>○高齢者の生きがいとなるコミュニティづくりが重要であり、高齢者の知識・経験を生かし、子どもたちに文化などを教えることもできるのではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、生涯現役で生きがいをもって活躍できる環境づくりが重要であると認識しており、知識や経験を持つ高齢世代が活躍できる機会を拡充することとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>2-② 子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり</p>	
<p>○子育てサロンが大切だと思う。サロンが充実すれば出産する人も増加する可能性があると思う。</p> <p>○子育てを終えた高齢者が、若い夫婦の子育てを手助けにいく取組が有効ではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、子育てに対する不安等の軽減を図ることは重要であると認識しており、子育てサロンなどの充実を図ることとしています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○一人しか子どもを産めないという環境を変えていかなければならないのではないか。一人の子どもを産むか産まないかを政策によって影響を与えるのは難しくとも、子どもが一人既にいる家庭に対して二人目以降の子どもを産みやすい環境を整えていかなければならないのではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、子育てしやすい環境づくりを進め、子育てに対する負担感などを軽減していくことが重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○子育てサロンや子育て家庭に対する活動がなかなか市民からは見えないので、見えるような広報をしてほしい。</p> <p>○子育てサロンの存在は知っていて、行ってみたいと思っても、きっかけがないとなかなか行けない。気軽に足を運べるような取組があると良い。</p>	<p>ご意見のとおり、子育てサロンを始めとする地域での子育て支援の充実は重要であると認識しています。</p> <p>そこで、創造戦略 2-②において、子育てサロンなどの充実を図ることとしていますが、気軽に参加してもらえるような具体的な取組や広報については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○「ちあふる」について、もっと周知してほしい。</p>	<p>区保育・子育て支援センター（ちあふる）は、保育サービスに加えて、子育てサロンを始めとする様々な子育て支援に関するサービスを提供する施設です。今後も市民への周知に努めてまいります。</p>
<p>○札幌には、情緒短期治療入所施設がないため、是非設置を検討してほしい。</p> <p>○困ったときに相談ができて専門的療育を受けられる「情緒障害短期治療施設」をつくってほしい。（類似意見 2 件）</p>	<p>家庭以外での養育環境（社会的養護）については、創造戦略 2-②において体制の充実を図ることとしています。情緒面で困難を抱えるお子さんを入所または通所により支援する「情緒障害児短期治療施設」については、現時点で設置の予定はありませんが、いただいたご意見は今後の参考にいたします。</p>
<p>○待機児童の解消には莫大な予算がかかるが、市の財政状況で本当にできるのか。</p>	<p>待機児童の解消に向けては、平成 27 年度までに、保育を望む全ての保護者の方が、安心して必要なサービスを受けられるように、現在、様々な取組を行っているところです。</p> <p>また、国においても子育て支援に関連する新たな法律を平成 27 年度に施行し、保育の量的拡大を図る予定であることから、新たな制度や仕組みなども導入しながら、待機児童の解消に取り組んでいきます。</p>
<p>○認可保育園を増やしてほしい。</p> <p>○忙しいお母さんが多いので、保育施設の充実が良いと思う。</p>	<p>少子化が進む中で、子育てしやすい環境づくりを進めることは重要であると認識しています。</p> <p>そのため、創造戦略 2-②において、保育サービスの充実を図ることとしています。</p>
<p>○延長保育などを無料で利用できるよう保育所や幼稚園に補助金を出してほしい。</p>	<p>多様な保育ニーズに対応するため、延長保育や一時預かりなどの保育サービスの充実を図ることとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○仕事をしている間、保育所などの子どもを預けるところが少ない。児童会館も働く親にとっては終わるのが早すぎるので、夜遅くまで、子どもが安心して利用できるような施設をつくってほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、子育てしやすい環境づくりを進めるためには、保育サービスの充実や放課後児童クラブの利便性向上を図ることが重要であると認識しています。こうしたことから、平成24年度より児童クラブの開設時間の延長を行い、夜は19時まで、学校休業日の朝は8時から利用可能となりました。</p> <p>また、未就学児については、事業所内保育など地域型保育の充実を図ります。</p>
<p>○空きビルなどを活用して子育ての意見を共有できる場を設けるべき。NPOへの働きかけも必要だと思う。</p>	<p>子育てに関する不安等の軽減を図り、子育てしやすい環境づくりを進めることは重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○放課後児童対策は良いが、もっと明確にする必要があるのではないかと。</p>	<p>小学校に通う子どもを持つ子育て家庭への支援の充実を図るため、放課後児童クラブの利便性向上を図ることは重要であると認識しており、創造戦略2-②において位置付けております。</p>
<p>○子育て家庭に対しては、現金給付での支援ではなく、オムツや病院のチケット等を配布すれば良い。</p>	<p>全国的に少子化が進む中で、子育てに対する不安感や負担感を軽減していくことは重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○バス通学をする小学生が、かわいそうなので、小学校を増やしてほしい。</p>	<p>学校は、様々な考え方や体験を持つ子どもたちが、集団を通して切磋琢磨しながら成長していく場であることから、様々な個性と出会い、交流することができる学校規模での教育が効果的であると考えます。</p> <p>そのため、学校を新設する場合、通学距離や地域の関わりを考慮しつつも、適正な学校規模ということを一条件としています。</p>
<p>○学校を楽しく過ごすために、勉強だけでなく部活動をやってみることで学校生活を楽しむことができると思う。</p>	<p>ご意見のとおり、子どもの多様な学びの機会の充実を図ることは重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>

意見の概要	市の考え方
○小中学校で塾に通う必要がないくらいの授業時間や授業内容を子どもや保護者と共に考える場を作ってほしい。	<p>子どもの多様な学びの機会の充実を図ることは重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
○もっと教員をレベルアップさせるための施設や制度があれば良いのではないかと。	<p>教職員の資質や指導力の向上に向けては、教職経験に応じて5年ごとに研修する体制を整備するなど、教員研修の充実を図ってきたところです。</p> <p>いただいたご意見は、今後の参考にいたします。</p>
○積極的にいじめをなくそうとする先生がほとんどいないので、そんな先生が欲しい。	<p>子どもの年齢等に応じた様々な支援の充実を図ることは重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
○犯罪の抑止につながるような環境づくりを子育てにも広めてほしい。	<p>子どもの見守りや地域防犯活動を含むまちづくり活動を活性化させるため、まちづくりセンター等による活動主体への支援充実を図ることとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
○中長期的な職業体験が必要ではないか。成功や失敗を体験して初めて意味のある体験になると思う。	<p>ご意見のとおり、職業体験は重要であると考えており、現在、職場見学・職場体験などを、小学校、中学校、高校の各段階において実施し、進路探究学習の充実を図っています。今後も成長段階に応じた系統的な体験活動ができるよう、取組を進めてまいります。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組をさらに進めるための参考にさせていただきます。</p>
○無利子の奨学金を必要な学生全員が借りられるように、もっと充実させてほしい。	<p>子どもや若者の学びの機会を拡充することは重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>

意見の概要

市の考え方

○多様な学びやまちづくり活動への参加の持続的な循環によって、担い手を地域に根付かせる必要がある。

(類似意見 1 件)

○子ども・若者の多様な学びやまちづくり活動の情報をもっと開示すべき。

○若い人は地域のコミュニケーションを忘れてい
ると思うので、地域に若い人たちを入れて活動
していく方策を考えるべき。

○若者のまちづくり活動への参加機会を拡大する
ためには、若者同士で交流できるスポーツ大会
の開催や、中学・高校のうちから部活動での参
加など地域との関わりを広げていくことが必要。

(類似意見 4 件)

○大学生を区のイベントに準備から長期的に参加
してもらう仕組みを構築し、まちづくり活動へ
の参加機会を拡充してほしい。

○大学や専門学校との連携も大切だが、高校生の
うちに外に出て地域に主体的に参加する機会を
作ってはどうか。

○核家族化や人間関係の考え方の変化により、ま
ちづくりへの考え方も変化している。例えば、
町内会の機能は、安全面や社会的機能を考えて
も大切なものであり、低年齢から地域という身
近な社会で、様々な体験ができるよう、町内会
活動を支援してほしい。一方で、総じて参加の
意思がない若者に、その企画の魅力を伝え参加
を促すアプローチが必要。

○小・中・高・大など、それぞれの学生ボランティ
アなどを推進すべき。

ご意見のとおり、地域のまちづくり活動の担い
手を発掘・育成していくことが重要であると認識
しており、子どもや学生に加えて若者のまちづく
り活動への参加を促進することとしています。

具体的な取組については、いただいたご意見を
参考に検討いたします。

意見の概要

市の考え方

○創造戦略 2-②「学生や若者のまちづくり活動への参加促進」については、多様な世代のまちづくり活動への参加促進の一環として、創造戦略 3-①「まちづくり活動を担う人・団体への支援」の項目にも再掲したほうが良いのではないかと。また、強みを生かすまちづくりのためには、大学との連携は「区」のみに留まらず、例えば、保健福祉局と市立大学（看護）、観光文化局と大谷大学（美術・音楽）など全市的に進めるべきではないかと。

ご意見のとおり、創造戦略 2-②「学生や若者のまちづくり活動への参加促進」の取組については、創造戦略 3-③にもつながることから、再掲しました。

併せて、大学との連携については、本庁部局も想定されることから、表現を一部修正しました。

○若者の社会的な自立について、奨学金を借りて大学に進学できたとしても、卒業後の正規雇用は難しく、悪循環な教育環境で格差社会が広がるばかりであり、自立するためには、「家族」「社会」「行政」の基準がしっかりしていないと自立は困難である。

札幌の将来を担う若者に対する雇用の確保や就労支援の充実などは重要な問題であると認識しています。

具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。

○求人量を増やしてほしい。特に、対人関係が苦手な人やひきこもりの人もインターネットなどで在宅ワークをして生計を立てられるような働きやすい環境をつくり、仕事ができる可能性を広げてほしい。

○北海道は本州に比べて、高校卒業時の雇用が多くあり、比較的大学生卒業時の雇用が少ない傾向がある。また、北海道に残る理由になるだけの魅力ある仕事がないことや、実力があってもそれに見合うだけの賃金を支払うことのできない会社が多くあるので、優秀な人材が北海道から流出してしまうのではないかと。大学生が卒業してからも北海道に残ってもらえるように行政として支援を行うべきである。

○若者が「就労」に対してもっと意識を持てるように、インターンシップの機会を増やしたり、小学校・中学校の時からしっかりしたインターンシップを行っていくことが良いのではないかと。また、祭りや地域のボランティア活動への参加も、就労に少しでもつながるようになるのではないかと考える。

意見の概要

市の考え方

○職業人になるまでの過程において、それぞれの成長段階に必要な経験を蓄積できる環境が必要。現状の押し出し型出口支援では、ミスマッチからのドロップアウトを生み出す悪循環が見える。業務の上乗せや努力目標で掲げるのではなく、大きな市政として、実現する方策が必要ではないか。

また、情報は溢れているように見えるが、社会に参画するための情報を得るといった場合には、好む好まざるに関わらず情報弱者なのではないか。例えば、一定年齢の若者たちに一斉配信できるようなツール（アプリ等）を市政として持つ方法はないか。

子どもたちが社会的に自立することを支援することは、大変重要なことであると認識しています。札幌市においては、小中高の段階をスムーズに移行できるよう成長の段階に応じた指導について教員交流を行ったり、中学生や保護者に対して市立高校の教育内容や学校生活に関する情報を提供する説明会を実施しています。

また、現在、中学校、高校では、全ての学校において職場体験の実施などの進路探究学習に取り組み、社会に目を向けた学習を進めています。これらのことに加え、情報化の進展などを背景とした「知識基盤社会」の中で学校教育を進める必要があることから、札幌市では、情報モラルの育成や情報活用能力の養成を学校教育の重点に位置付けた取組を進めています。

ご意見は、今後の取組を進める際の参考にさせていただきます。

○若者が社会的に自立し活躍するためには、相談支援体制の充実や実践的な学び場の提供も必要だと思うが、自分がいかなる存在であるのかより早い段階で発見をしていけるような教育制度が重要ではないか。自分が本当に何をしたいのかということに対して無関心になり、自らに対してではなく他人がどう評価するかというのが行動原理となり、結果として自己同一性が固定化しないまま、いわゆる社会人となっているのではないか。

ご意見のとおり、若者が社会的に自立し活躍していくためには、自分の在り方について考えられるような学習活動が重要であると認識しています。

いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。

意見の概要

市の考え方

<p>○若者支援総合センターのような就職できていない若者達が利用できる施設等を活用し、支援が受けられることは良い活動なので、もっと充実させていくべき。</p> <p>○就労支援のプログラムによる若者の後押しのような活動は、続けていくべき。潜在的な就労意欲を持つ人々をさらに後押しできるよう、認知度を高めていけるようにできれば良いと思う。</p> <p>○ニートや引きこもりの人達が積極的に外に出て働けるような取組をもっと全面的に出してほしい。 (類似意見 3 件)</p> <p>○社会的自立が困難な若者（ニート、ひきこもり、障がいのある方等）に対しては安定的な雇用確保はもちろんのこと、雇用後の支援が特に必要だと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、就労支援等が必要な若者に対する相談・支援体制の強化は重要であると認識しており、創造戦略 2-②において、若者支援総合センターを核とした相談・支援体制を強化することとしています。</p>
<p>○相談・支援体制の強化について、相談はどのような方法で対応していくのか、支援体制については働く場を支援するのか、働いた後も支援を続けるのかなどが気になった。就労支援の充実については賛成。ただ何人も一度に支援するのではなく、マンツーマンで支援を行う伴走型支援者の育成や就労支援に力を入れてほしいと思った。地域との連携が重要になってくると思う。</p> <p>○社会的自立が困難な若者は、頑張って意欲を持って働いてほしい。また、大学生にも企業・団体へのネットワークを構築し、就労の支援を行ってほしい。</p> <p>○コミュニケーションをスキルアップさせるセミナーを行ってほしい。</p>	<p>社会的自立が困難な若者への相談・支援体制について、若者支援総合センターを核として、教育機関や地域の企業、団体等との連携・協力関係を築きながら、より効果的な手法による支援の充実を図っていきます。</p>
<p>○成果指標の「保育環境の充実度を示す指標」の目標値部分の表記について、「平成 27 年度～」とした方が良いのではないかと。</p>	<p>成果指標の目標値の年度については、戦略ビジョンの計画期間（平成 25 ～ 34 年度）に基づき、統一的に表記しています。</p> <p>なお、保育環境の充実度を示す指標であります保育所待機児童数については、現行の中期実施計画（第 3 次札幌新まちづくり計画）において、平成 27 年度までにゼロにする目標としていることから、「平成 27 ～ 34 年度」と表記しています。</p>

2-③ 歩いて暮らせるまちづくり	
○高齢者がその場で暮らせるまちを各地域につくるべき。	<p>誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりが重要であると認識しており、生活利便機能の維持・向上の推進など「歩いて暮らせるまちづくり」を進めることとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
○身近な商店街の発展を目指すのであれば、大規模ショッピングセンターが乱立している状況をどう変えていくのかを考えてほしい。	<p>高齢化の進行により、自家用車を利用できない市民の増加が見込まれることから、身近な地域における日常的生活利便機能の確保が重要であると認識しています。</p> <p>そこで、創造戦略 2-③においては、商店街などへの支援や、土地利用計画制度の適正な運用を行うことを明記しています。</p>
○買い物バスなどを週 1 回程度運行してほしい。	<p>身近な地域における日常的生活利便機能の維持を図るため、高齢者などが買い物しやすい環境づくりに取り組む商店街への支援などを行うこととしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
○宅配サービスを高齢者限定のものとして、企業と連携してはどうか。	<p>現在、札幌市では、身体が弱く、食事の用意が困難なひとり暮らしの高齢者の方に、栄養のバランスのとれた食事をお届けするサービスを行っています（費用負担あり）。</p> <p>また、民間事業者においても、様々な宅配サービスが提供されていますので、いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。</p>
○例えば 80 歳以上の高齢者は自動車の運転を不可にするかわりに、市が援助してタクシーを安く使えるようにするなど、タクシーも含めた取組をすべき。	<p>自家用車を持たない市民も安心して暮らしていけるよう、歩いて暮らせるまちづくりを進めることが重要であると認識しており、創造戦略 2-③において、主な取組を明記しております。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○市営住宅の居住者も高齢化が進んでいることから、低層階は高齢者用、中層以上は若い世代用にするなども考えるべき。</p>	<p>ご意見のとおり、高齢者が安心して快適に暮らすことができる居住環境を確保することが重要であると認識しています。今後とも市営住宅が入居世帯の状況に応じて適正に提供されるよう、ご意見を参考に入居制度等について検討してまいります。</p>
<p>○まちづくりセンターと学校の合築や、子どもを巻き込んだイベントと一緒に取り組むべき。</p>	<p>ご意見のとおり、学校、まちづくりセンター、児童会館などの併設化の検討を進めることとしているほか、子どもと大人の交流の場としても活用を図っていくこととしています。</p>
<p>○まちづくりセンターには多くの人が入り出していることから、学校と併設する場合のセキュリティ対策は充分検討すべき。</p>	<p>公共施設の効率的な再配置の検討に当たり、学校や児童会館の安全確保対策、個人情報等保護対策は非常に重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○地下鉄駅周辺のバリアフリー化について、高齢者や障がいのある方が公共交通機関を利用しやすくすべき。 (類似意見 5 件)</p> <p>○地下鉄駅に設置されているエレベーターやエスカレーターの設備をもっと充実させた方が良いのではないか。</p> <p>○中心部の札幌駅、大通駅、すすきの駅、中島公園駅付近は古い建物が多く、出入口の段差やトイレのバリアフリー化などが進んでいない。札幌駅、大通駅だけでもバリアフリー化を進めるべき。</p> <p>○体の不自由な人、車いすを利用している人の移動の手段として、スロープやエレベーターを作ることが今必要なのではないか。</p>	<p>高齢者が増加する中、多くの市民が訪れる地下鉄駅周辺などの利便性を向上することは重要であると認識しており、再開発等を活用した地下接続等を進めるとともに、「新・バリアフリー基本構想」に基づき、地下鉄駅周辺などの重点整備地区におけるバリアフリー化を推進しています。</p>
<p>○郊外には狭い道路や粗い舗装の道路（いわゆる「天ぷら舗装」）もあるため、高齢者や障がいのある方が快適に暮らせるのか疑問である。</p>	<p>住宅地内の生活道路については、拡幅は用地取得の関係で非常に困難であります。ご意見をいただいた「天ぷら舗装」については各区で少しずつ改善を進めており、今後も推進していく予定です。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○道路信号に全盲障がいのある方のために、信号の変化を知らせる音声が出るようにしたほうが良い。</p>	<p>誰もが日常生活に支障なく、安全に暮らしていけるまちづくりを進めることが重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>創造戦略 3 地域マネジメント創造戦略</p>	
<p>3-① 地域活動を活発化する環境づくり</p>	
<p>○町内会の加入促進策として、町内会の必要性などについて行政からも積極的に呼びかけてほしい。 (類似意見 8 件)</p> <p>○防災、防犯、まちづくりの中心を担っている町内会の加入促進について、行政も町内会と一体となった取組をお願いしたい。</p> <p>○町内会などの人材確保のための取組として、社会貢献や町内会の必要性などを伝えていくことが必要。</p> <p>○賃貸マンションについて、町内会への加入に向けた協力を得られるよう働きかけてほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、地域コミュニティの中心的組織である町内会の活性化は非常に重要であると認識しています。</p> <p>そのため、創造戦略 3-①において、町内会の役割への理解を進める情報発信の強化や不動産関連団体等との連携を通じた加入促進などを進めることとしています。</p>
<p>○「町内会」の定義を脚注に記載すべき。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、「町内会」の定義を脚注に追加しました。</p>
<p>○人材育成を進めるため、連合町内会に研修機関をつくってはどうか。</p> <p>○町内会に参加する次の世代を教育する仕組みが必要。</p> <p>○町内会にもっと若い人が参加した方が良い。明らかに高齢化している。</p> <p>○町内会では役員のなり手不足に悩んでおり、70代から 80 代の人々が主に活動している。</p>	<p>ご意見のとおり、まちづくり活動の担い手となる人材の発掘・育成は重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○まちづくりへの参加を増やすには、お祭りなどみんなで楽しめる行事を多く行うことが必要。また、地域との交流を深めるには一人一人が周りの人にあいさつをすることから広がっていくと思う。そうすることで話をしたりするチャンスができ、交流を深めることができる。</p> <p>(類似意見 1 件)</p> <p>○家族や夫婦で生活していれば、地域との関わりや活動への参加機会もあるが、一人暮らしで仕事をしている人をどうやって地域活動に参加させるのが必要だと思う。</p>	<p>地域のまちづくり活動を活発化するためには、人と人のつながりによる地域コミュニティの形成を促進することが重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○より多くの市民にまちづくり活動に参加してもらうためには、積極的に参画したくなるような創意工夫、市民にとっての活躍の場の提供などがポイントであるため、「札幌市人材バンク」の設立を提案する。</p>	<p>ご意見のとおり、地域活動の活発化を図るためには、まちづくり活動の担い手となる人材を発掘・育成することが重要であると認識しています。</p> <p>そのため、創造戦略 3-①において、生涯学習と地域活動とのマッチングや市民活動サポートセンターによる市民活動の支援の充実を図ることとしています。</p> <p>いただいたご意見の人材バンクについては、市民活動と参加したい人をつなぐサイト「ハロー NPO 札幌」を立ち上げておりますので、ぜひご利用ください。</p>
<p>○青年団活動や、NPO 活動に対する支援がもっとなされたほうが良い。青年団は、町内会活動や区役所関係の行事を活発化させており、地域の発展に貢献をしていると考える。しかし現状の支援体制だと事務局を持つことができない。</p>	<p>ご意見のとおり、多様な活動主体による地域活動の活発化を図ることは重要であると認識しており、創造戦略 3-①において、NPO やボランティア団体への活動支援の充実を図ることとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○町内会、学校、大学、保育園など多様な団体や年齢層の市民がまちづくりに関わる必要があるのではないか。</p> <p>(類似意見 1 件)</p>	<p>地域の様々な活動主体同士が連携することは、地域活動の活発化を図るためには重要であると認識しており、学校、PTA、町内会などの連携を促進することとしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○ハード面の政策だけでなく、地域の住民の連携を高めるソフト面の政策も必要だと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、まちづくりにはソフト面の充実を図ることが重要であると認識しており、活動主体同士の連携促進や市民の居場所・活動拠点づくりを推進することとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○民間企業とのパートナーシップの拡大や、企業同士の連携促進に行政がサポートしてほしい。</p>	<p>地域活動を活発化するためには、企業やNPOなどとの連携が重要であると認識しており、創造戦略3-①において、企業の社会貢献活動（CSR）の立ち上げ支援や、多様な活動主体と連携して地域の課題解決に取り組むNPOへの支援を行うこととしています。</p>
<p>○民家の空き家・公営住宅の1室を地域住民のサロンや居場所として提供し、運営を地域住民に任せてはどうか。引きこもりがちの高齢者の見守りや支え合いにもつながるので、推進してほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、地域コミュニティの形成を促進するためには、市民の居場所づくりや拠点づくりが重要であると認識しており、創造戦略3-①において、空き家・空き店舗等の活用支援や市民集会施設の整備などを推進していくこととしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○空き家の問題に関しても法務局などとの関連があるため、国や道と連携して取り組んでいく必要がある。</p>	<p>空き家に関しては、所有者の特定や、維持管理、活用を進める上で、近隣住民や住民組織などとの連携が重要であると認識しています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○集会施設などの利用を無償化すべき。</p>	<p>地区会館やコミュニティ施設の利用料については、受益者負担の考え方により原則として有償の取扱いとなっています。</p>
<p>○成果指標の「NPO活動の活発さを示す指標」について、市内のNPO法人数が挙げられているが、現在問題になっているのは、地域コミュニティの活性化であるため、空き家・空き店舗などの活用に関する指標にすべき。</p>	<p>NPO法人は専門性、機動性が高く、地域コミュニティの活性化を始め、様々なまちづくり活動を担う重要な主体として期待されていることから、成果指標として認証法人数を設定しています。</p>

3-② 地域マネジメントの推進

<p>○第1章創造戦略3「地域マネジメント創造戦略」で定義する「地域マネジメント」と、第2章で使用している「地域マネジメント」、「重層的なマネジメントによるまちづくりの推進」、「地区のマネジメント」などは同義で使っているのか不明である。</p>	<p>ご意見のありました「マネジメント」の文言は、いずれも第1章創造戦略3「地域マネジメント創造戦略」の脚注に記載している定義で使用しています。</p>
<p>○様々な場所のまちづくり関係者が集まって討議するなど、活発なまちづくりを進めるための取組を考えてほしい。</p> <p>○町内会の加入促進によって、地域環境の維持や地域の合意形成などが充足するとは思えない。地域の多様な住民組織、NPO、ボランティア団体等のネットワーク化が鍵になるのではないか。</p> <p>○市内には、歴史や地域特性の違いなどによる多くの地域コミュニティが形成されている。市民同士による支え合いのまちづくりには、お互いに顔の見える挨拶を交わし合うまちづくりをする必要がある。そのためには、行政・社協・自治会・町内会・学校などがまちを挙げて大々的に時間をかけて、徹底的に行う必要がある。</p>	<p>ご意見のとおり、地域の主体的なまちづくりを進めるためには、様々な活動主体同士の連携を図ることが重要であると認識しています。</p> <p>そこで、創造戦略3-②において、まちづくり協議会等への参加団体を多様化するなど、様々な活動主体間ネットワークの充実を図ることとしており、このために、まちづくりセンターは、地域に密着したまちづくりの拠点として、様々な活動主体への支援・調整機能を強化することとしています。</p>
<p>○最近ではまちづくりセンターや町内会が中心となり、力強いまちづくりを行っているので、ぜひその活性化をどのように行っていくのか、ビジョンを見たい。</p>	<p>ご意見のとおり、地域の特性や課題を踏まえたまちづくり活動が活発化しており、創造戦略3-②においては、区民協議会やまちづくり協議会などの活性化を図るとともに、地域ごとの将来を展望したビジョンの策定支援を行うこととしています。</p>
<p>○市民主体のまちづくりという観点から町内会を位置付けるべき。町内会が自立していけるように、札幌市は町内会への支援などの取組を進め、町内会と一緒にまちづくりを進めてほしい。</p> <p>○市民自治の推進とは、連合町内会の活動の推進であるということを示してほしい。</p>	<p>町内会は地域コミュニティの中心的組織であり、地域のまちづくりを進める上では町内会の協力が不可欠です。</p> <p>このため、創造戦略3-①において、低下を続ける町内会加入率の状況を踏まえ、まちづくり活動を担う人・団体への支援の一環として町内会への加入促進を進めることとしており、創造戦略3-②においては、町内会をはじめとした地域の各団体と連携するまちづくりセンターの支援・調整機能を強化することとしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○自分に関わるものが身近にあれば、愛着心も湧いて取り組みたいと思うかもしれない。</p>	<p>まちづくり活動の活発化を図るためには、地域の住民や様々な活動主体が自主的に取り組んでいくことが重要であると認識しています。</p> <p>このため、創造戦略 3-②においては、幅広い市民や団体が参加するまちづくり協議会等の活動の活発化を図ることとしています。</p>
<p>○まちづくりについて考えている市民はたくさんいると思うので、市と柔軟に連携して取り組める環境があると良いと思う。</p> <p>○まちづくりセンターについて、町内会だけでなく、若者などにも周知をしていくべき。</p> <p>○まちづくりセンターをもっと普及すべき。</p>	<p>「まちづくりセンター」は、地域に密着したまちづくりの拠点として、様々な活動主体への支援・調整機能を強化することとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○まちづくりセンターの自主運営化を推進してほしい。</p>	<p>地域に密着したまちづくりの拠点となるまちづくりセンターの役割は重要であると認識しています。</p> <p>このため、創造戦略 3-②において、地域の活動主体間のネットワークの構築に向けて、まちづくりセンターによる支援・調整機能を強化することとしており、こうした取組は地域自主運営を推進することでさらに効果が発揮されるものと想定しています。</p>
<p>○空き家や廃屋の問題が多く生じている。</p>	<p>市内の人口動態や年齢構成は地域によって異なっており、空き家の問題が顕在化するなど、地域課題も多様化しています。</p> <p>そこで、創造戦略 3-②においては、地域の特性に合わせた課題解決への支援などにより、地域マネジメントを推進することとしています。</p>
<p>○商店街の活性化策に取り組むべき。</p>	<p>商店街と地域団体などとの連携による地域課題の解決を促進するため、創造戦略 3-②において、地域の将来像を共有し、商店街の新たな役割や可能性の発見と協調的な取組を生み出す場の構築を促進することとしており、このような取組により商店街の活性化につながっていくものと考えております。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○区や地域ごとの特色を踏まえたまちづくりを進めるためには、まちづくりセンターを含めた区役所にもっと権限や裁量を持たせるべき。</p>	<p>地域に身近な行政機関である区役所・まちづくりセンターの存在を生かし、地域の特性や課題に合わせたまちづくりを進めていくことが重要であると認識しています。</p> <p>そのため、創造戦略 3-②において、区役所と本庁の機能・役割分担の在り方などについて、検討を進めることとしています。</p>
<p>○ごみの問題は地域に密着しているため、区役所の機能に入れるべきではないか。</p>	<p>ごみ問題は地域における重要な課題の一つであると認識しており、これまでも市内 7 か所の清掃事務所を拠点として各区役所との連携を図りながら対応してまいりました。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○ごみステーションがカラスにより荒らされているのをよく目にする。非常に不快な光景なのでごみの減少に留まらず、ごみの在り方について再考してほしい。</p> <p>○市街地にごみ箱があれば良いと思う。ごみステーションはごみがあふれており、歩道にはごみが散乱していることがままある。落ちているごみを拾おうとしても、捨てる場所がないので拾うことができない。</p>	<p>鳥獣によるごみ散乱などの対策には、町内会など地域の方々の協力が必要と考えております。</p> <p>そのため、ごみステーション管理器材の購入に対し、費用の一部を助成する制度を実施しており、今後も、引き続きこのような制度を運用しながら、地域と共に、ごみステーションの美化活動を進めていきたいと考えています。</p> <p>なお、市街地へのごみ箱の設置については、ごみの収集費用負担が増すことや家庭ごみの不法投棄が懸念されることなどから、現時点では行っておりませんので、ご理解をお願いいたします。</p>
<p>3-③ 雪と共存した暮らしの推進</p>	
<p>○除雪に対する要望は切実で限度がない一方で、市民の負担を考えるとどこかで折合をつける必要があるが、いくら負担しているのか実感が無い。市民一人当たりの負担がいくらになっているのか、サービスと負担の両方を、繰り返し分かりやすく提示することを更に充実すべき。</p>	<p>ご意見のとおり、除排雪に対する市民理解を深めていくことは重要であると認識しています。</p> <p>そこで、創造戦略 3-③において、地域との懇談や小学校での出前授業などを通じて幅広い世代への理解促進に取り組むこととしているほか、今後の高齢化と人口減少を踏まえた除雪の在り方を検討するため、市民、有識者などによる議論を進めることとしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○学校のグラウンドを雪の堆積場として積極的に利用することができないか。</p> <p>○遠方の雪堆積場への雪の運搬は経費的にもエネルギー的にも問題であるため、公共施設に限らず一定規模以上の民有地についても一部固定資産税減免などのインセンティブを付与した上で、雪置き場として活用することを長期的視点で検討すべき。</p> <p>○雪を捨てる場所があまりにも少ないので、公園など空いている場所を活用すべき。</p>	<p>ご意見のとおり、効率的な除排雪を推進するためには、地域内での雪処理が重要であると認識しています。</p> <p>そのため、創造戦略 3-③において、利用可能な公共用地を地域の雪置き場として活用していくことを明記しており、学校のグラウンドや公園の活用も推進していきます。</p>
<p>○市内に雪堆積場をさらに確保する必要があるのではないか。</p>	<p>雪堆積場については、引き続き確保に努めるとともに、地域内雪処理を推進するため、利用可能な公共用地を地域の雪置き場として活用することとしています。</p>
<p>○札幌市には小中学校が約 1 ～ 2km 圏内にあるため、そのグラウンド地下に排雪槽を造り、地域住民の理解と協力の下、排雪を住民の力で行うことで、委託の業者においても、効率よく排雪が可能になる。集中豪雨による遊水地にも利用でき、地域の防災対策にもなり得るのではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、効率的な除排雪を推進するためには、地域内での雪処理が重要であると認識しています。</p> <p>そのため、創造戦略 3-③において、利用可能な公共用地を地域の雪置き場として活用していくことを明記しており、学校のグラウンドの活用も推進していきます。</p>
<p>○除雪に関して、道路のマンホールを端に移して投雪できるような設備がつかれないか。</p>	<p>マンホールや雨水桝に投雪することは、下水の流れを阻害するおそれがあります。</p> <p>なお、除雪後の雪処理については、創造戦略 3-③において、利用可能な公共用地を地域の雪置き場として活用するなど、地域内雪処理を推進することとしています。</p>
<p>○雪かきなどでは、若い世代が活躍できると思うので、参加を促すよう、情報発信を活性化してほしい。</p> <p>○学校などで自主的に除排雪ボランティアに参加することで感謝されることを覚えるので、将来のボランティア活動の人材育成につながると思う。</p>	<p>地域の高齢者等を対象とした福祉除雪などのボランティアについて、創造戦略 3-③において、若い世代の参加を促進することとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>

意見の概要	市の考え方
○雪の運搬排雪に毎年億単位のお金を使っているため、抜本的な解決策を検討することが必要ではないか。	ご意見のとおり、今後の高齢化と人口減少を踏まえた除雪の在り方を検討することは重要であると認識しており、創造戦略3-③において、市民、有識者などによる議論を進めることとしています。
○除雪費の抑制のための施策を強化した内容の記述とすべき。現在の車道中心の除排雪から、歩行者、特にお年寄りや体の不自由な方のための除排雪へ比重をシフトしてほしい。	ご意見のとおり、高齢化の進行等を踏まえた今後の除雪の在り方について検討していくことは重要であると認識しており、市民、有識者などによる議論を進めることとしています。 また、多くの市民が通行する公共施設周辺の歩行環境の改善などに取り組むこととしています。
○冬期間にバスが遅れてくるのは仕方がないと思うが、30分などの大幅な遅れは駄目だと思う。	冬期間も安心して快適に暮らしていくための雪対策は重要であると認識しており、創造戦略3-③において、バス路線の除排雪強化や交通事業者との連携体制の構築に取り組んでいくこととしています。
○除雪の回数を増やし、裏道の方もきちんと除雪してほしい。	冬の安心な暮らしに欠かすことのできない雪対策を効果的かつ効率的に進めていくことが重要であると認識しています。 具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。
○夜、除雪車の騒音で起こされることがよくあるので、超低音車を多くしてほしい。	除排雪体制の確保に向けて、除排雪に必要な機械を安定的に確保することとしています。 いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
○うっすらとしか雪がないのに除雪が入ることがあるため、もっと雪の多い所にその費用を使うと良いと思う。	除雪作業については、原則として10cm以上の降雪が見込まれる場合に出動することとしており、結果的に10cm未満での出動となるケースがあります。 いただいたご意見を参考に、今後も効率的な除排雪に努めてまいります。

意見の概要	市の考え方
<p>○冬期間の歩道や通学路の除雪、雪捨て場の確保などにどこまで取り組む考えなのか。</p>	<p>冬の安心な暮らしに欠かすことのできない雪対策は重要であると認識しており、創造戦略 3-③において、効果的かつ効率的な除排雪を進めることとしています。</p> <p>また、通学路などの除排雪強化やバス路線の除排雪強化などにも取り組むこととしています。</p>
<p>○地下鉄駅周辺などは、冬季はバリアフリーとは程遠い状況であるため、範囲を限定してツルツル路面对策の砂撒きをルーチン化し除雪事業の一部として制度化を検討してはどうか。</p> <p>地下鉄駅周辺への人口集積の誘導につなげ、一方で郊外部の除排雪の効率化を図ることにより、長期的には全体として負担の少ないコンパクトシティの実現につなげることが可能。また、札幌の冬季のツルツル路面の悪いイメージを改善できる。</p>	<p>ご意見のとおり、冬季の歩行環境の向上を図ることは重要であると認識しており、創造戦略 3-③において、多くの市民が通行する公共施設周辺の歩行環境の改善を図ることとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○スキー・スケートなどの指導者が身近にいと、スキー・スケート場の利用者数も増えると思う。有償でも指導者を探すべき。</p>	<p>雪と共存した豊かな暮らしの推進には、冬を楽しむウインタースポーツなどの振興が重要であると認識しています。</p> <p>そのため、創造戦略 3-③において、スキー指導者等の地域の人材を発掘し、活用していくこととしています。</p>
<p>○店先に雪だるまや雪像などがあると良いと思う。そういう催し物を地域でやれば良いと思う。</p>	<p>雪と共存した冬の豊かな暮らしの実現に向けて、市民自身が雪に親しみ、冬の暮らしを楽しむことが重要であると認識しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>

第2節「産業・活力」

創造戦略 4 札幌型産業創造戦略

4-① 食の魅力を生かした産業の高度化

○「タマネギの札幌黄」などのいわゆる札幌ブランドは、絶え間ない宣伝が必要であり、文章だけではなく、ネットを使うとか、広報番組を使うなどして、宣伝した方が良い。

ご意見のとおり、農産物のブランド化を進めるためには一層の広報活動が必要なことから、広報誌や各種イベント等を活用して、「札幌黄」「サトホロいちご」「大浜みやこ」などの品種を紹介するとともに、企業等との連携による加工品の開発にも取り組んでいます。

近年では、「札幌黄ふぁんくらぶ」など、消費者、販売店、商店街等が積極的に札幌の農産物を応援する活動が広がり、認知度が高まっています。今後も、関係者と連携しながらこうした取組を継続してまいります。

○札幌の周辺、市内にある畑を生かして札幌ブランドの食品をもっと増やし、価値を高めてはどうか。

ご意見のとおり、札幌の食の魅力を生かして、付加価値の向上を図ることは重要であると認識しており、創造戦略4-①において、米、小麦、乳製品等による新たなブランドづくりを進めるため、試験・試作支援機能や事業提案機能などの充実を図ることとしています。

○重点品目について、重点品目の根拠と「等」とは何を指すのか教えてほしい。

北海道の農業産出額の上位に位置していること、国内生産シェアが高いこと、品種改良が進み、美味しさ、用途適正等が向上していることなどの優位性を勘案し、米、小麦、生乳を重点品目と考えています。

このほか、米、小麦と並んで三大穀物の一つであり、国内生産シェアが高い、とうもろこしや、札幌のブランド野菜として道外にも出荷されているタマネギ、カボチャなども重点品目として想定しています。

○スープカレーをもっと推して行ってほしい。

札幌を代表する食の一つであるスープカレーは重要な魅力資源であると考えています。

いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。

意見の概要	市の考え方
<p>○オータムフェストのようなイベントなどを通じて、世界に食の魅力を発信できたら良い。</p> <p>○オータムフェストを知ってもらおうとともに、道内の食材を国内外に売り込む商談の場へと拡大していくのはどうか。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、北海道の食の魅力を海外に発信していくことは重要と認識しており、ご意見の趣旨を踏まえ、取組事例を追記しました。</p>
<p>○産業問題は、札幌・北海道の食文化を今以上に高めること。自給自足の割合は大きいので、北海道ブランドを今以上にPRしていただくこと。北海道から、海外に負けない食文化の提案も必要。TPPについては、反対しないと道内農家は破たんする。</p> <p>○TPPに反対し、関税をかけないと道内産のブランド力の低下につながることを心配。</p>	<p>ご意見のとおり、豊富な一次産品などの食資源や、食料品製造業、卸売業の集積といった札幌・北海道の強みを生かして、食の北海道ブランドを積極的にPRし、海外へ発信していくことが必要です。札幌コンテンツ特区の活用などもその際の重要な要素と考えています。</p> <p>TPPについては、地方の農業者、商工業者、消費者など国民各層の意見をしっかり把握し、国民的議論を踏まえた上での対応が必要であると考えています。</p>
<p>○道内・国内の狭い市場相手では世界に勝てない。アジアの成長ぶりには目を見張るものがある。完全に高級化志向へとシフトしつつある。そこで、『フードバレー』構想の立ち上げを提案する。(フードビジネスマーケットの一大拠点形成、ブランド食材の海外展開促進、関連業界、大学研究機関等のネットワーク化、若手ベンチャー育成など)</p> <p>○北海道というブランドを生かし、安全、安心、おいしいを売りに、TPPに負けない新たな販路を見つけてほしい。</p>	<p>地域消費型の経済構造である札幌・北海道は、今後想定される人口減少社会の到来を踏まえ、道内循環を高めるとともに、道外、海外の需要を取り込んでいく必要があります。</p> <p>そこで、創造戦略4-①において、北海道の豊かな自然や風土、安全・安心を背景とした札幌の食の魅力を生かして、食関連産業の基盤強化や産業間連携の促進や、新たな価値の創造から道外・海外販路の確保までの一貫支援、さらには関連企業の誘致、集積を総合的に進めることで、食関連産業全体の高度化を図ることとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○北海道の強みを生かした産業の活性化はもっと強化していくべき。</p> <p>○国際戦略特区、企業誘致も大事だが、「既存企業の活性化」を示すことも重要。</p>	<p>創造戦略4においては、札幌・北海道が持つ地域資源などを生かした新たな価値の創造による産業の高度化を図るため、食、観光、環境、健康・福祉の4分野を重点的に振興し、これらを基軸として、既存企業も含め、幅広い産業分野の競争力を高めていくこととしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○ TPP についてもっと市民に周知すると良いのではないかと。TPP は、農業のほか、医療、労働等、その他の分野でも北海道、ひいては札幌に影響する。農業に関係のない人も詳しく自分たちへの影響を知ることのできる催しなどはどうか。</p>	<p>TPP については、北海道の基幹産業である農林水産業のみならず各産業分野、さらには、食の安全や医療制度など、市民の安全安心な生活にも多大な影響を及ぼすことが懸念されており、国民各層に対する十分な情報提供が重要であると考えています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の参考にいたします。</p>
<p>4-② 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進</p>	
<p>○ 観光によるまちづくりについて、市民、学識経験者、企業経営者で構成する観光審議会を設置して、観光戦略を直接市政に反映させるべき。</p>	<p>現在、今後の観光施策の基本的な方向性などをまとめた「札幌市観光まちづくりプラン」の策定作業を進めています。</p> <p>この策定過程において、公募の市民委員や学識経験者、観光関係団体の代表者などで構成される検討会議を設置しており、ここでの意見をプランの内容に反映させていくこととしています。</p>
<p>○ 観光地を増やすのも良いが、特に若い人は地元観光名所を聞かされてもあまり知らなかったりするので、まずは地元にもっと浸透させる活動をすべき。</p>	<p>現在策定中の「札幌市観光まちづくりプラン」においては、市民が札幌の地域特性や文化などを積極的に楽しみ、その魅力的なライフスタイルを訪れる人々と共有し、つながりを深めることで、滞在性や再訪性の高い都市観光を創造していく「観光まちづくり」の考え方を取り入れる予定です。</p> <p>その中で、ご意見の趣旨にもある、「札幌市民が、札幌らしい、札幌ならではの魅力を探し、知り、日常的に楽しむこと」を掲げ、その実現に向けた取組を推進していくこととしています。</p>

意見の概要

市の考え方

○都市の魅力とは観光客が押し寄せることではなく、そこに住む市民が快適・安全に生活できることに尽きるはず。

また、市民に屋外で活動してもらうために始まった「雪まつり」は、すでにその意義は消え、「ヨサコイソーラン」同様に観光業者と放送業者のための催事でしかない。両方とも来年から会場を郊外に移して本来の大通りに戻すべき。

地域消費型の経済構造である札幌・北海道は、今後想定される人口減少社会の到来を踏まえ、魅力と強みを生かした産業の高度化を図っていく必要があり、経済成長をけん引する重点分野の一つとして、「観光」を位置付けています。

現在、観光振興の取組の方向性を示す「札幌市観光まちづくりプラン」の策定作業を進めていますが、ここでは、市民が札幌の地域特性や文化などを積極的に楽しみ、その魅力的なライフスタイルを訪れる人々と共有し、つながりを深めることで、滞在性や再訪性の高い都市観光を創造していくという「観光まちづくり」の考え方を取り入れ、市民にも来訪者にも魅力的なまちづくりを進めることとしています。

いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。

○「札幌市内での一日満喫プラン」を札幌市役所が勧めるという形で作り、PRすれば旅行者も行動しやすくなると思う。

○サタデー・テーリングのような、地下鉄を利用した札幌の観光地巡りのプランを企画してはどうか。

○陸上関係のイベントを行ってほしい。

○音楽関係のイベントを行ってほしい。

○都市観光を創造するよりも、今あるものを活用すべき。

○モータースポーツの市街地レース開催。

○ビアガーデンを長くしてほしい。

○大々的な料理コンテスト、常に新しい料理人が北海道の食材を使用して12ヶ月毎月違うメニューを出すカフェ村など、オータムフェストのようなイベントを日常的に開催してほしい。

○今までやってきている札幌市主催のイベントが定番化しているので、新しい行事、イベントを企画・運営することが、他国から札幌市への収益につながるし、観光産業も上向きになると考える。

ご意見のとおり、札幌らしい新たな都市観光を創造することは重要であると認識しており、自然、食、文化芸術、スポーツを始めとした札幌らしい魅力を再発見し、磨き上げるとともに、新たな観光資源の発掘・創出にも取り組んでいくこととしています。

具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。

意見の概要	市の考え方
<p>○魅力あるまちづくりを勧めてほしい。 例えば、雪まつりといったイベントの衰退が危ぶまれる中、札幌を内外から素晴らしいまちと言われるように変えていく企画が必要。</p>	<p>市民にも来訪者にも魅力的なまちづくりを進めていくことは重要であると認識しており、創造戦略 4-②において、外国人観光客のニーズに合致した観光資源の発掘・創出を図るとともに、既存の観光資源と周辺地域を含めたまちづくりを総合的にマネジメントしていくこととしています。</p>
<p>○観光振興策として、定山溪温泉の魅力を発信すべき。</p>	<p>札幌の重要な魅力資源の一つである定山溪温泉の魅力を高め、広く発信していくことは重要な取組であると認識しています。今後とも、地元観光協会などと協力しながら魅力の向上を図り、効果的な情報発信に努めてまいります。</p>
<p>○テレビ塔や時計台のほかに、新たな名所を作るのが良い。 (類似意見 2 件)</p>	<p>ご意見のとおり、新たな観光名所づくりなどを通じて、集客を図っていくことは必要であると認識しており、創造戦略 4-②において、観光客のニーズに合致した観光資源の発掘・創出を図ることとしています。</p>
<p>○札幌といえば「コレ！」といわれるような食べ物があれば良い。 (類似意見 1 件)</p>	<p>札幌には、ラーメンやジンギスカンなど、有名な食べ物が数多くありますが、更なる食の魅力の向上が重要であると認識しています。 そのため、創造戦略 4-②において、食などの札幌らしい魅力資源を更に磨き上げ、新たな都市観光を創造していくこととしています。</p>
<p>○狸小路は食べもの街、すすきのは飲み屋街として売り出したらどうか。</p>	<p>創造戦略 4-②において、観光資源と周辺地域の総合的なマネジメントを行うこととしており、いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○海外の大型連休向けのイベントや、海外銀行との業務連携などを推進することで、観光客誘致を図るべき。 ○観光はまだまだいけると思う。もっと世界からいろいろな人に来てほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、海外観光客の誘致に当たっては、海外の大型連休を踏まえた観光イベントの展開など、国・地域のニーズを捉えた上で取り組んでいくことが必要であると認識しています。 具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○海外から観光客をどんどん入れたら、食がもっと売れる。札幌には何も無い気がするので、夕張とか田舎と手を組み、北海道ブランドを作れば良いと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、創造戦略 4-②において、外国人観光客等の集客によって、観光消費の拡大を図っていくとともに、創造戦略 5-③において、道内資源を有機的に活用する 6 次産業化を推進していくこととしています。</p>
<p>○札幌やニセコなどに観光客が集中するのではなく、周辺の地域にも波及するような施策をたて、準備すべき。札幌・支笏湖・洞爺湖・小樽・ニセコなどを結ぶサイクリング・スキーツアーの専用コースの設定・整備・道路標識・B & B・レストラン・宅配網等の企画などは、従来のようにある地点だけではなく、そのプロジェクトがカバーする地域を、観光客が興味を持ち、行ってみたいと思う魅力あふれたものにすべき。</p>	<p>道内経済循環の活性化を図るためには、道内市町村と連携し、体験型の観光メニューの開発や交通ネットワークの強化、IT を活用した交通案内などを充実させ、周遊・滞在しやすい環境づくりを進めていくことが必要と考えています。</p> <p>いただいたご意見は、その手法の一つとして、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○観光客が来札して駅を降りたとき、歓迎するようなものがないので打ち出すべき。</p>	<p>市民のおもてなし意識の醸成、観光客の受入環境の向上を図ることは重要であると認識しており、創造戦略 4-②及び 5-④にその旨を明記しています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○札幌市内には英語表記の物がまだまだ少なすぎる。市内中心部しか英語表記が無く、駅は良いが、細かい住所では分からないところが多い。札幌の良さを分かってもらうためには準備がまだまだ足りないと思うので早急に対応した方が良い。</p>	<p>ご意見のとおり、外国人観光客の円滑な周遊のための受入環境の向上は重要であると認識しており、創造戦略 4-②において、交通機関・飲食・商業施設などにおける多言語対応の促進や無線通信環境の充実を図ることとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○「交通機関などにおける多言語対応を促進する」との記載があるが、これは何を指して言っているのか。</p>	<p>交通機関・飲食・商業施設などにおける看板等に外国語表記をすることや、無線通信環境を充実して、利便性を向上させることを想定しています。</p>
<p>○ドイツには民宿の案内所があり、見本市の開催時期は一般のホテルだけではベッド数が対応できず、普通民家の民宿がカバーしている。また、ミュンヘンには、長期滞在に対応する専門の不動産屋がある。観光客受け入れの参考にしたい。</p>	<p>宿泊や滞在形態などを含め、多様な観光客のニーズに対応していく手法の一つとして、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○雪まつり、ビアガーデンなど、イベントは充実していると思うが、単発的な感否めない。単発的だと市内を回ってもらえず、結果市内にはお金が落ちない。朝や夜にしかできないイベントを開催することで、更なるイベントの充実を図るとともに、市内に宿泊してもらい、お金を落としてもらう流れが必要。</p>	<p>札幌・北海道の観光消費の拡大、付加価値の向上を実現するためには、来訪者の満足度の向上や、一人当たりの観光消費額の増加を図っていく必要があります。</p> <p>いただいたご意見のように、滞在日数を延ばす取組は重要であると認識しており、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○札幌のホテルは、収納場所や宿泊料金の体系など、長期滞在客向けになっていない。また、全ての公共交通機関に乗れる一日券や、24時間制の一日券やコインロッカーもあると金銭面で便利。また、鉄道のチッキ制度も有効。</p>	<p>札幌・北海道の観光消費の拡大、付加価値の向上を実現するためには、来訪者の満足度の向上や、一人当たりの観光消費額の増加を図っていく必要があります。</p> <p>いただいたご意見は、その手法の一つとして、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○都心部ではいろいろ投資を考えているが、年1～2回しか来ないような観光客を対象に、それだけの投資をする必要があるのか。札幌市のまちづくりを標榜し行政を推進しようとするならば、全区、平等に恩恵が行き渡るように、配慮、目配りをお願いしたい。</p>	<p>札幌の顔となる都心では、札幌を世界にアピールできるような、魅力的な都心を目指すこととしており、高次な都市機能の集積や、先進的なエネルギー施策の展開などを図ることとしています。</p> <p>また、都心以外の市街地については、地下鉄駅の周辺などに都市機能の集積を図るとともに、郊外住宅地において、日常生活を支える利便機能の立地に対応する土地利用計画制度の適切な運用や、路線バスの利便性向上などに取り組むことで、安心・快適に暮らせるまちづくりを進めてまいります。</p>
<p>○インバウンドの意味が分からない。わかりやすい言葉にすべき。</p>	<p>戦略編は、できるだけ分かりやすい言葉や表現による記載に努めているほか、専門用語には脚注を付記しており、「インバウンド」についても明記しています。</p>
<p>○無線通信環境の充実を図るために、中継基地局が増えたり、出力を上げたりすると、近隣住民には頭痛から心筋梗塞に至るまで数々の被害が出てくる。</p>	<p>テレビ放送や携帯電話などの電磁波については、電波法により免許事業となっており、国によって一元的に扱われています。</p>

意見の概要	市の考え方
-------	-------

4-③ エネルギー転換に対応した環境産業の創造	
○効率の良い太陽光パネルの開発を支援すべき。	ご意見のとおり、高効率の太陽光パネルの開発は重要であると認識しており、創造戦略 4-③において、太陽光などの再生可能エネルギー創出関連技術の研究開発や事業化に取り組む企業を支援していくこととしています。
○再生可能エネルギーは太陽光だけではなく、また発電利用だけではありません。森林資源である木質バイオを広域的に利用するための実証試験も支援すべきです。「木質バイオ」という言葉を具体的に記述すべき。	ご意見のとおり、木質バイオマスの産業化を推進することは重要であると認識しており、創造戦略 4-③において、バイオマス、太陽光、風力、地熱などの再生可能エネルギー創出関連技術やそれらのエネルギーを蓄える技術の研究開発や事業化に取り組む企業を支援することとしています。
4-④ 超高齢社会に対応した健康・福祉産業の創造	
○臨床や学術研究といった理論と、企業の実務を統合していくことはとても有効である。	(原案賛成意見)
○先端医療技術の振興には、丘珠空港の重要性があるのではないかと。神戸空港の開発は先端医療と密接に関連していた。丘珠空港の評価が抜け落ちているように思う。	先端医療技術を活用した産業の振興を図っていくためには、ご意見のとおり、ヒト・モノ・情報の流れを活性化していくことが重要であると認識しており、創造戦略 5-③において、丘珠空港の利用促進を図っていくこととしています。 いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。
創造戦略 5 都市ブランド創造戦略	
5-① 世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開	
○「北方圏」は、札幌にとってすごく大事な要素だと思う。もっと検討をしていただきたい。	ご意見のとおり、「北方圏」は重要な要素であることから、＜ビジョン編＞第 3 章の目指すべき都市像の中で、北方圏ならではの知識や技術を生かしていくことを明記しています。 これを具体化するため、＜戦略編＞創造戦略 5-①において、積雪寒冷地向けの製品・技術を持つ企業等が、ロシアを始めとする北方圏へ海外展開するのを支援するため、北海道や地元金融機関等の海外拠点を活用して企業マッチングなどを実施することとしています。

意見の概要	市の考え方
<p>○海外の方と働く機会も多くなると思うので、国際交流も重要になってくる。</p> <p>また、札幌市の良さを伝えるため、まず、市の良さ、日本の文化を学び紹介する機会があると良い。</p>	<p>ご意見のとおり、企業や市民の国際化を促進することは重要であると認識しており、創造戦略5-①において、若い頃からの海外経験を促すとともに、セミナーなどを通じて多様な文化に触れる機会を提供することとしています。</p> <p>また、創造戦略5-④において、市民や企業が札幌ならではの魅力に誇りを持ち、世界に発信していくシティプロモートを推進することとしています。</p>
<p>○労働人口が減少することで、外国人労働者が増えることが考えられるので、多文化共生のために、外国人向けの広報誌の作成や言語学校の設置も考えるべき。</p>	<p>外国人が活動しやすい環境づくりを進めることは重要であると認識しており、創造戦略5-①において、在住外国人のニーズを踏まえた生活環境の整備を進めることとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○SWOT分析では「中小零細企業の多さ」が弱みに位置付けられているが、中小企業、特に小規模企業の持つ「多様性」は強みであり、そう位置付けた上での施策展開を考えてほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、中小企業の持つ多様性と機動力は強みである一方、更なる経営基盤の強化を図っていくことが必要であると認識しています。</p> <p>こうした位置付けのもと、創造戦略5-①において、中小企業の海外ビジネス展開を推進するため、アジアや北方圏に対するマーケティング活動を支援するとともに、グローバル人材の道内企業への就業支援を行うこととしています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○国際工科大学を厚別山本公園に設置または誘致する。日本が生んだ最先端技術、埋もれている特許などの製品化を国内外の民間企業とも共同研究し、道内、日本はもとより外国にも技術移転し製品を普及させる。国内外の若者も企業人も受け入れることにより、より大きな発想と成果が望まれる。</p> <p>交通アクセスはバスとし、JR 平和駅、JR 厚別駅に接続させるのが良い。</p>	<p>大学・研究機関等の知の集積の活用、産学官連携による新たな価値の創造、グローバル人材の育成・就業支援、優れた人材の知識や経験の活用などは、戦略編の推進に当たって重要な視点であると認識しております。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>

5-② 創造性を生かしたイノベーションの誘発

<p>○産・学・官の連携により、創造性を発揮した様々なイノベーションを起こし、北海道全体の産業競争力を高める努力が必要。</p>	<p>札幌市内には、IT、コンテンツ、バイオなどの特色ある産業が集積しています。</p> <p>こうした強みを生かしながら、産・学・官の連携により、創造的なものづくりにチャレンジする起業家を育成するとともに、文化芸術などの創造的な活動と食、観光、環境、健康・福祉分野など多様な地場産業との交流を促進することによって、イノベーションを誘発していくこととしています。</p>
<p>○札幌コンテンツ特区を最大限に活用して、札幌のすばらしさを数多く発信し、経済面の活性化につなげてほしい。</p>	<p>創造戦略 5-②において、札幌で撮影された商品や景色などの映像が広く国内外で視聴されるプロモーション効果を活用した事業を展開するとともに、撮影現場などで総合的な安全管理を行う札幌市独自の資格制度を創設して、札幌で多くの映像が撮影される環境づくりを進めるなど、札幌コンテンツ特区を活用して、経済の活性化を図っていくこととしています。</p>
<p>○札幌国際芸術祭について、芸術の助成をするのなら、どのような芸術に対してなのかを提示してもらいたい。芸術なら何でも良いというスタンスは失敗を生む。</p> <p>例えば音楽、アメリカのテキサスで行われているSXSWなどのように、一つの物に決めて行動した方がしっかりしたものになるし、無駄な税金もかからない。</p> <p>世界中にある芸術祭を見本に考え、札幌には何が向いているのかを考えてプラン提案をしてもらいたい。</p>	<p>札幌国際芸術祭は、市民が芸術に触れることで生まれる創造性やアイデアによって、まちの活力と経済の活性化につなげていく「創造都市さっぽろ」の取組を象徴する事業です。</p> <p>札幌の魅力である「都市と自然」をテーマにして、国際的な現代美術を中心としながら、音楽やパフォーミングアーツなどの多様な文化芸術分野と複合した展覧会等を実施し、札幌ならではの芸術祭にしていきたいと考えています。</p>
<p>○札幌国際芸術祭ゲストディレクター坂本龍一氏の提案では、アートセンターについて、歴史的建造物を市民に開放されたアートセンターとして活用するためのコンペを提案するとともに、アーティストと市民が協力してワークショップなどを行いながら模索していく持続的なプロジェクトができる体制をもつことが望ましい、とされているが、この点について戦略ビジョンでは言及しないのか。</p>	<p>坂本龍一氏からの提案につきましては、札幌国際芸術祭における実現の可否等も含め、現在検討を積み重ねている段階です。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○札幌の演劇は、支援が多くあるがゆえに行政支援ありきの運営をしており、クオリティが低い。本当の芸術をやっている団体にこそ助成をする必要がある。</p> <p>また、芸術は幅広く誰にでも見られるようにならないといけないと思うが、現在の芝居の料金設定は、誰しもが気軽に観にいけるものにはなっていない。芝居の料金設定を下げたり、舞台芸術のCMなどを市で流してみてもどうか。</p>	<p>札幌市では、より身近に演劇を感じていただき、ファン層を拡大することを目指し、「札幌演劇シーズン」や「札幌劇場祭」といった演劇イベントへの助成を行っています。これらは、民間団体や企業からなる実行委員会を組織し、行政支援だけでなく、協賛金を含めて運営を行っている状況です。</p> <p>多くの方に演劇へ気軽に足を運んでいただく環境を整えることが重要と考えており、今回のご意見は、取組を進める際の参考にさせていただきます。</p>
<p>○札幌国際芸術祭などの開催期間中に、もっと若手の演劇やアーティストが参加、発表できる機会、新しくプロと出会える場を考えてほしい。</p> <p>また、中高生等に早い段階から参加してもらい、次世代への啓発となるような事業もあるといいのでは。</p>	<p>札幌国際芸術祭では、市内の札幌の文化芸術を支えている地元のアーティストやアート関係団体の方々にも、芸術祭の趣旨に賛同し、連携・参加していただき、芸術祭の広がりにつなげていきたいと考えています。</p> <p>また、市民参加については、芸術祭の開催前のプレ企画として、中高生も含めた市民参加プログラムを検討中です。</p>
<p>○「(仮称)市民交流複合施設整備基本計画」において、「都心にふさわしい図書館コンセプト」は、なぜ「都心」に限定しているのか。“多数の人が集う場所”とあるが、札幌の魅力を都心に限定しているように感じる。</p>	<p>(仮称)市民交流複合施設は、新たな活動や交流を生み出す都心全体のまちづくりを先導する交流拠点に位置し、また、札幌の多様な文化芸術活動の中心拠点として多くの人々が交流する場となることを整備目標に掲げています。</p> <p>また、札幌のまちの魅力を高めていくためには、都心が札幌の顔として、その魅力を絶えず発信することが必要であり、本複合施設はその機能の発揮も求められます。</p> <p>その中に設置する図書館として、役立つ情報の提供はもちろん、多くの市民が訪れ、交流し、様々な活動が豊かに広がること、また、市民や来訪者が札幌の魅力を知る導入の場になることなどが期待されており、「札幌の魅力発信」を基本的役割の一つに位置付けています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○文化芸術の産業化を目指した取組を推進するため市民交流複合施設内に設置するアートセンターに関連して、ビジネスに利用出来る生涯学習センターの分室（研修室）を設置して、都心にふさわしい図書館と一体化してビジネス全体に利用すべき。</p>	<p>（仮称）アートセンターの活動内容等については、現在、有識者や文化団体等と検討を行っているところであり、文化芸術の産業化を目指した取組や都心にふさわしい図書館と連携した事業展開は重要であると認識しております。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に引き続き検討を進めてまいります。</p>
<p>5-③ 広域連携ネットワークの強化と投資環境の充実</p>	
<p>○6次産業化の推進には道庁や他市町村との連携が非常に大切であると感じる。</p> <p>○6次産業化は、札幌市だけでは厳しいと思う。他の市町村との連携を重視すべき。</p>	<p>ご意見のとおり、道内の産業間連携を促進していくことは重要であると認識しており、創造戦略5-③において、道内資源を有機的に活用する6次産業化など、あらゆる産業分野において、北海道や他市町村との連携を促進していくこととしています。</p>
<p>○戦前、北海道産ホワイトアスパラガス缶詰は輸出食品の花形。他県と競合するグリーンアスパラから付加価値の高いホワイトアスパラの栽培に移行すべきではないか。ただ生産するだけではなく、料理法を工夫し、北海道で新鮮でおいしいホワイトアスパラ料理を食べようというムードに持っていけないだろうか。農家、都会消費地のレストラン・ホテルなど、経済波及効果を受ける裾野が広い。</p>	<p>ご意見のとおり、道内の一次産品と市内の製造業やレストランなどとの連携を促進し、食の魅力を生かしながら道産品の付加価値を高めていく「6次産業化」を推進していくことは、大変重要であると認識しています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○企業の誘致について、人材に加え、資金・土地など様々な要素を提供して誘致をより進めてほしい。</p>	<p>企業誘致に際しては、人材育成や資金面での支援に加え、広域交通ネットワークの充実など、企業集積を促すための環境整備を進めているところです。</p> <p>今後とも、近隣自治体とも連携しながら、札幌の優位性を生かした企業誘致活動を推進してまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○札幌市内と丘珠空港及び石狩湾新港を包括的に考えたモノレールを中心とする交通アクセスを実現し、石狩湾新港に国内外企業を誘致し、新たな雇用の創出や地元企業への経済的な波及効果が生じるような仕組みを創るべき。</p>	<p>ご意見のとおり、企業集積を通じて、新たな雇用創出と経済の活性化を図っていくことは重要であり、創造戦略 5-③において、その環境整備として、道内外からのアクセスを高め、ヒト・モノ・エネルギーなどの流れを加速させるため、骨格道路網や地域間をつなぐ幹線道路の整備を推進するとともに、丘珠空港や新千歳空港、石狩湾新港の利用促進を図っていくこととしています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○市内の交通アクセスは良いが、少し離れるとそうではない。産地とのアクセスが悪いと感じる。</p>	<p>産業の高度化を図るため、道内資源を有機的に活用する「6次産業化」を推進していくこととしており、産地とのアクセス強化が必要であると認識しています。</p> <p>そのため、創造戦略 5-③において、骨格道路網や地域間をつなぐ幹線道路などの未整備区間の整備を推進するとともに、都心アクセス強化道路軸の検討を国とも連携しながら進めていくこととしています。</p>
<p>○北海道新幹線の札幌延伸が望ましい。 (類似意見 1 件)</p> <p>○北海道新幹線の必要性を感じない。 (類似意見 1 件)</p>	<p>北海道新幹線の札幌延伸は、交流人口や商流の増加を受け入れるための基盤として重要であると認識しており、創造戦略 5「さっぽろ未来創造プロジェクト」にあるとおり、早期実現に向けて、官民一体となって取り組んでまいります。</p>
<p>○新幹線のことを記載されているが、広域連携は道内都市のみで良いのか。新幹線ができれば東北の各都市との交流も重要になってくる。白石区は白石市と交流していると聞いたことがある。東日本大震災をきっかけに福島や宮城、岩手との関係も深まっており、こういう芽を今後 10 年で伸ばしていくような戦略があると良い。</p>	<p>北海道新幹線の札幌延伸により、東北圏との移動時間は短くなり、交流人口も増えることから、文化・経済交流の促進や、新産業の創出などの効果が大きいと期待されます。</p> <p>これまでも、東北の自治体と連携して、北海道新幹線や各地域の PR 等を行ってきたところであり、3年後の北海道新幹線の新函館駅（仮称）開業に向けて、今後も道内都市との連携はもとより、東北の自治体とも連携しながら取組を進めてまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○新幹線・JRの拡充と、丘珠空港の維持は両立できるのか。丘珠空港は道内メインとはいえ、札幌～函館などで優位性はあるのか。</p>	<p>丘珠空港は、札幌と道内地方都市や離島を結ぶ道内航空ネットワークの拠点であるほか、小型航空機やヘリコプターの常駐基地として、防災、医療、報道、測量等において重要な役割を担っており、新幹線延伸後も、引き続きこの役割を果たしていくものと考えています。</p>
<p>○観光都市として、札幌市はとても魅力的であると思うが、他の主要都市に比べ、航空路線が少ない印象。国際線のLCCの導入を増やしたり、拡充促進に力を入れてほしい。</p>	<p>海外とのヒト・モノ・情報の流れを活性化させるためには、広域的な交通ネットワークの充実が必要であり、創造戦略5-③において、海外航空路線の拡充促進を図っていくこととしています。</p>
<p>○丘珠空港を延長、ジェット化し、地下鉄東豊線を乗り入れるなどして利便性を高めるべき。</p> <p>○新千歳はJRの運行状況に影響を受けやすく、札幌からは遠く利便性が良いとはいえない。そこで、丘珠空港のジェット化を提案する。 (札幌の観光活性化の切り札、丘珠空港及び周辺地域の活性化、アジアマーケットとのネットワークづくり)</p>	<p>道内経済循環を高め、道外需要を取り込むためには、道内の産業間の連携を深めるとともに、道央圏にある主要な空港や港湾などとの交通ネットワークを強化し、ヒト・モノ・情報の流れを活性化させることが重要です。その検討に当たっては、ご意見のとおり、丘珠空港の延長やジェット化も考慮すべき事柄ではありますが、解決すべき多くの課題もあることから、今後も引き続き検討を加えてまいります。</p> <p>また、地下鉄の延伸につきましては、将来の人口減少や高齢化の進行、建設事業費が多額であることなどから判断すると、非常に困難な状況にあることから、バス事業者などとも連携しながら、公共交通機関の利便性向上を図っていきます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○若者の起業も大事だが、それだけでは力不足なので、今ある大企業の誘致をもっと積極的にすべき。本社移転の補助金制度をもっと充実させるのはどうか。</p>	<p>ご意見のとおり、高度な都市機能の集積を促し、都市としての価値を高めるため、本社機能の移転受入れを推進することは重要と認識しており、平成25年度から補助制度の拡充を行ったところです。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○道内企業の雇用を増やし、道外への流出を防ぐ必要がある。</p> <p>○様々な勢いのある企業を誘致してほしい。私は、札幌が好きだが、希望する産業の企業が札幌には無く、就職面では本州に出るしかない。</p> <p>○雇用が良くなったという自分達の実感が得られるよう、積極的に取り組んでもらいたい。</p>	<p>雇用を増やし、道外への人材流出を防ぐことは重要であると認識しており、創造戦略5-③において、本社機能などの移転受入れや優位性のあるものづくり産業の誘致、集積を図るとともに、創造戦略6-①において、道内の優れた人材と企業との就業マッチングを推進するなど、新たな雇用を創出していくこととしています。</p>
<p>○海外へ拠点を持つことも大事だが、海外企業の工場や拠点などの誘致を進めてほしい（北海道のシリコンバレー）。</p>	<p>ご意見のとおり、国内外からのものづくり機能の集積を促すための環境づくりを推進していくことは重要と認識しており、創造戦略5-③において、広域的な交通ネットワークの充実を図るとともに、東雁来流通工業系業務地区の整備や新たな誘致適地の在り方を検討することとしています。</p>
<p>○産業振興は民間が主役なので、民間活力を引き出し、市場を活性化する視点をもっと示すべき。</p>	<p>産業振興に当たっては、企業など民間の動きを活性化させていくことが最も重要であり、こうした観点での施策展開を図っていくことが必要だと認識しています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○札幌の未来、都市としての成長を考えるとバックアップ拠点として全国に向けてアピールすることは極めて重要。新幹線、冬季スポーツ大会の後の3番目に記載されているが、1番目に記載して内外に印象付けるべき。</p>	<p>さっぽろ未来創造プロジェクトに掲げる3つの取組は、官民一体となった活動によって推進していくべき重点プロジェクトとして位置付けており、いずれのプロジェクトについてもその実現に向けて、着実に取り組んでまいりたいと考えています。</p>
<p>5-④ シティプロモート戦略の積極展開</p>	
<p>○サッポロスマイルロゴは、良い取組なので、もっとアピールすべき。 (類似意見1件)</p>	<p>札幌の魅力の世界に広く発信していくためには、市民一人一人がその魅力を再認識し、誇りを持って発信していく機運を高めていくことが必要です。</p> <p>このため、創造戦略5-④において、市民や企業が札幌ならではの魅力に誇りを持ち、その魅力を高めて世界に発信していくコミュニティづくりを進めるため、笑顔をキーワードとするシンボルマーク「サッポロスマイル」の普及を一層促進していくこととしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○事業所内保育園やサッポロスマイルなどの取組事例を紹介し、札幌に住んでいることがかっこいいということを広報などでクローズアップして伝えるべき。</p>	<p>ご意見のとおり、札幌ならではのライフスタイルの魅力を発信していくことは重要であると認識しており、創造戦略5-④において、トップセールスなども活用しながら、効果的なシティプロモートを展開することとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○札幌市としてのゆるキャラを生み出す。ゆるキャラ産業を札幌に生み出す。 (類似意見2件)</p>	<p>ゆるいマスコットキャラクター、いわゆる「ゆるキャラ」のPR効果や経済効果が全国的に注目されています。札幌にも様々なマスコットキャラクターが存在しますが、全国的な認知を得るまでには至っていない状況です。</p> <p>いただいたご意見は、今後の参考にいたします。</p>
<p>○冬季スポーツ大会の誘致や冬のイベントの魅力向上についての長期的な取組として、北海道新幹線開通が予想される2030年代に冬季オリンピックを誘致することを検討してはどうか。また宮の森、大倉山はもとより真駒内や手稲山などの1972年のオリンピック関連施設を、地域資源として適正に管理し後世に伝えるべき。</p>	<p>札幌の魅力を感じ、発信する人を更に増やすため、国際的な知名度を高める冬季スポーツ国際大会の誘致を推進することとしています。</p> <p>そのため、本市の有する貴重な資源であるオリンピック関連施設については、円滑な大会運営ができるように、今後も適正な維持管理を行ってまいります。</p>
<p>○文化芸術やスポーツを振興したいのであれば、ただお金を出すイベントを行うのではなく、TVやネットを効果的に使うのが良い。市の後援や協賛で若者を動かすことを考えるべき。何かしたいと考えている人はたくさんいる。</p>	<p>札幌の魅力を感じ、発信する人を更に増やすため、冬季スポーツ国際大会の誘致等を推進していくこととしていますが、この実現のためには、市民、企業、行政が一体となって誘致活動を行うなど、市民一人一人がそれぞれの立場で役割を発揮していくことが必要です。</p> <p>いただいたご意見は、大変心強いものであり、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○5-④シティプロモート戦略の積極展開の成果指標「年間来客数」は、「4-②魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」に掲載すべき成果指標ではないか。5-④に記載するのであれば、4-②の再掲にすべき。</p>	<p>ご意見のとおり、「年間来客数」は、「4-②魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」に掲載した方が分かりやすいことから、記載を一部修正しました。</p>

創造戦略 6 産業人材創造戦略

6-① 将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用

- 教育プログラムを充実し、子どものころから自然や地域に目を向けられるような仕組みをつくと良い。
- 芸術、デザインなど、もっと好きなことができるようになってほしい。
- いろいろな体験ができるような事業、場所を整えたり、短期でほかの場、地域に泊まるなどをした方が良い。

ご意見のとおり、創造性豊かな人材を育成するためには、幼い頃から子どもたちの経験を豊かにする環境をつくる必要があると認識しており、創造戦略 6-①において、札幌の自然や歴史等を学び、文化芸術に親しむ機会や、食育、科学的リテラシー、勤労観や職業観を育む学習機会など、様々な教育プログラムの充実を図ることとしています。

具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。

- 小学校・中学校のうちから職業観を植え付けるべき。学校を卒業したら仕事をするのだということの教育が必要。

職業観の形成には、その年齢に応じた教育プログラムの導入が重要であると考えています。そこで、現在、小学校では、地域の身近な社会人との交流を通して、将来の職業への夢や憧れを持たせるとともに、職場体験を実施しています。

また、中学校では、全ての学校において職場体験を実施し、さらに、平成 25 年度からは夏休みに 1 年生の希望者を対象に、専門学校での職業体験を行う「進路探究オリエンテーリング事業」を実施しています。

いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。

- 中学・高校など、早い段階から社会に目を向けていってもらえるような人材の育成、活用を検討していただきたい。特に高校生は就職か進学を自分の意志で選べる頭と考え方をもてる時期だと感じるため、その支援方法を検討し実践することで社会や地域活性及び人間関係を豊かに構築するきっかけになると考える。
- (類似意見 1 件)

社会で活躍できる人材を育成することは重要であると認識しており、創造戦略 6 において、将来の札幌・北海道経済を支える人材の育成・活用を行うこととしています。

現在、中学校、高校では、全ての学校において、職場体験の実施などの進路探究学習に取り組み、社会に目を向けた学習を進めています。

今後も、さらに効果が得られるような取組の検討を進めてまいります。

意見の概要	市の考え方
<p>○中・高生の企業へのインターンシップを盛んにして、早い段階で卒業後の進路や就職をイメージさせ学習させるべき。</p>	<p>ご指摘のとおり、将来の姿をイメージすることは重要であると認識しています。現在、職場見学・職場体験などを、小学校、中学校、高校の各段階において実施し、進路探究学習の充実を図っており、今後も成長段階に応じた系統的な体験活動ができるよう、取組を進めてまいります。</p>
<p>○留学生を多く呼ぶことよりも、どれだけ定住させるかが大切だと感じる。</p> <p>○札幌で働きたい留学生は意外と多いが、容易ではないと聞いている。国際観光都市の形成のためには、留学生の力を活用することが不可欠。</p>	<p>企業の国際競争力を高め、また、観光都市として発展していくためには、留学生の力を活用していくことが必要と認識しています。</p> <p>そこで、創造戦略 5-①及び 6-①において、外国人留学生の誘致促進から就業支援までの一貫した取組を展開するとともに、外国人のニーズを踏まえた生活・医療・教育などの生活環境の整備を進めることとしており、こうした取組を通じて、グローバル人材の定着を図っていきます。</p>
<p>○留学生や高度人材誘致とあるが、情報の受信と発信の双方が必要であり、来てもらうだけでなく、若い人をどんどん外に送り出し、交流させるべき。</p>	<p>ご意見のとおり、双方向の交流が必要と認識しており、創造戦略 6-①において、国際感覚豊かな人材を育成するため、若い頃からの留学経験を促すとともに、海外との交流促進を図っていくことを明記しています。</p>
<p>○留学は資金が多くかかるので、留学生の誘致に力を入れて、さらに学生に交流させることで、国内で国際感覚を養うことはできないか。</p>	<p>ご意見のとおり、留学生と市内学生が交流することによって、グローバルな視野を持つ市内学生の育成が図られることから、創造戦略 6-①において、大学などが行う留学生誘致活動への支援を行うとともに、札幌市の海外ネットワークを活用した誘致 PR を実施することとしています。</p>
<p>○「経済を支える人材を育てる」とのことだが、道外に流出しない人材育成が大切だと感じた。</p> <p>○人材の育成を強化することは、もっとも大事なことである。しかし、その前に、就職口を増やし、職場の環境も充実させなければ、強化しても意味がないのではないか。</p>	<p>市民の就業の場の確保や、働きやすい環境づくりは重要であると認識しています。</p> <p>そのため、創造戦略 5 及び 6 において、企業誘致や、起業支援、就業支援を推進することで就業の場を確保するとともに、子育て支援環境の充実などを通じて、女性が活躍しやすい環境づくりを進めていくこととしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○道外に出た若者は戻ってこないし、道外から来た学生は卒業したら地元に戻ってしまうので生産年齢人口が希薄。若い世代に、札幌市のまちづくりの方向性を伝えていくべき。まちづくりに参加する若者も増えるのではないか。</p>	<p>戦略ビジョンの基本的な考え方である「市民と共有できるビジョン」を実現するため、各種広報媒体の活用のほか、学校において授業で取り上げるなど、様々な手法を用いて若者を始めとする市民への理解啓発に努めていきます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○「札幌・北海道」の将来を担う人材育成ではなく、「日本」の将来を担う人材育成とすべき。</p>	<p>この戦略編では、札幌の強みや時代の潮流を生かしながら、様々な課題への対応と、まちの魅力を高めていくためのまちづくりの指針として、「札幌・北海道」の輝かしい未来を創造していくための取組を掲げています。そのため、人材育成についても、「札幌・北海道」の将来を担う人材を育成することを明記しています。</p>
<p>○優れた人材の知識や経験などを生かすとあるが、反対に、優れていない人材にはどう向き合っていくのかということの方が重要。平等な社会を創造するのなら、人材育成、支援も平等にすべき。</p>	<p>創造戦略6「産業人材創造戦略」は、札幌・北海道の将来を担う創造性豊かな人材が育ち、誰もが活躍できる環境を整えることを目標に掲げており、この目標を達成し、市民一人一人が力を発揮できる社会が実現できるよう、着実に取組を進めていきます。</p>
<p>6-② 誰もが活躍できる社会の実現</p>	
<p>○女性の結婚、出産後に社会復帰する環境を整える。また、そのような取組に力を入れる企業にインセンティブを与えるべき。</p> <p>○女性が活躍しやすい環境は、女性の立場からすると、本当にそうあってほしい。今後はもっと女性が長く社会で活躍する（働く）と思うので、幅広い年齢層での再就職支援が充実することを希望する。ハローワーク以外でも気軽に相談できる場所がもっとたくさんあれば良い。</p>	<p>働く意欲のある女性の活躍しやすい環境をつくることは重要であると認識しており、創造戦略6-②において、女性の潜在的な力を生かした起業や就職への支援を行うとともに、公開講座などによる離職後のキャリアアップの機会提供を通じて、女性の再就職を支援することとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○女性の起業や就職に対する支援とは具体的にどういった支援なのか。産休・育休を挟んでもキャリアアップに支障が出ない社会になると良い。</p>	<p>起業については女性に特化したセミナーや女性による相談窓口を設け、事業と家事・育児の両立といった経験を踏まえたアドバイスなどを行い、就労については女性が再就職する際に必要な支援を重点的に実施することとしています。</p>

意見の概要	市の考え方
○女性が活躍しやすい環境づくりはとても良いと思う。もっとこの活動が広まれば良い。	(原案賛成意見)
○一部の大企業等にしかない、企業・事務所に併設された保育所を、もっと多くの企業で導入できるような支援をすべき。女性が働きやすくなる。	いただいたご意見のとおり、子育てしながら働きたい女性の活躍を支援するためには、事業所内保育の充実が重要だと考えており、その趣旨が分かりやすいように、文言を追記しました。
○子どもを預けられる場所を増やし、一人でも多くの女性が働ける環境を整えられると、少子化対策にもつながると思う。いろいろな制度が明確にわかりやすくなれば良いと思う。子どもを生んでも生活していけると思える社会を一刻も早くつくるべき。	子育てしながら働きたい女性の活用を支援することは重要であると認識しています。 そのため、創造戦略6-②において、認可保育所の整備を進めるとともに、事業所内保育や休日保育、延長保育などの多様な保育サービスを充実させるほか、放課後児童クラブの利便性向上なども図っていくこととしています。
○「働きながら子育てができる」とあるが、まだまだ育休・産休が社会全体として取りにくいので、そこを企業にむけて行政がどう動いていくか、具体的に知りたい。	働きながら子育てができる環境づくりを進めるためには、企業における取組が重要です。 そこで、育休・産休を取得しやすい環境づくりも含め、創造戦略6-②において、市民や市内企業へのワーク・ライフ・バランスの普及啓発を行うとともに、取組企業へのアドバイザー派遣などの支援を行うこととしています。
○有給休暇を取れるよう働きかけてほしい。	誰もが活躍できる社会を実現するため、有給休暇の取得促進も含め、創造戦略6-②では、市民や市内企業へのワーク・ライフ・バランスの普及啓発を行うとともに、取組企業へのアドバイザー派遣などの支援を行うこととしています。
○ソーシャルビジネスの立ち上げ支援は、経験者同士のグループ化が必要。市の広報誌などを活用し、参加を促しながら取り組んでほしい。	いただいたご意見のとおり、ソーシャルビジネスの立ち上げやその後の運営に当たっては、起業者同志が連携していくことが必要です。 ご意見の趣旨を踏まえ、取組事例を追記しました。

意見の概要	市の考え方
<p>○いかにして高齢者の雇用を作るかが大事。地域コミュニティと経済活動は一体で、そこをどうつなげていくかが大事。</p> <p>○定年を迎えても元気な人々はいるので、農業などで活躍していただくのが良いと思う。</p> <p>○高齢者が持っている力を引き出す環境、動きを作るべき。</p>	<p>豊富な社会経験・知識・技能を持つ高齢者が活躍しやすい環境づくりを行うことは重要であると認識しており、創造戦略6-②において、豊富な知識や経験を持つ高齢者が、企業やソーシャルビジネス等の場で活躍する支援を進めるとともに、遊休農地等を活用して行う自給的農業や就農などを支援することとしています。</p>
<p>○民間の学童にも助成を。児童会館も良いけれど、民間の施設も残してほしい。</p>	<p>民間学童保育所は多様なニーズの受け皿としての役割を担っていると認識しておりますので、引き続き助成を行い、支援を継続してまいりたいと考えています。</p>

第3節「低炭素社会・エネルギー転換」

創造戦略7 低炭素都市創造戦略	
7-① 持続可能な集約型の都市への再構築	
<p>○将来的に人口が減少するので、サービスの規模を縮小して都市の中心部に高齢者が集中して住むようにすべき。その方が、効率的にサービスが供給でき、見守りの目が届くと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、超高齢社会を見据え、地下鉄駅周辺などに機能集積を図ることは重要と認識しており、地下鉄駅周辺などに居住機能も含めた機能集積を図ることとしております。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○公共交通を中心に都市機能を集約すると同時に、周辺の公共施設もそれに合わせて配置し、アクセスしやすくするようにすべき。</p>	<p>公共交通を中心としたまちづくりの推進に当たっては、超高齢社会を見据え、地下鉄駅周辺などに区役所などの公共施設の重点的配置を進めるとともに、生活関連機能の導入などを支援していくこととしています。</p>
<p>○地下鉄駅周辺の機能向上の促進は進めてほしい。特に、真駒内駅の周辺は他の駅より店などが少ないので取組を進めてほしい。</p>	<p>創造戦略7-①にあるとおり、地下鉄駅周辺などの交通結節点へ機能の集積を図ることとしており、真駒内駅周辺についても、南区全体の拠点として、駅前地区の再生に向けた取組を展開していくこととしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○パラダイムシフト「地下鉄駅周辺などへの生活関連機能の導入支援」とあるが、「生活関連機能」とは何か。</p>	<p>ここでいう「生活関連機能」とは、商業等の生活利便機能や区役所などの公共施設、医療・福祉施設などを想定しています。</p>
<p>○バリアフリー化を単なるバリアフリーで考えるのではなく、高齢者の方の障壁を取り除くことはもちろん、経済、都市空間における障壁を取り除くという視点が必要だと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、高齢者を始め、誰もが安心・快適に移動することができる都市空間を形成していくことは重要と認識しており、再開発などを活用した地下鉄コンコースや空中歩廊への接続などによりバリアフリー化を促進することとしています。</p> <p>また、生涯現役社会を実現するために、豊富な知識を持つ高齢者が企業やソーシャルビジネスなどの場で活躍する支援も進めてまいります。</p>
<p>○地下鉄駅周辺などの機能集積を促進するためには、建ぺい率、容積率の緩和が必要。札幌市の場合、建ぺい率の角地緩和の算定要件が本州の他都市と比較して厳しいものとなっている。土地の有効利用のためにも、上記要件を緩和すべき。</p>	<p>ご意見のとおり、地下鉄駅周辺などの機能集積のためには、土地利用計画制度の緩和も必要と認識しておりますが、その手法としては、より高質な複合市街地への誘導を図るため、一律的な緩和ではなく、地域特性に応じた都市機能等の向上につながる取組について、緩和などを行うことが必要と考えています。</p> <p>したがって、再開発や緩和型土地利用計画制度の運用などを通じて、多様な都市機能の集積を図ることとしています。</p>
<p>7-② 多様な活動を支える環境に優しい交通体系の確立</p>	
<p>○自家用車から公共交通への利用転換を促進する とあるが、市民がどの交通モードを選ぶかは、その利便性によると考えられることから、自家用車も含めて各交通モードの利便性を比較した上で、必要な施策を示すべき。</p>	<p>公共交通の利用促進を図るためには、公共交通の利便性の向上に加えて、市民の公共交通に対する意識醸成も重要と認識しています。そのため、創造戦略 7-②において、バリアフリー化の促進などに加えて、学校や地域などで、公共交通について学ぶ機会を設けることなどにより、「自動車の過度な利用を控え、公共交通を皆で支える」という市民の意識醸成を図ることとしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○女性車両を増やしてほしい。 (類似意見 1 件)</p>	<p>「女性と子どもの安心車両」については、ラッシュ時の乗車状況や車両数などを勘案して、南北線、東西線については 1 両、東豊線については、4 両編成と車両数が少なくお客さまへの影響が大きいことが予想されるため、現段階での拡大は困難なものと判断しておりますので、ご理解をお願いいたします。</p>
<p>○小さい子ども（ベビーカー）とお母さんの席と専用席を分けてほしい（別に作ってほしい。）。</p>	<p>ベビーカーの利用者にも配慮したルール作りに向けて国交省が協議会を開き、ベビーカーマークとその取扱いについて年度内にまとめる方向としています。交通局においても、その指針を受けて検討を進めていく予定としています。その際に、いただいたご意見は参考にさせていただきます。</p>
<p>○落下防止策など、地下鉄の機能が新しくなり、良いと思う。</p>	<p>(原案賛成意見)</p>
<p>○子連れだと、地下鉄やバスに乗りにくいと感じる。</p>	<p>今後も、誰もが利用しやすい公共交通を目指し、利用者への安全対策や利便性向上などに、バス事業者とも連携しながら進めてまいります。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○終電をもう少し長くしてほしい。</p>	<p>地下鉄など公共交通機関の営業時間については、利用者のニーズへの対応や利便性向上に加えて、経営上の観点などを総合的に勘案して定めておりますので、ご理解をお願いいたします。</p>
<p>○公共交通機関の利用料金が下がれば、利用者も増え、環境問題対策につながると思う。 (類似意見 1 件)</p>	<p>公共交通機関の運賃については、車両購入などの設備投資や燃料費、人件費などといった運行に要する経費と、収入のバランスを勘案し、料金設定をさせていただいております。</p> <p>今後は、人口構成の変化に対応した公共交通の利便性向上の推進などにより、公共交通の利用促進を図っていきます。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○中央バスでも SAPICA を定期として使えるようにしてほしい。 (類似意見 1 件)</p>	<p>平成 25 年 6 月 22 日から、路面電車やバスにおいても SAPICA が利用できるようになりましたが、北海道中央バスを始めジェイ・アール北海道バス、じょうてつの各バス事業者の SAPICA 定期券については、平成 26 年 2 月からサービスが開始できるよう、各バス事業者において現在準備を進めておりますので、ご理解をお願いいたします。</p>
<p>○ SAPICA で地下鉄やバスなど、他の交通機関と連携できたのは便利で使いやすい。しかし、せっかく変わったのだから、ポイントの還元率を上げるなどの見直しをしてほしい。現行のポイントシステムは複雑で分かりにくく、しかも得をしている感じがしないので、SAPICA への移行をためらう人が多いと思う。</p>	<p>SAPICA については、交通局のみでなく、バス事業者などと共同で「札幌 IC カード協議会」を設立し、サービス内容やシステムの在り方などについて協議を行いながら事業を進めており、SAPICA ポイントサービスについても、各交通事業者の経営状況等も踏まえ、共通に提供していくサービスとして協議の上、決定しております。</p> <p>なお、SAPICA のポイントシステムは、他の IC カード乗車券の多くがポイント利用の際は券売機に立ち寄る等の手続が必要なのに対して、SAPICA は一定の条件を満たせば降車時に自動的にポイントが運賃の支払いに使われるよう、利用される方の利便性を考慮したサービスにしております。</p>
<p>○スクール便が減り、混雑して不便。よく利用するのでバスの本数や運行時間を見直してほしい。 (類似意見 1 件)</p>	<p>地域の足を確保するためには、バスネットワークの維持が重要と認識しておりますが、バスの増便などについては、公共交通として維持していただくだけの需要が見込まれることが必要であり、バス事業者としての経営上の観点からの判断となります。</p> <p>今後は、利用者のニーズや利用実態などの地域特性に応じて、効率的で使いやすい地域公共交通ネットワークを構築するための検討を交通事業者とも連携しながら進めていきます。</p>
<p>○バスに座った状態だと、日光がまぶしく目が開けられない。バスの上段のガラスに色を入れるなど、工夫してはどうか。</p>	<p>公共交通を快適に利用していただくため、バス事業者とも連携しながら利用環境の向上の取組を進めております。バス事業については民間企業による運営となりますが、いただいたご意見は、バス事業者にお伝えし、今後の参考とさせていただきます。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○観光発展のために、地下歩行空間を拡大すべき。</p> <p>○大通～札幌間ができて、とても便利になったので、地下歩行空間の拡大を望む。 (類似意見 3 件)</p>	<p>ご意見のとおり、観光客なども快適に移動することができる空間の創出は重要と認識しており、創造戦略 7-②において、安心・快適な歩行空間を確保するため、地下歩行ネットワークの拡大の検討を進めるとともに、沿道ビルの地下歩行空間への接続などを促進することとしています。</p>
<p>○快適な歩行空間の確保とはどのような取組で進めると考えているのか。</p>	<p>創造戦略 7-②において、再開発や沿道ビルの建て替えなどの機会を捉えて、地下歩行空間への接続や、空中歩廊、民有地におけるオープンスペースの整備などの促進により、超高齢社会に対応した、積雪寒冷地にふさわしい安心・快適な歩行空間を確保することとしています。</p>
<p>○大通りススキノ間のムービングベルト、地下街エレベーターの充実等を進めるべき。</p>	<p>地下歩行空間の利便性向上については、沿道ビルの再開発等を活用したエレベーター設置などによるバリアフリー化等を進めることとしています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○安全のために自転車利用に関するルール・マナーの周知・啓発は必要であるが、これは自転車利用者に対してだけでなく、車の利用者に対しても行うことが必要。</p> <p>○自転車・自動車・歩行者が、それぞれ安心して移動できる対策を考えてほしい。 (類似意見 1 件)</p>	<p>ご意見のとおり、自動車ドライバーに対しても自転車の車道走行に配慮する意識啓発は重要であることから、いただいたご意見を踏まえ、より分かりやすい表現となるように、文言を追記しました。</p> <p>また、自転車利用については、まずは歩行環境の悪化という現状の課題を解消し、自転車利用の適正化を図っていく必要があり、これにより誰もが安全に道路を利用できる環境となることで、自転車の特性が十分に発揮されるものと考えております。</p> <p>そのため、創造戦略 7-②において、総合的な自転車利用環境の改善策を進めることとしています。</p>

意見の概要

市の考え方

<p>○都心部での回遊性として最も効率が良く、環境負荷の少ない自転車の積極的な活用を打ち出すべき。公共交通は万人に最低限のアクセスを保証するものだが、一方で自転車は、自分の意思でいつでもどこへでも行けるという個人の移動の自由を保証するものである。自転車の積極的な活用に向けて、海外の自転車活用の事例に学ぶべき。</p> <p>(類似意見 1 件)</p>	<p>誰もが安心して移動できる交通体系を維持していくため、都市の移動手段の骨格は公共交通機関が担い、自転車は公共交通機関を補完する移動手段として位置付けております。</p> <p>自転車を札幌市の交通体系を構成する移動手段の一つとして十分に機能させるため、まずは歩行環境の悪化という現状の課題を解消し、自転車利用の適正化を図っていく必要があります、これにより誰もが安全に道路を利用できる環境となることで、自転車の特性が十分に発揮されるものと考えております。</p> <p>そのため、創造戦略 7-②において、総合的な自転車利用環境の改善策を進めることとしています。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○都心部など人の通りが多い場所では自転車と歩行者のスペースを分けてはどうか。</p> <p>(類似意見 4 件)</p>	<p>道路は歩行者、自転車など様々な立場の人々が利用する共有空間であり、すべての利用者の安全性を高める必要がありますが、なかでも最も弱者である“人”の安全性の確保が重要と考えています。</p> <p>そのため、まずは、歩行者の歩行環境の悪化という現状の課題を解消し、自転車利用の適正化を図っていく必要があります、これにより誰もが安全に道路を利用できる環境となることで、自転車の特性が十分に発揮されるものと考えております。そこで、創造戦略 7-②において、都心の良好な景観創出を図るとともに歩行者の安全な移動を支えるため、駐輪場の整備・拡大、走行空間の明確化の検討、ルール・マナーの周知・啓発など、総合的な自転車利用環境の改善策を進めることとしています。</p>
<p>○景観の改善や歩行者の移動環境の向上だけではなく、自転車利用環境の向上を目的として、都心部や駅周辺に駐輪場をもっと整備してほしい。小規模でも分散して配置することが望ましいと考える。</p> <p>(類似意見 3 件)</p>	<p>いただいたご意見も参考にしつつ、駐輪場の確保に努めてまいります。</p> <p>しかしながら、需要が発生する箇所・エリアのすべてに公共駐輪場を設置することは困難であることから、自転車利用者の方についても駐輪場から目的地まで歩いて向かっていただくことについてご理解いただきたいと考えており、今後も、市民への駐輪場利用の啓発を進めてまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○今後のポロクルの活用についてはどう考えているのか。</p>	<p>ポロクルは民間企業が運営する自転車共同利用のサービスです。都心部の回遊性向上や、CO₂排出削減、放置自転車の削減などを通じて、本市シティプロモートの推進に資するものであることから、現在、市役所本庁舎や市民ギャラリーの敷地内にポロクルポートの設置を認めるなどの支援を行っています。</p> <p>今後もポロクルとの連携について、検討していきます。</p>
<p>○自転車は環境に優しく健康にも良く、かつ、ここ数年、通勤等利用者激増の勢いから、地下鉄への自転車詰め込み可などは面白いと思う。</p> <p>例えば、駅や店に置いてある自転車を自由に使えるなどしてはどうか。</p>	<p>地下鉄への自転車持ち込みについては、過去に社会実験を実施しましたが、コンコース内での自転車の運搬や安全性の確保などの面で多くの課題が判明したところであり、現段階での実施は困難と考えています。</p> <p>なお、都心及びその周辺においては、民間企業によるサイクルシェアリング「ポロクル」が実施されており、また、札幌市中央区北5条西1丁目駐輪場内では放置自転車を再利用した都市型レンタサイクル「えきチャリさっぽろ」が、札幌駅周辺の駐輪場の指定管理者による自主事業として運営されています。</p>
<p>○成果指標「公共交通の利用度を示す指標」の「公共交通の利用者数」が1日の利用者数なのか基準がわからない。また、目標値が現状値から1万人しか増えていないが、公共交通を推進する割には低すぎではないか。1万人増加分の内訳・根拠を明示してほしい。</p>	<p>いただいたご意見の趣旨を踏まえ、より分かりやすい表現に修正しました。</p> <p>また、現状値を最新の数値に更新することとあわせて、目標値も修正しました。</p> <p>目標値については、生産年齢人口が減少する中においても、公共交通の利便性向上などにより利用者数を増加していく趣旨で設定しており、その数値は、地下鉄、路面電車、路線バス、JRの利用者数の合計としています。</p>

7-③ 自然との共生とみどり豊かな都市づくりの推進

<p>○「生物多様性を守る」ことには、大きく「環境変化に強くなることを目的として、多種多様な種を維持していく」と「希少生物の絶滅を防いで、多種多様な種を維持していく」ことの2つの考え方があるかと思うが、札幌市として、どのようなスタンスで考えられているのかを教えてください。</p>	<p>現在、開発や開拓等の人間の活動が原因で、自然淘汰をはるかに上回るスピードで地球上の生物の絶滅が進んでおり、生物多様性の喪失は温暖化と並ぶ地球環境問題となっています。生物多様性は、種の多様性ととも、生態系及び遺伝子の3つの多様性からなっており、その保全には自然環境や社会環境に関するさまざまな課題に対応する必要があります。</p> <p>このため、札幌市では、平成25年3月に生物多様性保全のための指針である「生物多様性さっぽろビジョン」を策定し、このビジョンに基づき、豊かな自然を次世代に残すために札幌市の自然環境を守るとともに、食物や木材、エネルギーなど世界中の資源に依存し、地球規模の生物多様性に影響を及ぼしている市民一人一人のライフスタイルの見直しを進めることとしています。</p>
<p>○生物多様性の保全とは、何をしているのか。</p>	<p>平成25年3月に策定した生物多様性保全のための指針である「生物多様性さっぽろビジョン」に基づき、自然環境の保全と生物多様性に配慮したライフスタイルの見直しを進めることとしており、創造戦略7-③において、ワークショップの開催などによる普及啓発や調査・モニタリングの実施のほか、円山動物園における学習機能の強化などを推進することとしています。</p>
<p>○「生物多様性」という言葉だと市民はイメージがつかみにくいと思うので、もっとわかりやすく具体的な表現にすべき。</p>	<p>「生物多様性」の意味を市民にも理解していただくために、創造戦略7-③において、脚注を付記しています。</p>
<p>○円山動物園などの施設では、適切な飼育環境により動物を大切にしてほしい。</p>	<p>円山動物園での動物の飼育については、専門家から意見を聞くことや、全国の動物園とも連携しながら、適切な飼育環境により運営しています。</p> <p>また、平成25年3月に策定した「生物多様性さっぽろビジョン」に基づき、動植物の種の保全の重要性などについて普及啓発を図っていきます。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○みどりの総量が減少傾向にある主な原因の記述と、それを改善するための施策が分かるような記述をすべき。</p> <p>みどりが減少していく原因に対して効果的な取組を実施していく必要があり、それがわかるような記述をすべき。</p>	<p>いただいたご意見の趣旨を踏まえ、より分かりやすい表現に修正しました。</p> <p>また、取組については、都市空間創造の基本目標として「札幌型の集約連携都市」を掲げ、今後は市街化調整区域での宅地開発などは原則行わず、あわせて廃棄物処理場の跡地利用をするなどして新たな公園緑地を整備することや、森林・農地などを保全するとともに、市街地においても、再開発などの都市開発を活用しながら、みどり豊かなオープンスペースを創出していくことなどで、みどりを保全していくこととしています。</p>
<p>○豊かな自然を増やすことが大事であり、自然環境の再生や創出など札幌らしい取組を進めるべき。</p> <p>(類似意見 1 件)</p>	<p>ご意見のとおり、みどり豊かな都市づくりは重要と認識しており、創造戦略 7-③において、公園緑地の整備やリニューアルを推進することや、市街地を取り囲むみどり（環状グリーンベルト）の充実を図るために、拠点となる公園緑地の整備を進めるとともに、より効果的な森林管理の手法を検討・展開していくことを明記しています。</p>
<p>○都心のヒートアイランド現象を予防するために、積極的に緑化を進めるべき。</p>	<p>ご意見のとおり、みどりが有するヒートアイランド現象緩和や地球温暖化防止の機能は重要と認識しており、創造戦略 7-③において、新たなオープンスペースの創出や民有地の緑化を促進することとしています。</p>
<p>○街路樹が大きくなり過ぎているため間引きが必要。剪定に費用がかかるのであれば、街路樹の間隔を空けるべき。</p> <p>また、木の下の方から出ている徒長枝は、歩道を歩いている人の邪魔になり、見栄も悪い。</p>	<p>街路樹については、限られた道路空間において育成することが求められております。このことから、道路や植栽状況にあわせた剪定を行い良好なみどりの確保に努めているところです。</p> <p>今後とも、定期的なパトロールによる現状把握に努め、安全でかつ潤いのある道路景観づくりに取り組んでまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○川周辺の草を管理した方が良い。</p>	<p>札幌市が管理する河川については、毎年1回草刈りを実施しております。</p> <p>このほか、良好な水辺環境が保全されることを目的に、町内会・河川愛護団体・企業・NPO等がゴミ拾いや草刈りなどの美化活動を行う際に、ゴミ袋、軍手、タオルの支給、ゴミの回収などの活動支援を行っております。</p> <p>今後も、地域と協力しながら取組の輪がさらに広がるよう努めてまいります。</p>
<p>○北海道大学植物園を市民や観光客が訪れやすくするために、家族がピクニックを楽しめるような環境整備をするなどして、もっと活用していくべき。</p> <p>また、北大構内にはモデルバーン（札幌農学校第二農場等）といった資産もあり、モデルバーンから北大正門や札幌駅北口へ手軽な交通手段を整備するなど、観光客が訪れやすい整備を検討してはどうか。</p>	<p>ご意見のとおり、北海道大学や植物園は重要な観光資源であるとともに、都心のみどりとしても重要と認識しています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にさせていただくとともに、ご意見の趣旨を北海道大学にもお伝えします。</p>
<p>○スポーツができる公園を増やしてほしい。そういう公園が増えることによって、地域の活動にも生かせると思う。</p>	<p>創造戦略7-③にあるとおり、スポーツができる環境づくりを含め、地域特性や市民ニーズを踏まえた公園整備やリニューアルを進めていきます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○多目的にいろいろな世代が集まれる公園を増やしてほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、多様な世代が集う公園としていくことは重要と認識しており、創造戦略7-③において、地域特性や市民ニーズを踏まえた公園整備やリニューアルを進めていくこととしております。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○蛾の大量発生などへの対応をしっかりとしてほしい。</p>	<p>蛾の大量発生に対しては、その生態や駆除方法などを広報さっぽろやホームページ等で情報提供し、市民の皆さまにも適切な対応をお願いしております。</p>

創造戦略 8 次世代型エネルギー創造戦略

8-① 次世代エネルギーシステムの普及促進

○大消費都市として「原発」の存在とどの様に向き合っていくのか。市民としても進む方向を注視している。

まちづくり戦略ビジョン<ビジョン編>の第3章「私たちが目指す札幌の将来」では、「低炭素社会と脱原発依存社会を目指した持続可能なまちづくりを進め、世界に誇れる先進的な環境首都の実現」を掲げています。その実現に向けた道筋を、創造戦略「第3節 低炭素社会・エネルギー転換」で示すとともに、今後、具体的な施策を示すエネルギー基本計画を策定することとしています。

○北海道は今、原発が止まっているにもかかわらず経済が成り立っていると思うので、福島第一原子力発電所の事故を考えると、環境負荷の少ない都市を形成していくことに賛成である。

(原案賛成意見)

○今後は原発に頼らない世の中を目指さなければならぬので、配分を検証し、より良いエネルギーの生産・利用を考えてほしい。
(類似意見 1 件)

ご意見のとおり、原子力発電に頼らない社会を構築していくためには創エネ・省エネの取組が重要と認識しています。

そのため、創造戦略 8 において、エネルギー政策に関わる将来的な構想や基本計画の策定を明記しており、この中で、原子力発電に頼らない社会におけるエネルギーの目指すべき姿や実現に向けた道筋を示すこととしております。

○「東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、今後低炭素社会と脱原発依存社会を実現し、先人が築いてきた財産を未来に引き継いでいくためには、環境負荷の少ない低炭素型の都市構造を形成していくことが大切です。」とある。脱原発依存社会とは未だ確立された言葉ではない。札幌市はその意味を注釈で定義づけているが、実現するための明確な根拠はどこにも記載されていない。市の計画に、こうした言葉の出所やその根拠が明確でないまま使用するの、市民の誤解を招くので不適切と思うし、仮に達成の見込みもないような理想社会を掲げるのは無責任。10年の計画というのなら10年でどれだけのものを実現するのか明らかにすべき。よって、「脱原発依存社会」とは何か、より具体的な根拠（実現するための手順と数値）を示すべき。それができないなら「脱原発依存社会」という文言は削除すべき。

○北海道は特に冬季において、暖房エネルギーの需要が高まることは必至であり、安定的なエネルギー供給に原発は最重要施設と考える。再生可能エネルギーは天候やメンテナンス不足による能力低下、特に冬期間の雪氷の影響により、安定供給とは必ずしも言い難く、主力電源になりえるとは考えにくい。また、火力発電についても既存発電施設の老朽化が懸念され、突発的な事故等が無いとは言い難い。火力発電の新設にも時間がかかりすぎるし、火力発電に頼る場合は二酸化炭素の排出量が増大する。昨今の冬季事情を鑑みるに、燃料の高騰は必至であり、行政の理想追及で市民に更なる負担を強いては本末転倒である。

泊原発においては、過度に不安を煽る声が聞こえるが、事故を起こした福島原発とはシステムが違う上、現在厳しい基準の稼働条件を満たそうと必死である。基準を満たした施設の稼働を行政のワガママで稼働させないのは、市民道民たる職員の労働を蔑ろにしたうえ、努力を踏みにじる行為である。実在の市民、企業活動に眼を向け、札幌の発展並びに北海道の発展の牽引役となって頂きたい。

札幌市が脱原発依存社会の実現を目指すことについては、平成25年2月に市議会で議決された「まちづくり戦略ビジョン<ビジョン編>」の第3章に明記されているほか、平成23年6月と平成25年3月には、原発に頼らない社会の実現に向けた意見書が市議会において全会一致で可決されていることや、平成23年度に実施した市民アンケートの結果などから、多くの市民と方向性を共有しているものと認識しています。

そこで、この戦略編では、脱原発依存社会の実現を目指し、創造戦略8において、エネルギー政策に関わる将来的な構想や基本計画の策定を明記し、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの推進などでエネルギー転換を図るほか、10年間のロードマップと成果指標としての目標値を掲げ、各施策を展開していくこととしています。

意見の概要	市の考え方
<p>○これまで日本や北海道が原発に頼ってきた、頼らざるを得なかった理由を示してほしい。それをしないで、一方的に「脱原発依存社会＝原発ゼロ＝札幌市の目標」というのは間違っていることから、これら一連の文章を訂正・削除すべき。脱原発依存社会という言葉の意味も不確定であり、原発ゼロという目標も現実離れしている。先の総選挙でも明らかになったように、はたしてどれだけの市民が原発ゼロを良しとしているのか。電気料金が値上がりになってはじめて、エネルギー需要と供給のバランスの現実がわかった市民はどれだけいることか。札幌市は、これらを総括して市民に説明していない。国や北海道そして札幌の経済・産業の発展や寒冷な気候の生活に、原子力発電がどう貢献してきたかを評価しないままに、原発をゼロにすることが目的との姿勢を表すのは大いに問題がある。</p>	
<p>○市民がさらに再生可能エネルギーを活用しやすくすると良いと思う。 ○太陽光や地熱、水力、風力などを使って、安心して暮らせるまちにしてほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、市民への再生可能エネルギーシステムの普及拡大は重要と認識しており、創造戦略 8-①において、機器購入に対する補助対象の拡大などによる再生可能エネルギー機器導入支援の強化や、遊休地などに太陽光発電を設置する事業者と土地所有者等のマッチングの推進などを明記しております。</p>
<p>○太陽光発電を利用した都市部でも農業ができる施設を導入してはどうか。</p>	<p>本市では、札幌らしい魅力あふれる都市型農業の振興を図ることとしており、いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○太陽光発電システムのリースを活用すれば、導入も進むのではないかと。</p>	<p>ご意見のような民間による様々なサービスを活用していくことは重要と認識しており、いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○脱原発依存を目指すためには分散型発電（コージェネ）の普及促進が極めて重要であることから、「分散型発電（コージェネ）機器の導入支援強化」と具体的に記述したほうが良い。</p>	<p>ご意見のとおり、分散型電源の普及促進は重要と認識しており、創造戦略 8 において、分散型電源を始めとする次世代エネルギーシステムの導入支援や、自立分散型エネルギー供給拠点の整備を促進することを明記しております。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○道内の豊富な再生可能エネルギーの一つに木質バイオマスがあり、その旨も記載してはどうか。 (類似意見 1 件)</p>	<p>ご意見のとおり、道内の豊富な再生可能エネルギーの一つである木質バイオマスの活用も重要と認識しています。</p> <p>その趣旨がより明確に分かるように、いただいたご意見を踏まえ、表現を一部修正しました。</p>
<p>○国のエネルギー基本計画の見直しが進められており、分散型電源システムによる発電量については、さらに高い目標値となりそうである。よって、札幌市としても、さらに高い目標とすべきではないか。</p>	<p>分散型電源による発電量の目標値は、低炭素社会と脱原発依存社会の実現に向けた目標として、国の「革新的エネルギー・環境戦略」で示されているコージェネレーションの導入量を参考に設定したものです。</p> <p>今後とも、国のエネルギー政策も注視しながら、自立分散型エネルギー供給拠点の整備促進など、各施策を展開していきます。</p>
<p>○太陽光などの再生可能エネルギーを推進するためには、送電線の整備を早く進めるべき。</p>	<p>ご意見のとおり、特に北海道の再生可能エネルギーのポテンシャルを活用していくためには、送電網などの整備が不可欠と認識しており、札幌市としても、国等に対して送電網などの基盤整備を促進するよう、要望してまいります。</p>
<p>○雪を夏場にクーラーとして使い、節電できる仕組みがあれば良いと思う。ただ捨てるだけでなく、雪を再利用できればと思う。 (類似意見 1 件)</p>	<p>札幌市では、モエレ沼公園や円山動物園などで雪冷熱を活用しています。更なる雪冷熱の活用について、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○札幌市には多くの人々が住んでいる。振動エネルギーなどの導入は考えているのか。</p>	<p>振動エネルギーによる発電は、現時点では、発電量が小さく用途が限られることから、主要なエネルギーとして位置付けをしておりません。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○積雪寒冷地である札幌では、建築物の熱損失量の軽減を図るべき。学校などの公共施設において、札幌では建物の窓ガラス・サッシからの熱損失が大きいため、窓を小さく改修し、照度不足をLED照明でカバーすることで、熱損失の軽減を図るべき。その際、建築基準法の採光に関する規定を特区などで緩和することも考えるべき。改修にあわせて耐震化工事や外壁に外断熱工法を施行すれば、耐震性や省エネルギー効果が一層高まり、災害時への対応や環境負荷低減にも寄与するため、検討してほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、建物の高断熱・高気密や省エネルギー機器の導入などは重要と認識していますが、具体的な施行方法などについては、いただいたご意見も参考にしながら、費用や効果などを総合的に勘案しつつ検討いたします。</p>
<p>8-② 自立分散型エネルギーネットワークの展開</p>	
<p>○札幌市は土地の広さが十分ではなく、代替エネルギーも太陽光以外は厳しいと思うので、コージェネレーションシステムなどの推進により、エネルギーの高効率化を求めていくべき。 (類似意見 1 件)</p>	<p>ご意見のとおり、エネルギーの効率化を図っていくことは重要であると認識しており、創造戦略 8 において、既存のエネルギーネットワークも活用しながら、コージェネレーションシステムによるエネルギー供給拠点を整備することや、家庭などへ分散型電源等の次世代エネルギーシステムの導入を促進していくこととしています。</p>
<p>8-③ 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進</p>	
<p>○市有施設へは、太陽光発電やLEDに加えて、分散型電源なども積極的に導入してはどうか。</p>	<p>ご意見のとおり、市有施設への積極的なシステム導入は重要と認識しています。 その趣旨がより明確に分かるように、いただいたご意見の趣旨を踏まえ、文言を追記しました。</p>
<p>○札幌市が所有する全ての施設へ太陽発電を設置し、省エネに積極的に関与するとともに、このような取組を広く発信すれば良いと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、市有施設での先導的な取組は重要と認識しており、創造戦略 8-③において、市有施設へ太陽光発電やLED照明などを積極的に導入することとしています。こうした取組を通じて、市民や企業などに対して省エネ意識の醸成を図ってまいります。</p>
<p>○自然エネルギーなどを学べるイベントがあると面白いと思う。</p>	<p>札幌市では、小学生・中学生が環境のために取り組んでいる活動の発表会など、環境について学べる様々なイベントを開催しています。 いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○節電は札幌市が声をあげていくことが効果的であり、その効果をもっと使うことで、エネルギーに関する考え方を変えていくことが必要。</p> <p>○省エネ行動が結果に結び付いている実感を芽生えさせることや、環境に関する啓発も分かりやすく噛み砕いたものにする必要があるではないか。</p> <p>(類似意見 1 件)</p>	<p>ご意見のとおり、市民に対する省エネ・節電意識の醸成は重要と認識しており、創造戦略 8-③にあるとおり、市有施設における率先した節電対策や太陽光発電等の再生可能エネルギーの積極的な導入、さらには、市民向けの節電キャンペーンなどを実施し、市民に省エネ・節電の定着を図っていきます。</p>
<p>○環境面の取組は都市単位だけではなく、省エネや住宅のエコ化などの政策を強力にやるべき。</p>	<p>ご意見のとおり、省エネや建物の高断熱化などを進めていくことは重要と認識しています。</p> <p>そこで、創造戦略 8-③において、節電キャンペーンやエネルギーの見える化を促進するなどの省エネルギー普及促進事業を推進するとともに、積雪寒冷に関連する技術を導入した札幌版次世代住宅の研究・普及を促進することとしています。</p>
<p>○企業などの自家発電による電力は、道や市町村が買い取り、無駄な余剰電力や二酸化炭素の排出を抑えるようすべき。</p>	<p>太陽光発電などによる余剰電力は、現在は固定価格買取制度によって電力会社等が買い取ることとされています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○特に共同住宅においては、屋内駐車場を推奨することによって、駐車場のロードヒーティング化の抑制による節電や、除雪コスト削減を図るべき。屋内駐車場は建設コストがかかることから、促進のために補助金を出すなどして、居住建造物と駐車場の一体化を図るべき。</p>	<p>共同住宅などの建築計画は、敷地の形状や規模、土地利用規制、利用者のニーズなどにより様々であると考えます。駐車場計画や雪対策についても、それぞれの計画の中で、最適な手法が選択されるものと考えております。</p>
<p>8-④ 循環型社会の構築</p>	
<p>○ごみ減量行動のメリットの見える化を推進することはとても良いと思います。多くの人にそのメリットを伝えて考えを持つことができるように進めてほしい。</p>	<p>(原案賛成意見)</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○家庭から出るごみのうち、容器・包装が多いと思う。商品の包装が従来そのままと、家庭に入ってくるごみの量は減らず、結果として排出されるごみの量も減らない。そのため、簡易包装の推進など、家庭に入ってくるごみの量を減らす方策についても言及すべき。</p>	<p>家庭に入ってくるごみの量を減らすことなどは重要と認識しておりますが、個別具体の取組については、部門別計画で具体化することとしております。</p> <p>簡易包装の推進などについては、部門別計画となる一般廃棄物処理基本計画（スリムシティさっぼろ計画）に盛り込んでいきます。</p>
<p>○高効率なエネルギー回収の推進に賛成です。</p>	<p>（原案賛成意見）</p>
<p>○無料で捨てることができるごみの種類を増やしてほしい。</p>	<p>現在、市が分別収集すると定めた資源物については無料で収集しておりますが、その他のごみについては、ごみ減量とリサイクルを推進していくため、市民の皆さまに一定の負担をしていただきながら収集をしておりますので、ご理解をお願いいたします。</p> <p>また、蛍光管や小型家電など、市と事業者との協働により、拠点回収（無料）を行っている資源物もありますので、今後も、事業者との協働により拠点回収を行うことが可能な資源物の拡充について検討してまいります。</p>
<p>○下水道のスラッジセンターでも污泥焼却エネルギーが大量に発生している。設備改修のときにはエネルギー回収をより積極的に行い有効に活用することが必要である。</p>	<p>ご意見のとおり、未利用エネルギーの有効活用は重要と認識しています。下水道のスラッジセンターにおけるエネルギー回収については、今後の施設の更新時に導入を検討してまいります。</p>

第2章 戦略を支える都市空間

<p>○観光発展のために、地下鉄を延伸すべき。</p> <p>○清田区や手稲区、丘珠空港などへ地下鉄を延伸し、利便性を高めるべき。</p> <p>（類似意見7件）</p>	<p>第2章都市空間において、公共交通を基軸としたまちづくりを進めるため、公共交通の利便性向上に向けた取組を実施していくこととしております。</p> <p>しかしながら、地下鉄の延伸につきましては、将来の人口減少や高齢化の進行、建設事業費が多額であることなどから判断すると、非常に困難な状況にあることから、バス事業者などとも連携しながら、公共交通機関の利便性向上を図ってまいります。</p>
---	---

意見の概要	市の考え方
<p>○路面電車の延伸は良いと思う。 (類似意見 1 件)</p>	<p>(原案賛成意見)</p>
<p>○路面電車のループ化により、駅前通沿道の建替の障害となることや、排水機能の弱体化、電線の地中化も逆効果、タクシー等の利便の悪化にもつながるため、無理をして進める理由はない。</p> <p>○路面電車のループ化は経済的負担が大きく、路面電車沿線の市民のみが対象となるものである。 (類似意見 2 件)</p> <p>○路面電車の延伸はすべきではない。 (類似意見 1 件)</p> <p>○ループ化ではなく、桑園地区や苗穂地区などへの延伸を進めるべき。 (類似意見 1 件)</p> <p>○路面電車は全廃し、その軌道を活用するのなら、DMV(デュアル・モード・ビークル:道路とレールの両方を走行できる乗り物)の技術を活かすことを考えるべき。 また、路面電車の車両をそのままいわ山のロープウェイに乗り入れるような、何処もやっていないアイデアを現実化する為に予算を投入すべき。</p>	<p>路面電車は二酸化炭素の排出が少なく、環境に配慮した公共交通機関でもあり、まちの個性や賑わいを生み出すものと考えており、ループ化とともに、沿道の賑わいを更に高める取組を進めることで、都心に新たな魅力を創出し、これを札幌市全体の魅力向上につなげていきたいと考えています。</p> <p>また、都心、創成川以東、桑園の3地域への延伸についても、検討を進めてまいります。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○路面電車をもっと便利にしてほしい。各組織の連携を取り、スムーズに流れる公共交通機関にしてほしい。</p>	<p>第2章都市空間において、路面電車の利便性向上を図るためループ化とともに、沿道の賑わいを更に高める取組を進めることとしています。さらに、都心、創成川以東、桑園の3地域への延伸についても、検討を進めてまいります。いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○路面電車を整備しているが、冬期間の運営はできるのか。</p>	<p>冬期間の運営については、ささら電車などによる除雪を実施し、冬期間においても定時制が確保されるよう、努めていきます。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○北大周辺やさとらんど周辺などを路面電車などの交通機関でつなげると利用者にとって大きく利便性が向上する。</p>	<p>路面電車については、都心、創成川以東、桑園の3地域への延伸の検討を進めることとしています。</p> <p>更なる延伸については、将来の人口減少や高齢化の進行、建設事業費が多大であることなどから判断すると、非常に困難な状況にあることから、バス事業者などとも連携しながら、公共交通機関の利便性向上を図っていきます。</p>
<p>○都心ばかりが重点的に整備されているが、郊外に住んでいる人にとっては「誰のための整備なのか」と思っている。都心以外にも着目してまちづくりを進めてほしい。 (類似意見1件)</p>	<p>札幌の顔となる都心では、札幌を世界にアピールできるような、魅力的な都心を目指すこととしており、市民や来訪者の快適な回遊性を高めるための取組や、都市全体の環境負荷低減を図るため、先進的なエネルギー施策の展開などを行うこととしています。</p> <p>また、都心以外の市街地については、地下鉄駅の周辺などに都市機能の集積を図るとともに、郊外住宅地において、日常生活を支える利便機能の立地に対応する土地利用計画制度の適切な運用や、路線バスの利便性向上などに取り組むことで、安心・快適に暮らせるまちづくりを進めてまいります。</p>
<p>○都心部の地下歩行空間の上に建つ店舗への客足が減っていることへの対応が必要ではないか。</p>	<p>意見のとおり、地上部のにぎわい創出は重要と認識しており、第2章都市空間において、にぎわいや憩いの場となるオープンスペースの整備や、地上部の道路空間を活用した、にぎわいの創出などを進めることとしています。</p>

意見の概要

市の考え方

○・札幌駅前通の大通からすすきのにかけてのエリアはかなり古くさびれた印象が強い。

- ・商店街のオーナーも高齢化がすすみ空きテナントも目立つ。
- ・街として景観にも統一感がない。

そこで、駅前通の西4丁目交差点を中心にすえてドーム状の屋根を設置してはどうか。空中回廊による歩行空間を整備し、沿道ビルには空中カフェ、スカイミュージアム、イベント・ミュージックステージゾーン、フラワー・ネイチャーゾーンを整備することで、天候に左右されずに一年を通して賑わいづくりに貢献でき、オンリーワンシティ札幌の名所にできる。

ご意見のとおり、都心の魅力向上に資する再開発などの誘導や、商店街の活性化、快適な歩行空間の創出は重要と認識しています。

本市でも、都心部の商店街やまちづくり会社などと共に、今後の都心のまちづくりの方向性や具体の再開発の計画などについて話し合いをしながら、まちづくりを進めています。

また、第2章都市空間にあるとおり、景観に関する制度の見直しや、安心・快適な歩行空間を確保するため、地下歩行ネットワークの拡大などの検討を進めてまいります。

いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。

○JR札幌駅から始まって大通や道庁前に建つ高層オフィスビルの姿は、札幌は「都市計画を諦めた街」の様相になっている。都市にはその生い立ちから醸し出される「町の佇まい」というものがなければならないが、『札幌』はどこにもなくなっていることを市民なら誰もが感じていると思う。都市の魅力とは観光客が押し寄せることではなく、そこに住む市民が快適・安全に生活できることに尽きるものである。

ご意見のとおり、札幌らしい魅力を生かしたまちづくりは重要と認識しており、古くから地域の拠点として形成されてきた地下鉄駅周辺などに機能集積を図ることや、計画的に整備してきた公共交通を中心としたまちづくりにより、誰もが快適・安全に生活できるまちづくりを進めることとしています。

一方で、国内外との交流を促進することで、都市全体を活性化することも重要と考えており、北海道の魅力ある資源を背景とする札幌の強みを引き出すために、広域的な交通ネットワークの強化を図ることや、札幌を世界にアピールすることができる、魅力的な都心のまちづくりを進めることとしております。

いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。

意見の概要	市の考え方
<p>○都心部の自動車交通を排除し、人中心のにぎわいある都市を目指してほしい。札幌の中心部で歩行者天国ができれば、札幌は今以上に人気の都市になると思う。海外他都市も参考にしながら、低炭素社会を目指してほしい。 (類似意見 2 件)</p>	<p>ご意見のとおり、都心では人を中心とした都市空間を形成していくことは重要と認識しており、第 2 章都市空間において、都心を通過する自動車を効果的に抑制するための道路機能強化や、過度な駐車場整備を誘発しないための既存駐車場の有効活用など駐車場設置の在り方等を検討することとしています。</p> <p>また、沿道ビルの地下歩行空間への接続促進や、歩行者天国なども実施しながら、道路空間を活用したにぎわいの創出なども進めていきます。</p>
<p>○「都心アクセス強化道路軸の検討」については、車の利用者の都心へのアクセス性を高めるという意味と理解しており、これは、都心部へのクルマの流入が増えることから、自家用車への過度な依存から脱却する方向の記述と矛盾する。以上より「都心アクセス強化道路軸の検討」の記載の修正、もしくは削除すべき。</p>	<p>都心アクセス強化道路軸については、都心部と高速道路間の交通渋滞緩和や全道各地から都心への人やモノの速達性向上、また経済効果を道内や市内に循環させていくことを目的とし、札幌市及び北海道内の経済活性化などに寄与するものとして重要と認識しており、国と連携し検討を進めることとしています。</p>
<p>○交通ネットワークを考えると、新幹線の札幌延伸を視野に入れるべき。 その際、次のようなことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線駅は、現在の札幌駅と重なるようにつくる。 ・地下鉄東豊線を栄町から丘珠空港まで延長する、又は丘珠空港—札幌駅—新千歳空港を結ぶ高速鉄道をつくり、高速鉄道を地下鉄に乗り入れるという案も検討する。 ・新幹線で札幌に来たビジネス客、観光客等を道内各空港へ行きやすくするよう、丘珠空港と新千歳空港の役割を検討する。 	<p>ご意見のとおり、新幹線の札幌延伸を見据えた取組は重要と認識しており、第 2 章都市空間において、札幌駅交流拠点の整備の検討・実施を行うとともに、新千歳空港などからの都心へのアクセス性向上に向けた取組を進めることとしています。</p> <p>また、丘珠空港は道央圏と道内各地の交流を支える道内航空ネットワークの中核を担う空港として位置付け、その利用促進を図ることとしています。</p> <p>なお、地下鉄の延伸につきましては、将来の人口減少や高齢化の進行、建設事業費が多額であることなどから判断すると、非常に困難な状況にあることから、バス事業者などとも連携しながら、公共交通機関の利便性向上を図っていきます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>

意見の概要

市の考え方

○東区丘珠の核となりうる丘珠空港を活用していくために、空港に至る計画街路を新設することや、北側に空港入り口を確保すること、災害対策としての雨水対策の強化、食糧等の備蓄施設を整備してはどうか。

道内や国内外からのアクセス性を高め、ヒト・モノ・エネルギーなどの流れを加速させるため空港や港湾を活用することは重要と認識しており、創造戦略5-③において、丘珠空港や石狩湾新港などの利用促進を図ることとしておりますが、現在のところ、丘珠空港に至る新たな道路の計画はございません。

また、備蓄施設については、小中学校などに分散配置するとともに、今後、市内各地へのアクセス性なども考慮しながら、物資配送拠点となる防災備蓄倉庫（拠点倉庫）を整備していくこととしております。

雨水対策についても、災害に強い都市を構築する上で重要と認識しており、丘珠空港周辺におきましても、これまで航路川を始めとした河川整備を実施してまいりました。（現在のところ新たな雨水対策の計画はございません。）

いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。

○「景観」を考える事は、創造や観光など他の戦略にもからむ上で重要と思う。「景観」を軸にして考えてはどうか。

札幌の景観は、都市空間整備との一体的な取組によって景観形成がなされているとともに、良好な景観が文化、観光資源として活用されており、各戦略を推進していくための一つの切り口として引き続き重視していきたいと考えています。

このことから、第2章都市空間の中で「札幌らしい景観まちづくりの推進」に取り組むこととしております。

魅力ある市街地の形成に向けた今後10年間の施策の方向性の中で、いただいたご意見を参考に、景観計画の見直しなどを進めていきます。

意見の概要	市の考え方
<p>○テレビ塔より高いマンションが近くに建ち、遠くから見えにくくなった。札幌のシンボルなので、もっと存在感を出してほしい。また時計台は、もう少し緑のある景色の中にあると良いと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、テレビ塔はシンボル性の高い景観資源として重要と認識しており、平成 25 年に行われた塗装の塗り替えに当たっても、景観上どのような配慮が必要なのか、札幌市の景観審議会において議論してきました。</p> <p>今後も、シンボル性の高い景観資源として、魅力向上を支援してまいります。</p> <p>また、時計台についても、時計台の歴史や札幌の原風景を連想させるような植物を植栽するなど、観光に訪れる方々や市民の目を楽しませるとともに、観光文化資源としての魅力をより一層高めていきます。</p>
<p>○「街並み創り」(景観形成)を市民と共有する「システム」に期待する。</p>	<p>ご意見のとおり、まちづくりの目標などを市民と共有することは重要と認識しており、第 2 章都市空間において、市民・企業の景観に対する関心の喚起や、より主体的に関わる機会の創出などにより、景観まちづくりを促進していくこととしています。</p> <p>いただいたご意見は、札幌市景観計画などの見直しを検討する際の参考にいたします。</p>
<p>○リーディングプロジェクトの一つである新さっぽろ駅周辺のまちづくりに当たっては、「副都心としての総合的な役割」を果たせるものとして進めてほしい。商業・医療・健康・福祉に加えて、子育て・多世代間交流機能も十分に充実するよう配慮し、他都市においても将来的なモデルとなる「副都心整備」の計画を策定し、実施してほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、新さっぽろ駅周辺のまちづくりは重要と認識しており、第 2 章都市空間において、新さっぽろ駅周辺を都心機能の一翼を担う先導的な拠点として位置付けた上で、市営住宅余剰地などを核として、商業機能の充実や、超高齢社会に対応した健康・福祉産業を始めとする高度な業務機能の集積などの推進、歩行者ネットワークの充実、エネルギーの面的利用などを検討・推進していくこととしています。</p> <p>今後も、ワークショップ等で地域の声も聞きながら、新さっぽろ駅周辺のまちづくり計画の策定を進めてまいります。</p> <p>いただいたご意見は、計画策定の参考にいたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○再開発は、住民との合意形成や景観面での合意も必要。その点の視点をもっと書き込むべき。</p>	<p>再開発の実施に当たっては、これまでも住民や地権者との協議を重ね、合意を得ながら進めてきており、今後も同様に進めていきます。</p> <p>また、第2章都市空間において、再開発を実施する複合型高度利用市街地では、多様な機能の立地を促進するとともに、良好な都市景観の形成をあわせて図ることとしています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○さとらんどの仮称・古代の里構想に期待しており、ビジョンにも位置付けてほしい。</p>	<p>いただいたご意見の趣旨を踏まえ、より分かりやすくするために文言を追記しました。</p>
<p>○市民の財産であるモエレ沼公園とサッポロさとらんどへの大量交通機関として、地下鉄などの既設公共交通機関とのアクセスを念頭に置いて、沿線に近い方や市民から出資をうけ、事業資金を調達し、無人運営のモノレールを設置してはどうか。モエレ沼公園・さとらんどなどを更に活用することで、札幌の魅力を高めていくことが必要である。</p>	<p>第2章都市空間において、公共交通を基軸としたまちづくりを推進するため様々な取組を実施していくこととしておりますが、いただいたご意見は、今後の参考にいたします。</p> <p>また、モエレ沼公園・サッポロさとらんど周辺を高次機能交流拠点として位置付け、市民や来訪者の創造性を刺激する多様な活動拠点としてさらなる活用を図っていきます。</p>
<p>○北海道大学周辺は高次機能交流拠点として位置付けられているが、その機能強化や高度化が一層進むように、国内外の研究者や民間企業関係者の北海道大学北キャンパスへのアクセシビリティ向上による人の集積・情報交流も重要な取り組みと考えます。そのため、国内外の研究者や民間企業関係者の利便性を考慮し、札幌駅から産官学の研究機関が集積している北海道大学北キャンパスへ直接つなぐよう、路線バスなどの公共交通の整備等をすべき。</p>	<p>ご意見のとおり、高次機能交流拠点として、北海道大学周辺の高度化などは重要と認識しており、産・学・官の協働により、活力ある企業や人材の育成などに向けて連携して取り組んでいくこととしています。</p> <p>バス路線の新設については、公共交通として維持していただくだけの需要が見込まれることが必要であり、バス事業者としての経営上の観点からの判断となりますが、さらに研究機能の集積が進むことにより利用者のニーズなどが拡大していくことに応じて、効率的で使いやすい地域交通ネットワークを構築するための検討を交通事業者や大学当局とも連携しながら進めていきます。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○円山動物園、藻岩山、札幌テクノパークなど、知っているところ以外にも今後拠点となりうる場所が分かってよかった。このような場所を、例えばクイズ形式を取り入れるなどしてアピールし、より幅広く周知できたら良いと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、観光地などの情報発信は重要と認識しており、今後も、観光地や産業団地などに関する情報発信を積極的に行っていきます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○清田区には、他区にあるような施設がない。清田区役所を中心に人を呼ぶようなまちづくりを進めてほしい。 (類似意見 4 件)</p>	<p>第 2 章都市空間において、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして区の拠点としての役割を担う地域などを地域交流拠点と位置付けており、清田地区もこの地域交流拠点の一つとしております。</p> <p>地域交流拠点では、拠点機能の向上を図るため、再開発や緩和型土地利用計画制度の運用のほか、様々な制度や支援策の運用などを通じて、多様な都市機能の誘導を図ることとしており、清田地区についても、いただいたご意見も参考にしながら民間施設の動向やまちづくりの機運の高まりに応じて、地域とともにまちづくりを進めてまいります。</p>
<p>○清田の公共交通はバスであるが、本数も足りなく、不便である。また、大型商業施設の影響もあり、国道 36 号や羊ヶ丘通など主要幹線の渋滞が激しい。実態調査などを行い、渋滞緩和に向けた取組を、バス会社とも連携して考えてほしい。</p> <p>○10 区横並びではなく、清田区を特区的に考えてほしい。他区とは違う、清田区らしい取組を考える必要があるのではないか。 (類似意見 1 件)</p>	<p>第 2 章都市空間では、清田において、その拠点性を高めるため、バス待ち環境の改善など公共交通サービスの利便性向上などに努めることとしており、渋滞緩和に向けた取組や、バス事業者とも連携しながら、バス等の利便性向上に向けた取組を進めてまいります。</p> <p>具体的な取組については、いただいたご意見を参考に検討いたします。</p>
<p>○豊かな自然環境など、清田区の特長を生かしたまちづくりを考えていくべき。 (類似意見 1 件)</p>	<p>地域の特性を生かしたまちづくりは重要と認識しており、第 2 章都市空間において、市民や企業等が連携して地域資源を活用しながら生活環境の維持・向上を図る地域マネジメントの導入の推進や、良好な住環境の保全等を図るため、地域が主体となった地区計画などのまちづくりルールの策定に向けた取組を支援することとしております。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>

意見の概要

市の考え方

<p>○市内中心部における古いマンションの空き室対策として、容積率の緩和をすることで建て替えが進む。それにより、郊外に住む高齢者の住み替えがおき、市のコンパクト化につながる。郊外住宅は空き家になることから、市は公園または畑として買い上げて、畑は固定資産税相当の価格で貸してはどうか。</p>	<p>第2章都市空間においては、都心や地下鉄駅周辺に都市機能が集約されたコンパクトな都市を構築することとしていますが、都市機能の集約に当たっては、より高質な複合市街地への誘導を図るため、一律的な容積率の緩和ではなく、地域特性に応じた都市機能等の向上につながる取組みについて、緩和などを行うこととしております。</p> <p>また、郊外の住宅地については、空き家や空き地などを適切に管理・活用する新たな手法を総合的に検討していくこととしております。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○南区の人口減少の原因として交通手段がないことがあげられる。ビジョンに「多様な活動を支える環境に優しい交通体系の確立」とあるが、お題目で終わらせてほしくない。例えば、高齢者は利便性の高いマンションに住んで、若い人は郊外に行けるようなまちづくりがあっても良いのではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、住まいの多様性を確保していくことは重要と認識しており、第2章都市空間において、地下鉄駅周辺などでは、高齢者の生活も支えるために、超高齢社会の到来に対応した都市機能の集積を図るとともに、郊外住宅地においては、バスの利便性向上を図るなど、安心して暮らせる住宅地を目指すこととしております。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○コンパクトシティを目指すに当たっては、税金投入せずとも、人口が減るに応じて要らないものはなくなり必要なものは残るのであり、自然淘汰で良いのではないか。</p> <p>拠点への機能集約といった既存の考え方を飛び越えて、この先は在宅で生活が完結するライフスタイルまでを見据えた方が良い。</p>	<p>第2章都市空間においては、地下鉄駅周辺などに都市機能を集約することで、効率的に都市サービスを享受できるコンパクトな都市、良好な環境を備える郊外での暮らしも選択できる、札幌らしいライフスタイルを実現できる都市を目指すこととしております。その実現に当たっては、公共施設の効率的再配置を進めるほか、再開発などの民間の活力も生かしながら進めていくこととしております。</p> <p>また、インターネットショッピングや宅配サービスなどの在宅でも受けられるサービスを活用することも重要ですが、高齢者なども日常的に歩くことで地域の人達とふれあうことも必要と考えていることから、歩いて暮らせるまちづくりを進めていくこととしております。</p>

意見の概要

市の考え方

<p>○南区の開発を進めてほしい。</p>	<p>第2章都市空間において、澄川駅や真駒内駅を地域交流拠点として位置付け、周辺地域の住民もアクセスする場としての利便性の向上を図ることとしております。</p> <p>また、郊外の住宅地については、低層住宅地を主体とした良好な市街地を維持・保全していくために、日常生活を支える利便施設の立地などに対応することとしており、地域の特性に応じたメリハリのある市街地形成を目指すこととしております。</p>
<p>○数十年、数百年先を考えると、真のコンパクトシティ化を進めなくてはならない。郊外住宅地についても「集住」という考え方をとり、一方で緑地・菜園・庭などをスーパーブロック化して緑を核としたコミュニティをつくり、あわせてインフラの効率的な更新、維持管理の効率化を図るということを今から視野に入れてはどうか。具体的にコンパクトシティを目指す取り組みを、長期的視点で着実に進めていく時期にきているかと思うので、検討してほしい。</p>	<p>今後10年間の人口の見通しでは、約3万人弱の人口減少が見込まれる中にあることは、これまで計画的に整備してきた良好な郊外の住宅地は、その環境を維持・保全していくことで、安心して暮らせる地域としていくことが必要と考えております。</p> <p>一方で、ご意見のとおり、数十年先を見据えたコンパクトシティに向けた検討も必要と認識しており、第2章都市空間において、空き家や空き地を活用する新たな手法を総合的に検討することや、ライフサイクルコストの縮減や更新費用の平準化を図るなど、都市基盤の効率的かつ計画的な維持・保全を進めることを明記しています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○ライフスタイル充実の一環として、運動できる場所（ボールを使える場所）を増やしてほしい。例えば体育館など、室内でフットサルができるところがほしい。学校開放では偏ったチームが使っており、仲間で集まっても運動できる場所が少ない。</p>	<p>市民の健康増進と体力づくりの場を提供するという観点から、体育館や温水プール、野球場などを市内各地に整備しており、新たに中央体育館の建て替えも実施いたします。しかし、更なるスポーツ関連施設の新設については、今後、人口減少社会を迎える中にあることは、慎重な検討が必要になると考えています。</p> <p>このような中、学校解放については、市民へ運動の場を提供するための取組の中でも大きな柱のひとつとして位置付け、推進しているところです。</p> <p>なお、学校解放の利用については、申し込み後、抽選で利用者を決定していることから、ご利用の希望に添えない場合もございますが、ご理解をお願いいたします。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○低炭素都市や交通網の再構築を考えるなら、タクシーの量を減らすことや、警察の見回りは車ではなく自分の足で見回りをするなどの工夫が必要。</p>	<p>自動車から公共交通への利用転換を図ることは重要と認識しておりますが、目的や移動区間に応じて、一定の自動車利用も必要であると考えていることから、自動車の利用自体を一律に抑制するのではなく、過度な自家用車の利用を控えた生活を支えるために、公共交通の利用促進などを図ることとしております。</p>
<p>○歩道がない道路には、車両が入ってこない領域を明示してほしい。</p>	<p>歩行者の交通安全対策は重要と認識しており、ハード、ソフト両面において取り組んでいるところです。</p> <p>歩道がない道路に自動車が入ってこない領域を設けるには、道路の左側に二重の区画線（白線）を明示することで可能ではありますが、明示に当たっては、個別の路線ごとに、交通管理者である警察、道路管理者、地元の方々等と道路の構造や交通の流れ等を慎重に確認の上、決定することが必要となりますので、ご理解をお願いいたします。</p>
<p>○市内で未だに汲み取りを行っている光景を目にする。190万都市札幌の中心でこれでは如何なものかと思えます。下水の整備を完全なものにするべきと思う。</p>	<p>第2章都市空間にあるとおり、札幌市の下水道普及率（処理人口普及率）は平成22年度末で99.7%となっており、ほとんどの市民の方が下水道を利用できるようになっています。</p> <p>市街化区域内の公道には、ほぼ下水道管が布設されている状況です。下水道が使用できるようになった地域においては、汲み取り便所を水洗トイレに改造していただくこととなりますが、お住まいの方の事情により、すぐには水洗化されない場合があります。</p> <p>札幌市では下水道の利用に関する広報活動を行うとともに、水洗化に当たっての各種制度も設けています。</p>
<p>○将来の都市空間の姿がイメージできるものがあると良いと思う。</p>	<p>将来の都市空間がイメージできるように、第2章の都市空間において、都市空間の概念図を記載しています。</p>

意見の概要	市の考え方
○地図が見やすく良いと思う。	(原案賛成意見)
○目指す都市空間、とても良いと思う	(原案賛成意見)
○幼稚園、保育園、小中高校、病院付近に携帯基地局を建てるときは厳しい基準を設けるべき。	テレビ放送や携帯電話などの電磁波については、電波法により免許事業となっており、国によって一元的に扱われています。

第3章 戦略の展開に当たって踏まえるべき行財政運営の視点

○市民が主役であっても、行政の主導性が重要であり、このビジョンの実現に向けての行動を望む。もちろん市民としても協力したい。	戦略ビジョンの実施に当たっては、「市民が主役のまちづくり」という市民自治の本旨を基本として、市民と行政の協働により、取り組むことが重要であると考えています。今後ともご理解をいただきながら進めてまいりたいと考えております。
○まちづくりセンターの存在など、もっと周知に力を入れて、市民が知ることで興味を持てるし、行動もできると思った。 ○みんなで札幌を良くしようということを、市民に対し呼びかけ、参加いただく中で、一緒にまちをつくっているという実感を市民に持ってもらえるといい。	第3章において、徹底した情報提供と市民議論を通じて、「自分たちのまちは自分たちがつくる」という市民自治を深化させていくこととしています。 いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。
○市民自治の深化を進めてほしい。	(原案賛成意見)
○現在札幌市の一部部局においてモニター制度を設置しているが、市民自治を更に深化させるための方法として全庁的な市政モニターを新たに設置し、対話的な広報広聴活動を行っていくことを本計画に明記すべき。	ご意見のとおり、特定のテーマについては、各部局においてモニター制度などを実施し、市政全般については「1万人の市民アンケート」や「市政世論調査」を行うなど、テーマの規模や性質に応じた広聴活動を行っています。 ご提案の全庁的な市政モニターについては、モニター制度とアンケート調査双方の役割を備えたものとして、幅広い多様な声を寄せていただくことが期待できますが、効率性や即応性等の観点から、十分検討しなくてはならないものと考えます。 なお、対話的な広聴活動としては、市民と市長とが幅広いテーマで対話を行う「ふらっとホーム」等を実施しており、今後もこうした取組を進めていきます。

意見の概要	市の考え方
<p>○様々な行政課題の変化に対応できる職員の育成に大いに期待したい。行政の質を高めるも低めるもそこに働く職員にかかっている。自分の現在の担当分野を超えて札幌市のまちづくりの在り方を常に意識している職員になっていただきたい。</p>	<p>(原案賛成意見)</p>
<p>○第3章に書かれていることは、具体的な予算の裏付けを持って記載しているのか。厳しい財源の中で、できることは限られてくるのではないか。</p>	<p>今後、この戦略の方向性や視点に沿って、財政的な検討を加えた中期実施計画や行財政運営の計画を策定していくとともに、必要に応じて、個別計画の策定や見直しを行い、具体的な取組を進めていくこととしています。</p>
<p>○「柔軟で機動的な財政」は、社会保障の負担が増える世の中では難しい印象を受けた。</p>	<p>社会保障の負担増など、今後も厳しい財政状況が続くことが見込まれますが、このような中でも、財政規律を保ちながら、パラダイムの転換を踏まえた新たな市民ニーズに的確に対応していく必要があります。</p> <p>そのため、第3章において、慎重かつ堅実な経済見通しに基づき事業の積極的な重点化を図りつつ、刻々と変化する社会経済情勢や不測の事態に敏感に反応する予算対応を図っていくこととしています。</p>
<p>○世代間の平等はできるだけ徹底してほしい。</p>	<p>今後の行政サービスや施設整備に当たっては、世代間のバランスが重要であると認識しています。</p> <p>そのため、第3章において、こうした点を踏まえた行政サービス水準の在り方を検討する旨を明記しています。</p>
<p>○老朽化するインフラの維持管理にどれくらいの予算が必要と試算しているのか。限られた予算と、住民のニーズにどう折り合いをつけていくのか戦略が感じられない。市民参加の具体的な方法論も含め、議論し提示すべき。</p> <p>○現在あるものの維持・管理（橋・トンネル・公共施設）を徹底することの方が優先だと思う。</p>	<p>札幌市では現在、人口の減少や少子高齢化の進行に伴う市民ニーズの変化等に対応していくため、効果的かつ効率的な市有建築物のあり方についての検討を進めており、この中で今後の市有建築物の更新・保全コストについても試算しています。また、その他のインフラについても、効果的・効率的な維持保全を進めていくこととしています。</p> <p>具体的な検討については、こうした取組の中で深めていきたいと考えており、各種取組の実施に当たっては、市民自治基本条例に基づき、適宜、市民参加を取り入れながら進めてまいります。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○児童会館・学校などの社会資源の有効活用ができるよう、「全庁的に支援可能な体制作り」を確実に行って頂きたい。また、その推進に当たっては、活用にかかる説明の場を積極的に設けて頂きたい。地域の運用（運営）及び利用責任者となる「コーディネーター育成」への支援を検討して頂きたい。</p>	<p>既存の社会資源を従来の機能にとらわれずに、複合的に活用することが重要であり、これを戦略ビジョンに明記することで全庁的に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>また、活用に当たっては、市民と共にその在り方を検討していきます。</p> <p>さらに、その主体となる地域の活動が活発化するように地域マネジメントにも取り組んでいくこととしており、いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○自分達でやろうとして予算が足りなくなったら、外部組織との連携を密にとってほしい。成り手がいない状況なので、そういう「つなぐ」役目の方に役所は重点を置くべき。</p>	<p>多様化する社会的課題に対しては、社会が一丸となって取り組むことが効果的であると認識しており、第3章において、「市民・企業などとの連携の強化」を進めることとしています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○特別養護老人ホームの整備など札幌市のまちづくりの計画に申請した事業者については、不動産の先行取得など計画に関連する固定資産税等を一定程度自動的に減免する制度の創設を是非お願いしたい。</p>	<p>特別養護老人ホームなど、札幌市のまちづくりに必要な都市基盤の整備について、企業などとの連携強化を図ることは重要であると認識しています。</p> <p>第3章において、都市の価値の総合的な向上を図るために、都市基盤の整備等については、規制緩和や補助制度などを通じて民間企業の投資の動きを活発化するための支援を行っていくこととしています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の検討を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○市内に都心や拠点を設けるとしているが、市という行政域を超えた広がりを考えてほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、市域を超えた広域連携は重要と認識しており、第3章において、様々な分野において連携を深め、北海道や道内市町村との互恵的（Win-Win）な関係を築いていく「道内連携推進プロジェクト」を展開していくこととしています。</p> <p>また、第2章都市空間においても、道内外をつなぐ広域的な交通ネットワークの充実や、広域的な再生可能エネルギーの普及促進を図ることとしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○道内連携について、札幌国際芸術祭の坂本龍一氏より、広域地域連携としては、白老町のアイヌ民族博物館、夕張市石炭博物館が挙げられていることを言及して良いのではないか。</p>	<p>札幌国際芸術祭ゲストディレクター坂本龍一氏より、芸術祭における域外広域地域連携先として白老町のアイヌ民族博物館、夕張市石炭博物館が挙げられていますが、その実現については現在検討中です。</p> <p>道内市町村との連携については、北海道、道内中核都市、札幌広域圏構成市町村との連携をまずは念頭に置くこととしており、ご意見にある事例は、今後の継続性なども見極めながら取り組んでまいりたいと考えています。</p>
<p>○道内連携には、中核都市にも札幌広域圏にも当たらない小樽市については全く触れていないが、小樽市こそ観光や経済のうえで連携を進めるべきパートナーの一つではないか。</p> <p>また、地下鉄始発駅（ゲートウェイ拠点）については、周辺市町村や近隣の魅力資源等との連携などを促進するとして、厚別区と江別市や北広島市が例示されているが、このほかにも北区と石狩市、清田区と北広島市・恵庭市など、近隣市町村との市民レベルの連携・交流に当たっては、区の役割も重要なのではないか。</p>	<p>小樽市とは、企業誘致の面で連携を深めており、創造戦略 4-①などにおいて、連携した積極的な企業誘致活動を展開していく旨を明記しています。</p> <p>また、周辺市町村との連携は、各区においても取組が進められており、今後も区レベルでの市民交流が進められることは望ましいことであると考えています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>
<p>○臨時財政対策債について、脚注だけではよく分からないため、詳しい解説をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方交付税は各種税金の一定割合が原資になっているのに、地方債を発行して借り入れる必要がある理由 ・臨時財政対策債が年々増加していくと見込まれる理由 	<p>地方交付税については、地方自治体の標準的な行政サービスの確保に必要とされる全国総額が、その法定財源である国税の一定割合等を超えており、その不足分に対応するため、各自治体において臨時財政対策債を発行することとされ、元利償還の際に地方交付税により措置されます。</p> <p>今後についても、平成 25 年度予算と同額の発行が必要と仮定し試算を行った結果、図 3-2 の通り残高が増加すると見込んでいます。</p>
<p>○道州制の議論次第では、このビジョンはどう影響を受けるのか。様々なシミュレーションがあると考える。</p>	<p>戦略編は、国の制度や社会経済情勢の変化に応じて、適宜、中間点検や評価を実施し、必要に応じて見直しを行うこととしています。</p>

意見の概要	市の考え方
<p>○札幌市の附属機関等における公募委員の導入率は高いとはいえない。そのため、すべての附属機関等で公募委員を導入することを目標として、公募委員を積極的に採用していく旨の記述を明記すべき。</p>	<p>公募委員の導入推進は、自治基本条例第21条第4項で明確に位置付けられており、これに基づいて全庁的に拡大に努めているところです。</p>
<p>○会社員が行ける時間帯にも窓口を設置してほしい。</p>	<p>区役所の各種窓口については、3月から4月の繁忙期において、時間延長などに取り組んでいます。この他にも各種手続きの利便性の向上にも努めていくことを「行財政改革推進プラン」に明記しています。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考にいたします。</p>

6 キッズコメントの主な意見の概要とそれに対する札幌市の考え方

(1) 当初案に修正を加えたもの

意見の概要	市の考え方
-------	-------

第1章 創造戦略

第1節「暮らし・コミュニティ」

創造戦略 1 地域福祉力創造戦略

1-③ 災害に備えた地域防災体制づくり

地震などの災害に備えて、学校での防災教育や備蓄物資を充実してほしい。

<主な意見>

- 学校で防災を学んだら良いと思う。
- 学校への備蓄や防災教育など、災害に強いまちづくりに取り組んでほしい。
- 地震などに備えるのはやはり大切で、生活する上でも安心だと思う。

市民・企業・行政が連携した実践的な地域防災体制づくりを推進するため、避難場所となる小中学校の備蓄物資を拡充するとともに、避難場所運営研修などの充実を図ることとしています。

また、いただいたご意見の趣旨を踏まえ、災害時に主体的な行動ができる子どもを育成するため、成長段階に応じた災害活動支援教育の充実を図っていくことについて、次のとおり記述を追加しました。

P13

○防火・防災教育の推進

将来の自主防災活動の担い手を育成するため、災害時に主体的な行動ができるよう、成長段階に応じた災害活動支援教育の充実を図るなど、幼少年期から継続した防火・防災教育を推進します。

【変更内容】

災害時に子どもたちが主体的な行動ができるようにするため、災害活動支援教育の充実を図る旨の記述を追加しました。

創造戦略 2 共生社会創造戦略

2-② 子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり

地域のイベントやごみ拾いなどのボランティア活動に子どもが主体的・自主的に参加しやすくしてほしい。

<主な意見>

- 地域のイベントなどは学校や児童会館の運営委員などで行っても良いと思う。
- ごみ拾いのボランティアをやってみたい。
- 町内の人と公園のごみ拾いなどをしたい。
- ごみなどを一つもなくして、きれいなまちにしたい。

将来のまちづくりの重要な担い手である子どもたちが、地域のまちづくり活動に様々な形で関わる機会を拡充していきます。

また、いただいたご意見の趣旨を踏まえ、子どもたちが主体的に地域のまちづくり活動に関わっていく機会を創出・拡大していくことについて、次のとおり記述を追加しました。

P20

○児童会館の活用促進

子どもの多様な学びの機会の充実を図るため、子ども自身がまちづくり活動に主体的に関わる機会の創出・拡大や、地域の住民との交流を通じた学びの場として、児童会館の更なる活用を推進します。

【変更内容】

児童会館の更なる活用を推進し、子ども自身がまちづくり活動に主体的に関わる機会を創出・拡大する旨の記述を追加しました。

第2節「産業・活力」

創造戦略4 札幌型産業創造戦略

4-② 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進

札幌・北海道ならではの魅力を生かした観光イベントや観光拠点の創出・魅力向上を図り、それを効果的に発信することで、道外や海外からの観光客を増やすと良いと思う。

<主な意見>

- 道外や海外の皆さまに、「おもしろい」「楽しかった」と言ってもらえるイベントや会社をつくっていききたい。
- 観光資源が豊富なので、道外からの観光客を増やしたら良いと思う。特に、雪は珍しいので、冬の観光の魅力を広めるべき。
- 札幌独自のものを強調したり、魅力を積極的に世界に伝えれば、海外からの観光客を増やせると思う。旅行に行くなら札幌が良いと思われるようなまちにすると良いと思う。

自然、雪、食、文化芸術、スポーツなど、札幌・北海道ならではの魅力資源を発掘・創出し、磨き上げ、市民にも来訪者にも魅力的なまちづくりを進め、札幌らしい新たな都市観光を創造していきます。

また、ターゲットとする国や地域のニーズに合わせた効果的なプロモーション活動を展開するとともに、受入環境の充実を図り、観光消費の拡大、付加価値の向上を推進していきます。

これらの取り組みを展開するに当たっては、子どもを含む様々な世代の視点を生かしていくことが重要なことから、いただいたご意見の趣旨を踏まえ、次のとおり記述を追加しました。

P36

○様々な世代の視点を生かした魅力の向上

多様な観光ニーズに対応するため、子どもを含む様々な世代の視点を生かしながら、あらゆる世代が楽しめる札幌・北海道らしい魅力的な観光資源を発掘・創出し、その魅力を積極的に活用していきます。

【変更内容】

子どもを含む様々な世代の視点を生かしながら、あらゆる世代が楽しめる札幌・北海道らしい魅力的な観光資源の発掘・創出・活用を図っていく旨の記述を追加しました。

第3節「低炭素社会・エネルギー転換」

創造戦略 7 低炭素都市創造戦略

7-③ 自然との共生とみどり豊かな都市づくりの推進

子どもや高齢者もみんなが外で思いっきり遊べる公園がほしい。

<主な意見>

- 外で思いっきり遊べる公園があった方が良い。
- 子どもがゲームや漫画に夢中になっているので、外で遊んだり散歩をしたりできる場所があった方が良い。
- 子どもやお年寄りも楽しめる公園を増やしてほしい。
- みんなの意見を聞きながら公園をつくることには賛成。

地域の子どもや高齢者など、市民のご意見も聞きながら、都心周辺部などに新しく公園を整備することや、地域特性や市民の希望に応じた公園のリニューアルに取り組みます。

また、いただいたご意見の趣旨を踏まえ、子どもの主体的な遊び場づくりを推進していくことについて、次のとおり記述を追加しました。

P69

【公園の機能再編や子どもの遊び場づくりの推進】

○子どもの主体性を育む遊び場づくりの推進

子どもの自主性、創造性、協調性を育むために、子どもを見守るボランティアの養成などを通じて、既存の公園や公共空間などを活用しながら子どもが自由に遊べる場（プレーパークなど）の拡充を図ります。

【変更内容】

子どもの主体的な遊び場づくりを推進していく旨の記載を追記しました。

創造戦略 8 次世代型エネルギー創造戦略

8-③ 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進

節電などの取組は大切なので、自分でできることを実践したい。環境について、学校や青少年科学館など身近なところで勉強できることは良いことだと思う。

<主な意見>

- 節電などのエコ活動は誰でもできることなので、積極的に呼びかけてエネルギー消費量が少ないまちにしてほしい。
- エアコンを使うのではなく、窓を開けたり薄着をするなど自分でできるエコ活動を実践したい。
- 学校や円山動物園、青少年科学館など身近なところで環境について勉強をするのはとても良いことだと思う。動物に関しても学べるし、環境のことたくさん知ることができる。

札幌市のエネルギー消費量を減らしていくためには、市民一人一人の節電の取組が重要です。そのため、市民の節電への取組を促進することや、公共施設でも積極的に省エネ・創エネの取組を実践することで、市民へ節電などエコ活動の大事さを呼びかけていきます。

また、各幼稚園・学校では、節電などの日常的な取組や、環境に関する学習活動を進める「エコスクール宣言」をしており、「さっぽろって環境ウィーク」などを設けて、環境に関する取組を重点的に行っています。

このような環境教育を進めていくためには、いただいたご意見のとおり、環境関連施設における体験型の環境教育も重要であることから、次のとおり記述を追記しました。

P77～78

○環境教育の推進

環境に配慮したライフスタイルの定着を促進するため、学校や青少年科学館、円山動物園（次世代エネルギーパーク）における環境教育を推進するとともに、子どもたちが体験を通じて、考えながら学び、実践していくための学習機能の強化を図ります。

【変更内容】

子どもの頃から様々な環境教育を受けることができる環境づくりを進めていく旨の記載を追記しました。

(2) その他の主な意見

戦略編全体に対する意見

<p><主な意見></p> <p>○人口減少局面を迎えるに当たって、札幌市も新しい考え方で、効率的にまちづくりを進めるべき。この10年間できっかけとして、まちづくりの方向性を変えていくべき。</p> <p>○3つのテーマはどれも素晴らしく、協力していきたいと思う。このビジョンがたくさんの人に広めていければ良いと思う。</p> <p>○みんなの意見を聞いてつくった戦略はきっと良いものになるし、何十年経っても札幌は良いまちであってほしいので、戦略は10年だけではなく、ずっと続けば良いと思う。</p>	<p>今後の人口減少社会の到来や福島第一原子力発電所の事故をきっかけとしたエネルギー政策の見直しなど、札幌を取り巻くいろいろな状況が大きく変化していくことが見込まれています。</p> <p>そこで、これまでの物の見方や捉え方を変えていく、いわゆるパラダイムの転換が求められているという考えの下、10年後の目指すべき札幌の姿と、どういうことに取り組んでいくのかを示し、これらを着実に進めていくことで、未来の子どもたちに札幌の魅力を引き継いでいきます。</p> <p>また、今後、このビジョンの内容を分かりやすく示したパンフレットを作成し、たくさんの市民により深く理解してもらおうとともに、この先10年を超えた未来も、魅力ある札幌のまちづくりを進めていきます。</p>
--	--

第1章 創造戦略

第1節「暮らし・コミュニティ」

創造戦略 1 地域福祉力創造戦略

- 1-① 市民の孤立を防ぐ支え合いの環境づくり
- 1-② 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり

<p><主な意見></p> <p>○おじいさん、おばあさんを市民が助け、安全に暮らせるようにすると良いと思う。</p> <p>○孤立をしないようにするには、必ず誰かがその家に訪問すると良いと思う。</p> <p>○お年寄りが増える中、施設のバリアフリー化や介護施設を増やすことを進めると良いと思う。</p>	<p>一人暮らしの高齢者が増えていく中、市民同士の支え合いや助け合いが重要になります。このため、地域での見守り活動の充実や区役所などによる相談・支援体制を拡充し、安心して暮らせるまちづくりを進めます。</p> <p>また、高齢者や障がいのある方のニーズに即したサービス提供体制の充実に努めていきます。</p>
---	--

意見の概要	市の考え方
創造戦略 2 共生社会創造戦略	
2-① 地域で共生する環境づくり	
<p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○お年寄り子どもがたくさん交流できる場所をつくり、昔遊びや昔の文化を教えてほしい。 ○児童会館を利用していると、会館行事等で違う学校の児童や地域の人と交流できて良いと感じる。 ○交流し、ふれあえる場として、児童会館や学校だけでなく、市全体で行うお祭りなどを増やしてほしい。 	<p>子どもから高齢者まで、障がいのある方もない方もお互いを尊重しながら共に暮らせる地域づくりが重要です。このため、児童会館を活用した多世代交流の促進や、学校、福祉施設など様々な交流の場を創出・拡充します。</p>
2-③ 歩いて暮らせるまちづくり	
<p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○お年寄りが増えてきているので、交通機関をもっと使いやすくしてほしい。 ○公共の乗り物の便利さを、もっと追究してほしい。 ○お年寄りや障がいのある人でも公共施設を楽に使えるようにバリアフリー化を進めてほしい。 	<p>高齢者が増加していく中、自家用車を利用しない市民も安全で快適に暮らせるまちづくりを進めることが重要です。このため、ノンステップバスの導入支援や地下鉄駅周辺のバリアフリー化などを通じて、自家用車に依存しない、歩いて暮らせるまちづくりを進めていきます。</p>
創造戦略 3 地域マネジメント創造戦略	
3-① 地域活動を活発化する環境づくり 3-② 地域マネジメントの推進	
<p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティが大切だということが分かった。支え合うときも一緒に暮らすときも、どんなときもコミュニティ関係を築けていれば、安心・安全にみんなが過ごせると思った。 ○お祭りやイベントが増えてほしい。 ○まちづくりの情報を分かりやすく伝えてほしい。 	<p>人と人のつながりによる地域コミュニティの形成には、担い手の育成や活動主体間の連携による活動の活発化などが重要です。このため、地域の中心的組織である町内会への加入促進や、学校、PTA、町内会などの連携促進などを通じて、地域コミュニティの形成を促進していきます。</p>

意見の概要	市の考え方
-------	-------

3-③ 雪と共存した暮らしの推進	
<p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○冬、学校に行くときに歩道に雪がたくさん積もっていて、いつも車道を歩いているので、通学路だけでも除排雪を強化してほしい。 ○お年寄りの家を、若くて元気な人が雪かきをしてあげると良いと思う。 	<p>冬の安心な暮らしを確保するためには、効果的かつ効率的に雪対策を進めていく必要があります。このため、地域の高齢者などを対象とした福祉除雪などへの若い世代の参加の促進や、子どもたちの安全を確保するための通学路の除排雪の強化などを通じて、雪と共存した暮らしの実現を目指していきます。</p>

第2節「産業・活力」

創造戦略 4 札幌型産業創造戦略	
4-① 食の魅力を生かした産業の高度化	
<p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○北海道は「食の宝庫」とも言われているので、食の魅力を生かすのはとても良い事だと思う。 ○食べ物がおいしいまちにしてほしい。 ○安全な食べ物があって、海外にも送れるまちにしたい。 	<p>札幌・北海道の食の魅力を生かして、産業の活性化を図っていくことが重要だと考えています。そこで、食の安全・安心の確保に向けた取組を強化するとともに、機能性食品の開発等による新たな価値の創造からアジアを始めとする道外への販路拡大まで、産学官の連携を促進しながら一貫した支援を行っていきます。</p> <p>また、食関連企業や研究機関等の誘致・集積を図ることで、付加価値を創出しやすい環境づくりを併せて進めていきます。</p>

4-③ エネルギー転換に対応した環境産業の創造

<主な意見>

- バイオ発電や地熱発電の実現に向けてお金を使ってほしい。
- 再生可能エネルギーや新エネルギーの実用化が進む技術が発展すると良い。
- 再生可能エネルギーの技術開発に取り組む会社を応援するだけでは不十分。活用まで支援すべき。

エネルギー関連技術の産業化を推進するため、省・創・蓄エネルギーやエネルギーマネジメントといったエネルギー関連技術の研究開発や事業化に取り組む企業、研究機関を支援します。

また、道内市町村などとも連携しながら、再生可能エネルギー関連技術の集積や企業誘致を進め、環境分野における新たな価値を創造する産業を育成していきます。

4-④ 超高齢者社会に対応した健康・福祉産業の創造

<主な意見>

- 超高齢社会が問題となっているので、福祉産業を育てることはとても良いことだと思う。
- 札幌は人口が少なくなっていくので、健康な人を増やしていくことが必要。

超高齢社会の進行に伴って生じる新たなニーズや課題に対応する健康・福祉関連のものづくり・サービス産業を振興するとともに、医療・医薬、機能性食品などの研究開発を促進していきます。

さらに、先端医療技術を活用して、健康・福祉分野における新たな価値を創造する産業の振興にも取り組んでいきます。

創造戦略 5 都市ブランド創造戦略

5-① 世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開

<主な意見>

- 国際化を進めるのは良いことだと思う。
- 国際的なイベントや大会の開催に取り組めば、海外とつながることができるので良いと思う。
- 国際化を進めるために、外国人が困ったときに外国語で案内する施設をつくる、小学校から外国語で会話ができるような教育をすると良いと思う。

札幌市の人口は減少局面に入ると想定されており、こうした中で経済の活性化を図っていくためには、世界の活力を取り入れていくことが必要です。

このため、企業の海外ビジネス展開や海外からの集客を促進するため、アジアや北方圏に対するマーケティング活動や MICE 誘致の取組を強化するとともに、世界で活躍できる人材の育成・就業支援、留学生誘致を推進していきます。

さらに、住んでいる外国人のニーズを踏まえた生活・医療・教育支援を強化するなど、外国人が活動しやすい生活環境づくりにも取り組みます。

5-② 創造性を生かしたイノベーションの誘発

5-③ 広域連携ネットワークの強化と投資環境の充実

<主な意見>

- 芸術が豊かなまちになってほしい。
- 魅力的な会社を増やしていくべき。
- 会社の本部を札幌に呼び込むことで、雇用を開拓し、若い人が住むようなまちづくりをしていけば良いと思う。
- 失業率が低く、就職率の高いまちを目指してほしい。低賃金も改善し、暮らしやすいまちにしてほしい。

創造的なものづくりにチャレンジするベンチャー企業や起業家を生み育てるとともに、創造的な活動と多様な地場産業との交流を促進し、イノベーションを誘発します。

また、道央圏における主要な空港や港湾などとの交通ネットワークの強化や、都心の魅力づくり、低い災害リスクを生かした本社機能の移転受入れなどを推進します。

こうした取組を通じて、企業集積を図るとともに、様々な投資を呼び起こし、若い人にも魅力的な働きやすいまちづくりを進めていきます。

5-④ シティプロモート戦略の積極展開

<主な意見>

- 札幌ならではの魅力を伝えれば、もっとたくさんの方が集まってくれると思う。
- みんなが幸せになる笑顔のまちになってほしい。
- スキー人口が減っているので、スキーの魅力を通じて、札幌の魅力を広めたい。

創造的な文化芸術活動、豊かな食文化、環境との共生、健康な暮らしなど、札幌ならではのライフスタイルの魅力を市民が感じ、その魅力を高めて世界に発信するシティプロモートの取組を、笑顔キーワードとするシンボルマーク「SAPPORO（サッポロスマイル）」も活用しながら推進していきます。

また、冬季スポーツ国際大会など、札幌らしい国際的なイベントの開催等を通じて集客を図ることを通じて、札幌の魅力を発信する人を更に増やしていきます。

創造戦略 6 産業人材創造戦略

6-① 将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用

<主な意見>

- もっと身近に札幌の歴史を感じられる場所があると良い。
- 小中学生が語学をもっと学ぶ機会を増やせば良いと思う。
- 自然体験のようなもっといろいろな体験ができるものをつくと良いと思う。

子どもたちが、札幌の自然、歴史、文化芸術に親しむ機会や、科学的リテラシー、勤労観、職業観を育む学習機会、また、食育や国際理解教育の推進など、様々な教育プログラムを充実させることで、幼い頃から創造性や国際感覚を育み、札幌・北海道の将来を担う創造性豊かな人材を育成していきます。

また、小学校外国語活動や中学校外国語科の学習など、子どもが英語等により親しみ、コミュニケーション能力を培う学習を充実していきます。

6-② 誰もが活躍できる社会の実現

<主な意見>

- 少子化が進むのは、働く母親が子どもを預けられないからだと思うので、保育園の整備をしてほしい。
- 一人親や共働きのある家庭もあると思うので、夜までやっている保育園を増やしたら良いと思う。
- 高齢者にとっても暮らしやすい環境にするため、「みんなで協力していくまちづくり」によって、経済の発展を目指すことが重要だと思う。

働く意欲のある女性の活躍しやすい環境をつくるため、女性の潜在的な力を生かした起業や就職への支援を行います。あわせて、女性が子育てなどと仕事の両立ができるように、保育所整備などの子育て支援環境の充実やワーク・ライフ・バランスの普及啓発などに取り組んでいきます。

また、豊富な社会経験・知識・技能を持つ高齢者が企業やソーシャルビジネス等の場で活躍するための支援を進め、生涯現役社会の実現を目指していきます。

第3節「低炭素社会・エネルギー転換」

創造戦略7 低炭素都市創造戦略

- 7-① 持続可能な集約型の都市への再構築
7-② 多様な活動路支える環境に優しい交通体系の確立

<主な意見>

- お年寄りに優しいまちにするために、地下鉄などの施設は階段だけではなく、エレベーターを付けてほしい。また、バスや電車もバリアフリー化すれば良いと思う。
- バスの本数が少ないところや、夕方までしか走っていないようなところは、本数を増やしてほしい。
- 環境のために、自転車を使いやすくしてほしい。そのために、自転車のルールを広めて事故を減らすことや、自転車の専用通路・駐輪場の整備を進めてほしい。

超高齢社会を見据えた公共交通を中心としたまちづくりを進めるために、札幌市だけではなく、民間企業の力も生かしながら、地下鉄駅にエレベーターなどをつなげることや、高齢者なども乗りやすいノンステップバスの導入支援などによって、公共交通を使いやすく便利なものにしていきます。

また、自転車は便利な乗り物ですが、歩行者との接触事故の危険性や、歩道への駐輪により歩行者が歩きにくくなるなどの課題もあります。そこで、駐輪場の整備や自転車走行空間の明確化に向けた取組を進めるとともに、自転車を安全に乗ってもらうためのルールやマナーを市民に知ってもらうようにしていきます。

創造戦略8 次世代型エネルギー創造戦略

- 8-① 次世代エネルギーシステムの普及促進

<主な意見>

- 福島原発事故から学び、原子力発電に頼らないためにも、市民一人一人が積極的に節電に取り組むことが大事だと思う。また、再生可能エネルギーなど安全な発電を利用することで、札幌は安全に住むことができるまちになると思う。
- 太陽光や風力、雪冷熱など使って、自分たちでエネルギーをつくれるようにすれば良いと思う。
- 寒さに強い住宅や二酸化炭素の排出の少ない自動車を増やすと良いと思う。

低炭素社会と脱原発依存社会の実現を目指して、みんなが太陽光発電を使うことや節電などの省エネ活動に取り組むことを促進していきます。

また、寒さに強い住宅を建てることや、二酸化炭素の排出量が少ない自動車の購入を支援していくことで、エネルギー消費量を抑えた市民の生活を支えていきます。

8-② 自立分散型エネルギーネットワークの展開

<主な意見>

- 太陽光で発電して、余った電気は周りの建物で融通すれば良いと思う。
- エネルギーネットワークは中心部でと書いているが、その他の地域でも設置した方が良くと思う。

札幌のエネルギーを無駄なく使っていくために、既に整備されているエネルギーネットワークも使いながら、ビル同士のエネルギーの共有などを促進していきます。

また、今は法律で規制されていますが、効率的なエネルギー利用を進めるため、熱と電力のエリア内での相互利用などについて、検討を進めていきます。

なお、このエネルギーネットワークは、新さっぽろ駅周辺、真駒内駅周辺など、他の地域のまちづくりにおいても検討を進めていきます。

8-④ 循環型社会の構築

<主な意見>

- ごみの分別はみんなができることなので、しっかりとやるべき。
- ごみのリサイクルをみんなでやって、ごみを減らすべき。
- ごみのポイ捨てをやめさせて、綺麗な札幌にしてほしい。

ごみの減量やリサイクルを進めるためには、市民や企業が環境を良くしていこうという意識を持ち、実践してもらうことが大事です。そのため、生ごみを堆肥にすることや、ごみを減らす工夫をしてもらうために、札幌市も支援していきます。

また、ごみを有効に活用するために、ごみを燃やすときに発生するエネルギーを活用して、発電などをしていきます。

さらに、札幌市をきれいなまちにしていくために「ポイ捨て等防止条例」によるポイ捨てへの取り締まりや、ボランティアの監視員による不法投棄の防止などを、町内会や環境美化に取り組んでいる団体とも協力し合いながら進めていきます。

第2章 戦略を支える都市空間

<p>公共交通を利用して自家用車から出される二酸化炭素を減らすことは良いと思うので、公共交通をみんながもっと利用するようにしてほしい。</p> <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○路面電車や地下鉄、バスを利用して自家用車から出される二酸化炭素を減らすことは良いと思うので、公共交通をみんながもっと利用するようにしてほしい。 ○自動車を使わないまちづくりはとても良いと思う。 ○地下鉄を清田区や南区など、札幌市全域に広げてほしい。 	<p>超高齢社会を見据えた公共交通を中心としたまちづくりを進めていくために、路面電車をループ化することや、高齢者なども乗りやすいノンステップバスの導入支援などにより、公共交通を使いやすくしていきます。</p> <p>また、子どもの頃から公共交通の便利さや大切さを知ってもらうために、今後も、公共交通を活用したイベントなどを実施していきます。</p> <p>なお、地下鉄を更に伸ばしていくことは、将来の人口減少や高齢化の進行、地下鉄を伸ばす工事にたくさんの費用が必要なことなどから判断すると、困難な状況にあることから、バス事業者などとも連携しながら、公共交通を便利なものにしていきます。</p>
---	--

第3章 戦略の展開に当たって踏まえるべき行財政運営の視点

<p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民が主役のまちづくりを進めるのは良いと思う。自分が主役という意識があると頑張ろうと思えるし、嫌だと思ふ気持ちが減ると思う。 ○札幌のまちをより良くするためのこのような取組を知らない人もいたので、もっといろいろな人に知ってもらえると良いと思う。 ○子どもや市民の意見がよく聞かれるまちが良い。 	<p>パラダイムの転換による新たな視点と価値観を踏まえた行財政運営を着実に進めていくためには、徹底した情報提供と市民議論を通じて、「自分たちのまちは自分たちがつくる」という市民自治を更に深化させていくことが必要だと考えています。</p> <p>今後も、区民協議会やまちづくり協議会等との意見交換会や子ども議会との更なる連携などを通じて、市民の声を適正に市政に反映させていきたいと考えていますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。</p>
---	---

意見の概要

市の考え方

<p>○すごく良い内容だけど、まずはそれを実現できるのかということと、その費用はどうするのかということを知りたい。全部を一度にはできないから、一番簡単なところからやれば良いと思う。</p>	<p>戦略編では、目標とする成果指標やロードマップを設定して、取組の進捗管理をしっかりと行っていくこととしています。</p> <p>今後、この戦略の方向性や視点に沿って、財政的な検討を加えた中期実施計画や行財政運営の計画を策定し、戦略の着実な推進を図っていきますが、その際には、市税収入などの財源確保に向けた取組と、事業の見直しなど、歳出面の見直しとを両輪で推し進め、安定的な行財政運営を行ってまいります。</p>
<p>○まちづくりを進める上で、市民や企業との協力を深めるともっと良くなると思う。</p> <p>○北海道や道内市町村との協力は良いことだと思う。</p>	<p>ご意見のとおり、複雑・多様化する社会的課題に対しては、社会が一丸となって取り組むことが効果的であり、市民・企業などとの連携・協働を深化させていくこととしています。</p> <p>また、道内市町村等との関係についても、「北海道の発展なくして、札幌の発展はない」との考えの下、北海道や道内市町村との互恵的な関係を築いていく「道内連携推進プロジェクト」を通じて具体的な連携強化を図っていきます。</p>

札幌市まちづくり戦略ビジョン<戦略編> パブリックコメント意見集

平成25年（2013年）10月発行

企画・編集：札幌市市長政策室政策企画部企画課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

電話 011-211-2192 FAX 011-218-5109

ホームページ：<http://www.city.sapporo.jp/kikaku/vision/>



さっぽろ市
01-A02-13-1315
25-1-68